

心まあい

50周年記念誌



社団法人 新潟県臨床検査技師会 中越支部

「やまあい」のいわれ

皆さんの手もとに、いろいろな情報をお届けしたいのですが、情報過多ともいわれる今日でもなかなか思うにまかせず、

このたび少しでも不足をおぎなえばと思い、かわら版を発行することにしました。種々お伝えしたい情報が集まった時、随時発行したいと思います。

愛称があった方がよいと思い、また、多少でも検査に関係があるものと考えて染料植物の一つ「山藍」としてみました。

中越の山間にもちなみ、仲間意識が生まれるのではと考えて「やまあい」としました。

(やまあい創刊号より転載)

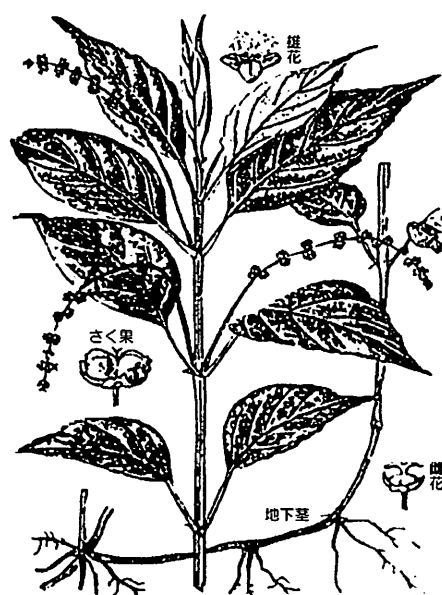
やまあいの図鑑から

「山 藍」 トウダイグサ科

日本の暖地、台湾、中国に分布する多年生草本。高さ30~40cm、茎は四角で葉は広い、針形きょ歯があり暗緑色、長い葉柄を持ち対生する。春季葉液に細い花柄を出して緑白色の小草生花をつける。

葉に *indican* を含み、*indigo* を製するに用い、わが国における最も古い染料植物で、万葉時代以前から褶染用に用いられた。

(タデ科のアイとは、別の植物です。)



中越支部発足50周年記念誌「やまあい」発刊にあたって

(社)新潟県臨床検査技師会中越支部長

坂西 清



中越支部発足50周年という記念すべき年を迎え、記念誌を発刊する事が出来ましたことは会員の皆様、そして諸先輩方、また各業界各社の皆様のご理解とご協力によるものであり、ここに感謝を申し上げます。

昭和31年に発足し、衛生検査技師法が制定される2年も前から活動されていた事は凄いといしか言い様がなく先輩方の長きに渡る苦悩と努力、そして成功の歴史があり、この歴史があるからこそ中越支部が50周年を迎えられたのだと感じております。そして現在でも発足当時に活躍された方々が中越支部の技師会活動をサポートして支えてくださり私ども支部理事としては非常に心強い限りであります。

中越支部での現在までの活動内容(写真や資料、やまあいなど)を拝見いたしますと、発足当時から現在まで各職場、組織を超えた活発な活動をなされてきたことが伺い知ることが出来ます。盛んに開催されてきた研修会、現在まで120号を越える号数を発行してきた機関紙「やまあい」、そして毎年一泊二日で開催される会員同士の交流を目的とした「ふれあい研修会」など活発な活動が行われてきました。この活動を受け継ぎさらに発展させていくことが私たちの役割だと感じております。

現在の医療情勢で検査室はFMS・ブランチ化などが進み、検査技師が置かれている状況は非常に厳しい状態にあります。しかし状況は変化しても医療には検査が必要であり、現場には検査技師が必要であると考えます。時代を先取りし、どのような状況になっても対応できる「必要とされる検査技師」、さらに医療人である検査技師の使命、役割をいつでも認識し業務をする。この様な検査技師を目指していかなければならないと思います。また私たち役員も様々な角度から検査技師という仕事を捕らえ内容を吟味し、研修会などを企画していきたいと思っております。

中越支部は発足50周年を迎えましたが、どの様に社会が変化しても対応していくパワーとまとまりを感じます。

全国のどこの技師会にも負けない、このパワーとまとまりを今後も持ち続け、更なる中越支部の発展を祈念いたしまして、簡単ではございますが発足50周年記念誌発刊の挨拶とさせていただきます。



(平成17年度中越支部ふれあい研修会より)

《中越支部発足50周年への祝辞》

中越支部50周年記念によせて

—— 臨床検査技師の地位向上と新潟医療技術専門学校使命 ——

新潟医療技術専門学校校長

近 寅 彦

(社)新潟県臨床衛生検査技師会・中越支部発足50周年を心よりお祝い申し上げます。

歴史を緋みますと、そもそも貴技師会の嚆矢は、昭和25年4月に新潟県細菌検査技術者会（会長伊藤泰一新大細菌学教授）の創設に始まり、貴支部はその4年後の昭和31年10月に「県衛生検査技師条例に基づく対策と技術者相互の親睦を図る」ために中越地区衛生検査技術者会として発足されました。昭和35年には衛生検査技師法が公布され、翌年には第一回国家試験が実施されますが、このため貴会は国家試験の講習会を行い、240名受験し211名合格（合格率87.9%）という素晴らしい成績を挙げられました。

昭和46年に、ようやく私どもの新潟医療技術専門学校が貴会をはじめ各界の全面的なご指導ご支援のもとで、臨床検査技師の養成をはじめたのですから、本校開校まで専ら貴会が国家資格を持つ臨床検査技師確保の重責を担い、国民の健康づくりや医療のため、大きなウエートを占める臨床検査の発展に寄与されて来られた絶大なる功績に対して深甚なる感謝を捧げます。

皆様の後継者は、本校の臨床検査技師科卒業生は2,738人を数え、お蔭様で全国各地の医療機関や医療検査所の分野で、国家資格をもって活躍しておられます。現在、本校ではこの臨床検査技師科の他に、視能訓練士科と救急救命士科をも併設し、医療スタッフの養成に努めていますが、本校の今日あるのは、本校卒業生を多く擁する貴会のご指導ご支援はもとより、歴代校長には何れも新潟大学名誉教授の松田勝一先生（新大薬理学元教授）、宮村定男先生（新大細菌学元教授）、堺薫先生（新大小児科元教授）の就任をはじめ、教職員の努力、新大医学部の各教室からの外来講師の先生方の熱意、卒業生の母校愛、の賜物であり重ねて感謝申し上げます。

いま、日本ではご承知のように、「安心・信頼の医療の確保と予防の重視」をスローガンに掲げて保健・医療制度の改革が進められております。この推進のため、現在、国民運動として展開されている「健康日本21」生活習慣病の予防として、メタボリックシンドローム対策が今後の健康診断・保健指導として、全国の市町村（医療保険者）で実施されます。この生活習慣病の予防や健康増進対策の重要なインジケータは臨床検査のデータに他なりませんし、また今後の保健や医療にとっても「臨床検査の価値」は一層大きくなっていくものと思惟します。

しかし、ここで、いつも問題なのは、臨床検査薬による「検体検査値の施設間格差」です。この格差の解消のための「検査値の標準化」について、「臨床検査薬の品質管理」や「臨床検査技師の能力向上」と併せて、関連学会の協力により早急の解決を願って止みません。

幸い、全国臨床検査技師教育施設協議会が「臨床検査学教育の充実と教員の資質の向上」のために日本臨床検査学教育学会を今年8月に発足させる運びですので、貴会は既設の日本臨床検査学会、日本医学検査学会とも緊密に連携され、新しい保健医療制度に即応した「国民のための臨床検査」として我が国の保健医療の推進に大きく貢献されること期待しております。

おわりに、新潟県臨床検査技師会・中越支部が50周年を契機に「その使命」に向けて益々発展されますことをお祈り致しますと共に、併せて皆様のよき後継者の養成に懸命に努めております本校への相変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ祝辞と致します。

中越支部設立50周年によせて

北里大学保健衛生専門学院前学院長

内 田 晴 吉

新潟県臨床衛生検査技師会中越支部創立50周年を迎えられましたことに心よりお祝い申し上げます。

中越支部は昭和31年に設立され今日まで多くの役員の方々を始め会員の皆様が新潟県の医療を支える活動を継続してこられたご努力に対し、関係された皆様のご努力に心から敬意を表します。

これまで皆様方から頂きましたご厚志に対しまして、北里大学保健衛生専門学院を代表し一言お祝いと御礼を述べさせていただきます。

本学院は大和町（現在の南魚沼市）に昭和57年臨床検査技師養成科80名で開設しました。

その後、栄養科（現管理栄養科）、看護科（現保健看護科）、臨床工学専攻科と医療系職種を養成する学科を増設し学生数も現在800名に達し、平成20年には1,000名の学生を擁するまでになりました。この間に県内の関係団体から多大なご支援を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

学科開設当時の検査室では、化学・細菌・一般などの検体検査が主流で、検査室では多くの臨床検査技師が用手手法での検査に携わっていました。特に、検査項目の多い生化学検査においては多くの技師が、毎日多数の検体・試験管と向き合っの作業が行われていました。そのため、臨床化学を担当していた私としましてはいかに速く・正確にデータを出すための技術を修得させ、現場に出てすぐにも皆様のお役に立てる能力を身につけた卒業生を送り出すことを目標として教育にあたったことが思い出されます。

特に中越地区の皆さんには学校創設以来、3年次の臨床実習施設をお願いし、現場での作業の流れや患者さんに対する接し方など、学内では体験できない多くのことを学生に経験させて頂きました。

昭和62年からは国の指導により中越地区以外の新潟県内の病院に臨床実習をお願いして現在に至っています。

学院が送り出した卒業生は4,000名を越え、その内臨床検査技師養成科の卒業生は1,700名以上となり、卒業後の就職先も新潟県職員として病院や保健所の職員、新潟県厚生連病院、その他の病院、検診センター、検査センターを中心として就職しています。近年では医療職種だけでなく医療器具販売、一般企業など幅広い分野に就職しており検査技師の職域の広がりを改めて感じています。

新潟県内からの学生や県外出身者を含め12%以上の臨床検査技師養成科卒業生が新潟県内に就職していますが、これもひとえに皆様方のご協力の賜と深く感謝申し上げます。今後ともより一層のご指導をお願い申し上げます。

さて、我々臨床検査技師教育に携わる者にとって、「社会が求める資質を身につけた学生をいかに育てるか」、一方「学生が希望する多様なニーズにどれだけ応えられるか」という相反する事柄を常に満足させる教育が必要となってきました。

検体検査が主流の時は、ほとんどの学生が検査は“縁の下の力持ち”的な発想で、患者さんと接する事はほとんど考えていなかったため、教育も技術力の伝授が中心となっていました。生理機能検査や採血業務が増加する中では、人とのコミュニケーション能力をいかにして養うかが、検査技師教育のもう一つの大切な要素となっています。

学院でもコミュニケーションについての講義や演習などのプログラムを導入していますが、皆様方のご指導のもと実際の患者さんとふれあう場における体験が大きな効果をもたらすと思われまので

今後ともよろしくご指導をお願いします。

現行の「臨床検査技師等に関する法律」では3年以上の教育を受けた者が国家試験受験資格を取得するとなっております。アメリカでは大学などを卒業後臨床検査の専門知識について履修することでメディカル テクノロジストの資格が取得し検体検査を行うことができます。

我が国の臨床検査技師は検体検査、生理機能検査いずれの業務にも従事できる素晴らしい制度だと思います。医療の高度化につれて、生理機能検査業務の拡大や患者に対する検査内容・結果の説明などを実施する病院が増加するなかで臨床検査技師に求められる資質の向上については検査技師教育の4年制化への移行についての要望が日本臨床衛生検査技師会から出されて久しくなります。

少子・高学歴化が年々加速している状況の中で、3年間で高度化する医療技術に適応できる資質を身につけることはこれからは困難になることが予想されます。将来的には4年制教育に移行する可能性が高まっていると思っておりますが、単に教育年限を延長するだけでなく、今後の検査技師養成について、医療制度における検査技師の役割、業務内容、職種の独立性の確立、専門分野担当教員のリカレント教育など多くの問題について、臨床衛生検査技師会や関連する団体と十分に検討を行っておくことが必要ではないかと考えています。我々も教育機関としての責任をもって意識の高い検査技師を養成し社会に送り出すことが臨床検査技師の真の資質向上をもたらし、医療全体の質の向上に役立つことを期待しています。



(1990年ふれあい研修会より)



(1990年ふれあい研修会より)

中越支部発足50周年おめでとうございます

（出）新潟県臨床検査技師会
会長 松田和博



中越支部発足50周年にあたり、坂西支部長はじめ中越支部会員の皆様へ心よりお祝い申し上げます。ひとくちで50周年と言いますが、私が現在51歳ですので生まれたころに発足したことになります。歴史の長さを、身をもって感じると共に先輩諸氏のご尽力に対し深く敬意を表します。

私が中越支部の方々と直接お付き合いするようになったのは、新潟支部長になった頃からと記憶しています。

その当時の中越支部長は故青木千鶴氏で、その体躯同様に威風堂々としていて、理事会でも当時の三役に臆することなく意見を述べられ、新参者で小さくなっていた私にとっては、凄い方だなと感心させられました。その後、もの静かで紳士的な山崎支部長さん、理論的で行動派の山口支部長さん、体に似合わず神経の細かい現副会長の吉原支部長さんと交代され、現在のジャニーズ系の坂西支部長までお付き合いさせていただいております。また、歴代支部長さんを支えた支部役員の方々や、先輩方のバックアップも見事だと思います。

その成果として、中越支部フォーラムやふれあい研修会等々、毎回先見性ある内容の研修会開催や、「すこやかともしびまつり」「糖尿病をしるつどい」への協力等、公益事業にも積極的に参画し、独自の支部活動を実践しています。これは県技師会並びに他支部の規範ともなっていると考えます。

また、平成13年には第42回東北医学検査学会を初めて長岡市において開催し、見事に成功させました。山口実行委員長はじめ支部会員の獅子奮迅のご活躍は、まだ記憶に新しいところです。

忘れようとしても忘れられないのが、一昨年7.13水害に引き続き発生した中越地震です。150名を超える多くの会員が被害に遭われました。今も復興の最中と思いますが、被災者の方々には改めましてお見舞い申し上げます。

その地震直後に関わらず、病院検査室機能の早期復旧に奔走した多くの会員。人知れず患者、住民への救援ボランティアに従事された会員等々、当技師会も誇りに思います。

本年、当技師会も法人設立20周年を迎え、共に喜びを分かち合う事が出来ましたが、今後の医療環境の変化、検査業界の厳しさは、決して予断を許さない状況と考えます。しかし、幾多の試練を乗り越えて来た中越支部は、60周年、70周年そして100周年とますます発展して行くことを確信して、お祝いの言葉とさせていただきます。

誠におめでとうございます。

中越支部50周年記念によせて

上越支部長 稲田新一



中越支部発足50周年おめでとうございます。

50周年といいますと昭和30年代の初め、つまり私とほぼ同時期生まれ、同時代を過ごしたと言う事です。それを考えると感慨深くなります。

一口に50年と言いましても歴代の会長をはじめ多くの先輩役員、会員の努力によりここまで続けてきたわけですが、上越支部と違い会員数も2倍近い400名と多くの意見とニーズに応えていかなければ成り立たないわけですのでご苦労は大変だったと思います。

皆さんにとって支部とは技師会のどういう位置づけにありますか。もちろん時代と共に位置づけが変わってきたと思います。発足当時から20年くらいまでは交通機関も今のように整備されてなく、講習会が東京など都会の場合、最低1泊しなければならず時間も費用もかかりました。上越支部から新潟へ講習会に行くのも1日かかりでした。そのため支部で講習会や講演を企画していただくと助かりました。しかし今は新幹線や高速道路ができ、また所得も上がり少し時間と費用を工面すれば日本中の講習会や講演が聞けます。それまでの何か役に立ちそうな講習会等を探す時代から、たくさんある講習会等から役に立つような物を選ぶ時代になりました。つまり探す時代から選ぶ時代になりました。

その中で支部の活動も今まで通り、日臨技や新臨技のコピーのような事を企画しても会員は集まってくれません。支部も会員から選ばれる企画が必要になりました。

また、もう一つの支部活動の役目として親睦と情報交換があります。もちろん県技師会でも出来るのですが、やはり支部には及びません。

中越支部の活動は「すこやかともしびまつり」や「ふれあい研修会」など2日間にわたる研修会を何年間も継続的に企画されている事は私にとって驚きです。「継続は力なり」と言われていますが、よき伝統を守りまた新しい伝統を作り上げていく歴代役員の方々の努力の賜だと思えます。

今年から技師会もホームページを立ち上げました。またそのインターネットを利用し会員のニーズに応えるべく、新たな支部活動も必要になりました。隣の私たち上越支部とも交流会を開きお互いに切磋琢磨していきたいものです。

中越支部の益々のご発展と会員の皆様のご活躍をお祈りしています。

中越支部発足50周年記念によせて

下越支部長 齊藤大造



中越支部発足50周年大変おめでとうございます。

記念誌が発刊の運びになりましたことを、心からお祝い申し上げます。

中越地区は、特に忘れる事のできない中越地震から今年で2年が経過します。この間、中越地区の皆様への復興に向けたご努力には頭の下がる思いです。県技師会員の一人として、震災にあわれた皆様に改めてお見舞い申し上げます。

中越支部会員は、新潟支部に次いで多い大世帯（約400名）で、支部運営にあたり役員の方々のご指導と会員各位の努力の成果が50年を迎えることとなったと思います。

医学の進歩発展は目覚しく、検査の分野でも例外ではなく臨床検査の自動化・システム化および検査の運用体制等が急速に変化しているのが現状です。近年の医療費抑制、診療報酬改正、DPC（日本版DRG-PPS）の導入は、医療現場が経済的側面を無視することが許されない状況になりました。

検査もこの50年の間に中央検査室体制からサテライト検査室化（病棟検査室など）、検査漬けからEBM（根拠に基づく医療）による検査依頼、患者さまサービスの向上のためのTAT（検査依頼から結果報告までの時間）短縮など医師が中心であった医療から患者さま主体の医療に変化してきました。これらの状況を踏まえ、支部として地域のニーズに応えるべく検査知識、技術の向上の機会を如何にして設けるか。また会員相互の交流を如何にして維持発展させていくか支部の役割が益々重要となって来ています。

今も皆様の心の中に生きている小林虎三郎先生の“米百俵の精神”で、今後とも臨床検査技師としての優秀な人材発掘に心掛け、努力していく事で臨床検査の価値を高めていくものと思います。

中越支部の益々のご発展と会員の皆様のご活躍を祈念致しております。

中越支部発足50周年記念を祝して

新潟支部長 堀川良則



中越支部発足50周年、誠におめでとうございます。心からお慶び申し上げます。

中越支部は、1956年に発足され、以来、この50年を顧みますと、臨床検査業界を取り巻く環境が大きく変化してまいりました。臨床検査の検査技術と検査機器は著しい進歩を遂げ、精密で正確な検査結果と迅速な報告が臨床検査技師に課せられ、高い専門性を有することを責務とし、その果たすべき役割は、今後ますます重要になってくるものと思われまます。また、中越支部は、水害や地震などの天災に見舞われ、険しい道のりを、苦労を重ねながら困難を一步、また一步と克服し、乗り越えてこられたこととご推察いたします。「継続は力なり」とは、よく言ったもので、ここに至る50年間の歩みに力を尽くされた歴代支部長をはじめ、役員、会員の皆様のご協力とご尽力の成果が、大変すばらしい業績となって形となり、現在の中越支部があるものと考えております。さらに、中越支部の団結力と実行力には驚かされ、私たちの新潟支部も見習わなければいけないと痛感し、深く敬意を表します。さて、今日のわが国においては、高齢化や地球環境問題など、さまざまな変化に対応することを求められ、医療情勢もますます厳しさを増し、ランチ化やFMSなどのアウトソーシングの波が臨床検査の現場に押し寄せてきております。

私たち臨床検査技師が、チーム医療のなかで、臨床検査技師でなければ出来ないことを考え、情報の共有化および水平展開を実施し、更なる生涯学習、自己研磨を図ることがこれからの技師会活動の急務とし、今後は更に各支部相互の交流を深め、広い視野から実り多い時を一緒に過ごしたいと考えております。

どうか、今後とも地域に根ざした活動を末永く展開され、中越支部の発展にご尽力賜りますようお願い申し上げます。

私たち新潟支部も、時代にふさわしい支部を目指し、更なる飛躍をしてまいりたいと考えております。

中越支部におかれましても、この記念すべき50周年を新たな飛躍への第一歩として会員の皆様と力を合わせ、活動を展開されますよう期待するものであります。

最後に、中越支部のますますのご発展と、会員の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈りいたしまして、お祝いの言葉といたします。

中越支部発足50周年記念によせて

佐渡支部長 笠井 彰



中越支部発足50周年おめでとうございます。

このような記念すべき時期（行事）に私のような者に一筆という事で眞に恐縮しております。坂西支部長はじめ役員の皆さんまた、中越支部をここまで纏め上げてくれた諸先輩方々には大変敬意を表します。

さて、ひとえに50周年と言いますが1世紀の半分。一言では言い表せないくらい長い年月かと思えます。私が検査技師になったのは20数年前。その頃はまだ測定機器があまり普及しておらず、手間がかかる手法が主流の時代でした。その前30年間の先輩方の技術・感また数々の努力は私たちも見習う必要があります、その努力こそが検査技師の医療での必要性を獲得するに至ったのではないのでしょうか。

会員も支部発足当時は何名くらいいたか私にはわかりません。ちなみに35周年時には300名くらいだと聞いておりますが、今では380名もの大所帯となり、それに伴い主義主張の多種多様化は必至かと思われませんが支部役員の的確な指導と会員各位の努力でココまでこれたのではないのでしょうか。中越には有名な病院も多くあり、その中で臨床検査技師として縁の下の力持ち的な役割を果たしているの言うまでもありません。一昨年の中越地震の際には職場・自家に多大な被害があったにもかかわらず皆さんが復興に向けて協力している姿が目に見えます。

医療情勢も益々厳しくなり、職場の縮小などによるリストラや退職者の補充無し、ランチなど私たち臨床検査技師にとって一番過酷な状態が続いています。（組合的発想になってしまいました。）その中で一人一人が自分の仕事に自信を持ち、日々技術向上に努め検査技師の必要性をアピールできれば縦のつながりはもちろん横のつながりも広がって60年、70年…いや100年、200年と技師会活動を続けていけるのではないのでしょうか。

県技師会も法人化し20周年を向かえ益々活発になっております。新潟支部、上越支部、中越支部、下越支部、そして佐渡支部共に横のつながりを密にこれからも頑張っていきましょう。

最後に新潟県臨床検査技師会中越支部のこれからのご発展ご活躍をお祈りいたしまして私のお祝いの言葉とさせていただきます。本当におめでとうございます。

検査技師会創設期の思い出

初代支部長 栗原貞次郎

中越支部発足して50周年を迎えることとなりました。私が大東亜戦争に参加して、終戦の翌年海外から復員、昭和23年 県立長岡保健所細菌検査室勤務の当時、長期に亘る戦時体制のもとで食料不足や悪環境のため、住民の体力低下は極度に達し、また、海外からの帰還者が多く騒然とした世代の中、コレラ・腸チフス・パラチフス・赤痢等、法定伝染病が県内各地に発生、県衛生部は挙げてその対策に追われ防疫活動の第一線部隊として県衛生研究所所長 篠川先生の指揮の下、連日病原菌検索が行われていました。しかし検査に従事する技術者が少なく、旧陸海軍で教育を受けたものが主体に衛生研究所と保健所の技術者20数名でした。時々発生する集団検査のため共に発生地に出張して共同作業で夜遅くまで検査が続くことが多く忙しい毎日であったがお互いに相互の交通を深めることができ楽しい時代でもありました。やがて県では伝染病多発による病原菌検査が欠くことのできない状況から検査技術者充足が急務となり保健所を初め県内各地の病院から多くの検査技術者を志す者が衛生研究所を会場に3ヶ月間衛生研究所に泊り込みで参加する（通称 篠川学校）これらの者が県内医療機関に在り検査業務の推進役となり県内検査業務に多大な貢献をすることとなる。しかし私たちの身分、給与に関しては医療労務者とししか見られず度々上司の部長、課長に話し合いをしたが思うようには解答が得られなく組織の力が必要だと考え、昭和25年4月に衛生研究所と保健所技術者会を結成（20数名）。

昭和27年に新潟県検査技術者会を設立、県下一円の会となりました。篠川先生の口添えもあり会長に新潟大学長 伊藤泰一先生、副会長に県立衛生部長 君健夫先生にお願いする。

昭和31年9月に全国に先駆けて県細菌条例を県会に通過させる等、明るい道を開いた次第です。

昭和43年4月、県技師会が支部制を新設することとなり中越地区を中越支部と改名されました。これまでの50年間、幾多の困難に遭遇いたしました。代々の支部長、役員、会員の一人一人が一致協力して無事前進してこの会を盛り立てていただきました。この会を設立した一人としてその喜びはひとしおです。これからも一層会員みんなで一致団結して医療行政を担う一員として検査技術の推進に励まれ技師会の発展に寄与されますようお願いするものです。



(中越支部35周年式典より)

中越地区技術者会発足のあとさき

第三代支部長 小林 元 康

50周年おめでとうございます。益々の隆盛を祈念して止みません。50周年と一言で申しましても半世紀……発足当時、受付のお手伝いをした一人と思うと歳を感じずにはおられません。県技術者会は、既に発足し昭和29年には長岡地区技術者会も発足しておりました。地区組織の結成の動きも何となく感じており、検査技師法制定の動きも昭和27年全国技術者会の結成以来活発化し会報をはじめ県支部通信もだされ、幾つかの法案が幻のように消える情報が流されておりました。厚生省の中でも特に予防衛生研究所では一定の資格を持った技術者を必要とし、一方では昭和22年頃から「衛生検査指針」が編纂されており細菌検査編・赤痢検査編などの20冊余りに分冊されたマニュアルが出されておりました。省内で国家資格制度を急がれたのは、当時の環境状況にもあったと思います。特に伝染病や性病の蔓延が背景にあり、腸チフス・赤痢菌やコレラ菌が有症者から分離されれば即「診断名」となり伝染病予防法が適用され強制隔離でありました。医師の診断より先に無資格の検査技術者に決定されてよいのか？医師の立場がないがしろにされる場合も懸念されたからで、一定の教育を受け免許を与えられたものにしなないと、誤った場合の責任問題もあったのではないのでしょうか。昭和20年代から30年代の中頃までは生活が疲弊しており検査技術を駆使した防疫活動が無かったら日本の人口は半分になったろうとも云われ、幻のように消え去る法案に各都道府県条例を以って確立しようとなり、新潟県ではいち早く取り組み「新潟県細菌検査技師条例」が組上にのほり、技術者会役員をやきもきするなか伊藤会長（元 新潟大学長）の「おれに任せろ」の一言に信頼をよせ、昭和31年9月に県議会で可決され、あつという間の出来事に驚かされたものでした。この条例可決によって、後に給与体系が変わり不健康業務従事者には8%の調整給が付加されるなど待遇改善が図られたところです。また次は国家資格と大きな希望がわいたのも事実であります。発足総会当日は長岡保健所の栗原さん、長岡赤十字病院の橋本さんなどの世話役の方々、技師法が国会で成立すれば全員が国家試験を受ける必要がありその為の勉強会をどの様に取り組めばよいのかなどが念頭にあり、人数等の把握が必要だったのでしょうが私などの若僧には国家資格ばかり優先しており大同団結が必要だと思ひ人数さえ多ければと思うばかりでした。県の細菌検査技師条例もできたばかりで、当日初めて中身を聞かされ来春には試験を受けねばと思ひを新たにしたところでした。身分の確立と資格向上を目標とするのは今日でも変わりありませんが、保健所に在籍したことで伝染病の集団発生や食中毒発生が相次ぎ事業計画が時折、変更しなければならぬ程でした。特に9月に多く発生があり事業計画を少なくし、変更可能な組み立てをして乗り切ったように記憶しており、それ程微生物検査に重きがおかれたように思います。業務の流れを思うと昭和32年に売春防止法の施行のころから動きが変わりだし循環器検診に主眼が変わり、流行予測調査などに主力がおかれ環境汚染調査に変わってきているのではないのでしょうか。検査業務もその時代によって次第が変わっていきます。その流れをよく見極めて時代を先取りしながら進まなければならないと思います。時代が変わっても変わらないのは検査成績の重要度です。医師の診断・治療・予後そして栄養指導と蔑ろに出来ない仕事です。皆さんの日々の精進に期待してやみません。



(支部35周年誌編集委員会より)

思い出すままに

第六代支部長 佐藤賢吉

中越支部発足50周年、心からお慶び申し上げます。思い起こせば昭和31年10月、栗原さんの呼びかけで26名が長岡温泉に集い、中越支部が発足致しました。当日集まった人々で鬼籍に入られた人も多く、また退会されたりして、現在技師会会員は3名、当日は欠席でも人々当時の会員は6・7名しかおりません。やはり50年という月日はながいのかなあと感じられます。

私も、昭和27年に病院に就職したとき当時の病院長より、少し経ったら『検査』をやってもらおうと言われたが、『検査』とはどんなところだろうというのが実感でした。当時は結核症や寄生虫症の多い時代でした。6月頃より国立小千谷療養所で、1年先輩の目崎さんより結核菌の培養を指導していただき、病院では『臨床検査法提要』を片手に、主に内科の医師より寄生虫卵の鏡検を教わりながら、少しずつ検査の道を進んでいきました。

昭和29年1月下旬より、当時の県『衛生研究所』において約3ヶ月にわたり、牛肉より肉水の作り方や肉水をベースに寒天培地の作り方及び赤痢菌の釣菌などの指導を受け、細菌検査の基礎実習を行いました。また血清検査で補体採取のためモルモットの心臓穿刺や溶血素の作り方を学んで帰りました。この期間中に検査技師講習会のための腸内細菌のテキストの作成〔ガリ版〕を手伝ったのも思い出の一つです。

昭和33年には『衛生検査技師法』が制定され、県技師会の講習会とは別に、国立小千谷療養所・小千谷病院・魚沼病院の3施設の会場持ち回りで勉強会をおこなった。何しろ初めての分野も多く、はたしてこれで合格するのか不安な気持ちで東京にむかった。発表では名前があり一安心であった。

当時の検査科は試薬・培地の調整はほとんどが自分でしなければならなかっただけに、大変ではあったがおもしろみもあった。当時検査は右肩上がりの状態であったので、少しでも診断に有意義なものを求めて講習会に参加し、また文献も求めたものであった。

昭和45年には『臨床検査技師法』が制定され、46年には受験の為の指定講習会を受講する。中越地区会場は長岡赤十字病院で計8回、すし詰め会の場で『医用電子工学概論・情報科学概論』などまったく初めての分野も受講する。国家試験の受験地は長野。これも運よく合格できた。ある人は近くの人の答案用紙が見えたので、その人は間違っているのを教えてやりたいと思ったが、後からよく見たら違っていたのは自分の方であったなど笑えないような話もあった。技師会では支部で16年、県で10年の間、役員に加えていただいた。この間に技師会の研究会を長岡で開催（4回目）することも出来た。これらは他の多くの役員諸氏に支えられて出来たものであった。改めて当時の役員諸氏に感謝を申しあげたい。

現在技師会をとりまく環境は当時と比べものにならないくらい厳しさを増しております。日夜研鑽をつんで更なる向上を目指して頂きたいと思います。研修会等を見ると出席者は当時も現在もあまり多くないように思われます。『技師会』とは、会員に『何かをしてくれる』ところではなく、会員自らが技師会を『積極的に利用』しなければなりません。そして更なる向上を目指していただきたいと思います。

小生、現在は職を離れて10年余、土に親しむべく努力をしておりますが、草や虫に翻弄されております。昨年と同様にしたつもりでも今年はいまよくゆかないことなどしょっちゅうです。『己が炊く飯さえ堅し、柔らかし、思うがままにならぬ世の中』のとおり、思ったとおりになればかえって恐ろしいものかも知れません。『春来れば柳は緑・花は紅』を信じてめげずに行くつもりです。勿論技師会にも時々は出させていただくつもりです。その時には宜しく願いいたします。

最後に技師会の益々の発展を祈念して、つたない一文を終わります。

中越支部発足50周年によせて

第九代支部長 山崎 将 宏

中越支部発足50周年おめでとうございます。

昭和62年、柏崎地区の回り番の理事（2年）として選拔され、次は地区選出枠外の理事として、副支部長、支部長と10年間役員を務めさせて頂きました。まず思い出されるのは平成3年「支部35周年記念誌」を手がけたことです。今回も、その時いっしょに取り組んだ方々が編集でご活躍と伺い筆に力が入ります。

さかのぼって、県技師会に加入したのは昭和33年頃で、県は国に先立ち、県条例で細菌技術者制度を設定しました。また、衛生検査技師法が制定され、それに伴い国家試験に関する講習会が開かれました。それがきっかけで加入しました。柏崎地区は当初上越支部に属し、第1回の国家試験が終わり技師会員も増えて中越支部に移ったようです。

私が検査界に、つまり養成所に入ったのは昭和29年、考えて見ますと私も50年以上技師として現在も週に一日働いておりますが、自分がたどってきた道が歴史になる年になり、いささか感慨です。

この機会に思い出すまま書きとめてみたいと思いますが、まずは失敗の数々です。今は器械も改良され、こんな時代から開放され嘘のようでしょう。

- ・心電計 記録紙はオシロペーパー、駆動はゼンマイ、ネジを巻き忘れて現像しても何も写っていない、患者さんはもうお帰りになったあと……
- ・梅毒検査 血清を非働性にするのに恒温槽もなく、ちょっと目を離したら温度が上がりすぎて凝固、もういくら遠心器をまわしても血清は搾り取れません。
- ・血液像 夏、少し油断していたら蠅になめられた。冬、病棟から寒い廊下を歩いて暖房の部屋に入ったとたんに溶血起こして消えちゃった。
- ・幹熱滅菌器 サーモがついていないので、余熱を考慮してある程度で切らないと、中で綿栓、新聞紙がブスブス。
- ・光電比色計 まだ国産が少なく、ドイツのツァイス製、比色セルが高価で口が欠けても大事に使い、よく手を切りました。
- ・培地 粉末がそろそろ出始めましたが単品を一つ一つ秤量、そんな関係で必要量を大きく上回ってつくり、シャーレもガラスでした。食中毒でも発生すると徹夜で培地作り。
- ・脳波計 メーカーで一週間の講習を受講。当時、家一軒が建てられるほどの金額。ミニチュア管の時代でなかなか安定しませんでした。

等々苦い経験が彷彿としてきますし、隔世を感じます。

検査に関する本も少なく、金井泉著「臨床検査法提要」この本をバイブルのように使いましたし、職場が結核療養所でしたので小川辰次著「結核菌の検索と応用」も座右の書でした。

最後になりましたが、中越支部のますますのご発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



支部活動の思いで

第十代支部長 岩本久司

中越支部発足50周年を心からお祝い申し上げます。

当時の支部活動について書こうと思いましたが、すでに資料は散逸してしまい、おぼろげな記憶に頼るしかありません。

山崎支部長の後を受け支部長になったのは平成9年と記憶しております。私はこれ以前に中島、佐藤両支部長の下で3年、山崎支部長の下で2年、都合5年支部役員を務めてまいりましたが、あまり一生懸命やったという記憶はありません。そんな私に支部長の職務が務まるはずがないと考えていましたが、栗原さん（顧問）や、故青木さん（当時県技会副会長）から強く押されて渋々引き受けたものです。

中越支部は発足当時から活発な活動で、他支部会員からうらやましがられるほどでした。理事になると、毎月一回の定例理事会があり、事業は3月の総会・特別講演に始まり、施設代表者会議、球技大会、ふれあい研修会（一泊2日）、糖尿病の集い、支部研究会と盛りだくさん。その上2ヶ月に1回支部機関紙「やまあい」の発行がありました。大きな行事の前には臨時の理事会も開かれました。理事になって、自分の時間が削られることが非常に苦痛でしたが、支部長を引き受けた以上、そんな気持ちを押し殺してやらざるを得ませんでした。幸いにも、ご一緒した理事の皆さんはまじめで、有能な人が揃っていて、私を守り立ててくれました。毎月の理事会に欠かさず遠方から駆けつけてくれる理事にはほんとに頭が下がるおもいでした。また、顧問の栗原さんは、ご高齢にもかかわらず毎回自転車で駆けつけてくれて、的確なアドバイスをいただきました。いろんな事業の立案、業者や施設関係者との交渉、そして実行。理事全員がほんとに一生懸命動いてくれました。私はただOKサインを出すだけ。

生涯教育制度が始まったことによって、事業内容を調整するようになりました。如何にしたら会員が効率的に、バランス良く、A・B・C領域のポイントを取得できるのかについて。

こんな忙しさにもかかわらず、わが理事達は手を抜くこともせず、新たな提案を持ち出してくるのでした。コンピューター勉強会、長岡市主催の福祉健康祭り「ともしび祭り」（2日間）への参加がそれです。コンピューター勉強会では、休日のコンピューター学院の施設を格安で借りExcelを使って表の作り方などを勉強しました。パソコンに造詣の深い理事の手作りの勉強会でしたが、大変な人気となりシリーズ化されました。

長岡市主催の福祉健康祭りへの参加は、検査技師の知名度が他のコメディカルに比べあまりに低いのに嘆き、「何とか一般の人たちに知ってもらおう」という私たちの熱い思いから発したものです。毎年1万人を超える入場者があるこの祭典に参加することは大きな意義があると考えたからです。当初、市の実行委員会に出席すると、ブースの割り振りやスペースの問題があり、あまり歓迎されない雰囲気でした。与えられたブースはメインストリートに面した放射線技師会のブース（3間巾）に比べ、検査技師会は場末の狭い（1.5間巾）ブースだったように記憶しています。このスペースの半分で検査技師のいろいろな仕事をパネルで紹介し、もう半分で血液型判定をしたところ、大変な人気ですぐに予定した数に達してしまいました。この人気に気を良くした実行委員会は、翌年からは、中央に広いスペースを用意してくれました。順風満帆にことが運んだように見えますが、これを実現するには大変な苦勞があったのです。施設外でこうした検査行為をするには、指導する医師の同席と臨時診療所

開設の申請を保健所に届け出なければならなかったのです。さらに申請には数万円の申請代が必要でした。これには保健所在籍の理事さんがいろいろ手を尽くしてくれて、あまり支部の負担もなくクリアできました。

私的な都合で任期2年で、無理やり吉原さんに支部長を押し付けてしまいました。いろいろな事業を手がけ、すべてが成功裏に終えられたのは、一丸となって動いてくれた理事の皆さんと、協力していただいた会員の皆さんのおかげと深く感謝いたします。

最後にひとつ。施設対抗の球技大会（バレーボール、卓球）。罵声にも似たヤジと笑いの中、大いに盛り上がったものでした。会員相互の親睦が最も図れた行事の一つだったと思います。現在行われなくなったのは会員の高齢化のせいでしょうか？……少し残念です。

十年一昔。思い返すとほんとになつかしく、楽しい日々でした。多くのことを学ばせてもらいました。一緒にいた理事たちを今「同志」と感じるほど親近感を持っています。一同会して杯を交わしたいと思う今日この頃です。

良き先輩、仲間に支えられて

第十一代支部長 吉原正弘

中越支部が発足以来50周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

そして、理事として10数年間携わさせて頂き、良き先輩や多くの仲間に支えられ活動させて頂きましたこと、大変嬉しく思います。

私がこの歴史と伝統のある中越支部に関わらせて頂いたのは35才のときであり、当時、役員改選の選考委員を命ぜられ、その委員会で故青木千鶴さんから「あなた、理事を受けなさい」と言われ、その頃の私の職場は検体検査の外注化や技師会員の減少で県内を騒がせていたこともあり、何とかしなければならないとの思いから今日まで理事を受けさせて頂いています。

技師会活動においては、毎月1回の理事会に中越全域から選出された理事が業務終了後の6時30分頃集合し、事業の計画や技師問題、また、各自の職場での問題等で時間を忘れ夜遅くまで活発な議論を交わしたこともありました。理事会終了後も数人の先輩達と夕食を食べにラーメン屋へ行き、話が尽きず夜中になることもしばしばでした。

また、県技師会にも関わらせて頂きましたが、最初の1～2年は理事会に出席しても何の事だか良く理解できない内容で、ただ聞いていることが多かったように思います。しかし、先輩から「理事会に出たら中越支部の理事は必ず1回は発言しなさい!」と言われ、大先輩方を前にドキドキしながら発言したことを思い出します。

その後、学術担当となり学術マニュアルを作成しなければならないとのことで故青木さんと山口(長岡西病院)さんと頻りに会を開き、現マニュアルの初版を作り上げました。

これまで理事を務めてこれたのも安心して頼れる先輩や仲間がいたからなのですが、そうこうしている間に改選の度に頼っていた先輩や仲間が次々と退任され心細くなって行く中で、気が付くと自分が古株?になり第11代支部長にならざるを得ない状況になってしまいました。

よもや自分が支部長なんてことは考えもしなかった状況で、山崎支部長さん、岩本支部長さんの頃を思い出し、とにかく伝統を基本に理事と議論しながら事業を推進してきました。

中越支部活動は年齢を越えた多くの会員の交流が活発であると県外技師からも高い評価を頂いています。また、中越支部の理事は何方も真面目で協調性があり、且つ、気がつき自ら積極的に行動する方が多く私の不安や心配はあっという間に消え去り、3期6年間の支部長職を全うできたことは職場のスタッフを始め共に活動させて頂いた理事の方々のお陰だと思っております。この記念誌を借りて感謝申し上げます。

50周年記念誌発行掲載の機会を頂き技師会活動を回想し思うがままに書かせて頂きましたが、技師会活動は臨床検査技師が社会に認知されるためには必要な組織活動と考えています。中越支部という極一地域の活動ですが、伝統を引き継ぎながら無駄を省き新しいことにチャレンジし、少しずつですが輪を広げて行くことが必要と考えます。

技師会役員は技師会活動が好きな人だけが集まっている会ではありません。臨床検査技師という職業が好きだから真剣に熱中できるんだろうと思います。

これからも一人でも多くの会員が理事を経験者され、また、技師会活動に参加して頂くことが会の発展に結びつくものと思います。

私の技師会活動はまだまだ続きます…が(気持ち?)、これからの技師会活動を担っていく若い技師

の“良き先輩、仲間”にして頂けるよう頑張りますので、宜しくお願い致します。

《技師会中越支部心情》

- ・ 勇気だし 参加してみて 皆仲間
- ・ 技師長も 一度話せば 良き親父
- ・ 悩み事 困ったときの お助けマン



長岡市すこやかともしびまつり

「夢の中で」

長岡赤十字病院 濁川 昇

7月下旬、梅雨がなかなか明けず、今日もまた雨が降っている。私、今病院内の図書室で昼休みを過ごしている。前日、職場のビアパーティーで夜遅くまで飲んでしまって寝不足気味であった。ついウトウトと眠ってしまった。テレビで元首相の田中角栄が収賄で逮捕されたというニュースが頻繁に流れている。病院の生化学検査室でカッカしながら検査している私がいる。自動分析器のオートラブのチェーンが絡みうまく流れない。比色部しか使えない状況である。いつものことではない。ライツ光度計のよりはましであると諦めている。ある人は流パラで手をべとべとしながら蛋白分画をしている。又ある人はコレステロールの試薬でボロボロに穴があいている白衣で仕事している。除蛋白操作でミキサーを動かしている人がいる…。「時間ですよ！」の声で目が覚めた。早々検査室に戻った。

30年前、自動分析器が始めて導入され、検査試薬は殆んどキット化された。GOT90点、GPT90点等々、当然マルメもなし、病院内の稼ぎ頭、花形であった。当然、とても忙しい時代であった。部長、技師長のご足労があったと思うが増員、産休交代要員も割りとスムーズに入れることができた。よき時代であったと思う。

現在、自動分析機は当時と比較にならないほど格段に進歩している。極少量の検体で何分とかからずデータが出てくる。いかに正確なデータを迅速に患者に示すのが仕事である。

年々医療費改定で保険点数が削られている。病院全体も緊縮財政である。検査も然りである。何をやってもチョット待てである。大変厳しい時代である。ただいつの時代も忙しいのが現状である。

さて将来はどうであろうか。5年後位は医療費削減、DPC等々で検査項目の変化があるかも知れないが検査自体としてはあまり変わらないと思うが10年後、20年後の検査技師はどうなっているのだろうか？ ①病院内では機器ロボットが検査をおこない技師は機器メンテナンス、精度管理のみおこなっているかも知れない。②遠隔医療が発達し患者が家にいながらパソコン、携帯電話等を指、身体に触れて検査結果がでてきて技師が説明をおこなっているかも知れない。③遺伝子検査が主流を占めDNAを抽出してるかも知れない。④再生、人工臓器が開発され身体の一部がサイボーグ化され使い方を説明してるかも知れない。等々である

医療は日々進んでいる。私たちは注意深く周りを見て、流れに乗らなければならないと思う。若者諸君、頑張れ！最後に中越技師会に携わったご先輩諸氏に感謝致します。



(自動分析機日立705型)

細菌と私パート 2

厚生連長岡中央総合病院 金子陽子

新潟県臨床衛生検査技師会中越支部設立50周年おめでとうございます。歴代役員の皆様と会員の努力の賜でございます。35周年記念誌を読み返してみますと、設立メンバーとして厚生連からも多くの先輩が参加されていました。なつかしい顔が思いだされ当時の熱気ある意気込みが感じられました。また私は35周年記念誌の寄稿で、楽しく仕事し細菌の仲間が増えることを期待しておりました。

あれから15年早いものです。お蔭様で私は現在も多くの仲間と楽しく細菌検査（現在は微生物というのですが）を続けておりますことを感謝いたしております。15年の間には新潟県微生物研究班の班長を務めさせていただきました。班長を務まるか心配でしたが職場をはじめ多くの皆様に支えられた4年間でした。役員特権ではありませんが自分の勉強したいテーマを中心にさせていただきましたので楽しかったことが思い出されます。どうぞ皆様も役員のお話がありましたら快くお引き受けし楽しんでいただきたいと思います。平成10年には中越支部の推薦で篠川至学術賞を受賞いたしました。ほんとうにありがとうございました。私生活も含めて生まれて初めての賞でしたのでとても嬉しかったことが思いだされます。篠川賞に恥じないようにと思いながら仕事してきましたが、微生物分野の進歩もめまぐるしく変化し幅広い知識を必要としており、最近では追いついていなのが実状です。技師会誌・技師会の研修会・各種の勉強会への参加で新しい情報を得ておりますが「1回の参加で新しいこと一つ覚える」をモットーとし欲張らないことにしています。しかしその一つもすぐ忘れてしまっている今日この頃ですが何とか落ち込まずにいます。

微生物検査も包括医療時代をむかえ変化してきております。まだ機器が高価なので一部の施設でしか普及しておりませんが細菌の同定にも遺伝子検査が導入されはじめました。微生物結果報告の遅れで訴訟もおきており、休日・夜間の微生物検査体制も問われております。迅速と効率性も求められています。臨床にコメントをつけた結果報告やグラム染色は大事といわれて久しいのですが、ようやくその重要性が臨床に生かされようとしております。私達の中越では日赤病院を中心にグラム染色の勉強会を立ち上げ臨床に役立つ細菌検査をめざして日々研鑽しております。マニュアルは大事ですが、マニュアルに縛られず自施設のバックグラウンドをよく見極めて検査することが重要だと考えます。今までやってきたことの継続は易いのですが新しいことに勇気をもって第一歩を踏み出していきたいものです。

今後も中越支部がますます充実し発展できますよう願っております。



(1996年支部総会より)

激変する医療環境への対応

県立小出病院 秋山俊彦

中越支部50周年おめでとうございます。諸先輩をはじめ、会員の皆様の前向きな取り組みによりこの日を迎えることができたものと敬意を表します。

15年前になりますが、35周年の記念誌に衛生検査技師になりたての頃感じたことを率直に投稿させて頂いたところ先輩から辛口のご指導を頂いたことが昨日のように思い出されます。この15年の間の医療の発展は目覚ましいものがありますが、臨床検査の発展と検査を取り巻く状況の変化にはより大きく厳しいものを感じます。私は20年以上前から収支を把握し効率的業務への改善を提案したり、生化学検査も含めた診察前即時検査を実施したり、精度管理の見直しを行い改善を提案したり、臨床支援のために検査システムを導入したりして来ましたがなかなか理解を得られない状況が続きました。5年後10年後には協力が得られるようになり今では当たり前になっていることばかりなのにその当時に賛同して貰えなかったのは私の不徳の致すところです。

ところが、最近の技師会に参加すると若い技師が支部長になる等熱意とパワーを感じることも多くなりました。FMSやランチ等我々には厳しく暗い話題が多くなる中に明るい変化を感じるのは私だけではないのではないのでしょうか。医療費抑制の政策が益々強くなり臨床検査実施料の引き下げと包括化が進む中でも、医療の大切さ、臨床検査の重要性は変わることはないはずですから、臨床検査技師の未来は決して悲観する必要はないと考えます。

但し、我々がチーム医療を担う職種として認められることが必須であり、検査技師の為の仕事を行っているようでは難しい。病院全体を把握し、臨床検査技師として何が出来るか何をしたら良いか常に考えて行く必要がある。目の前の与えられた仕事をこなしているだけではチーム医療の一員として認められないのではないのでしょうか。若い技師には我々年配者にはない柔軟性と元気を感じます。あとは失敗を恐れず挑戦すること、所謂行動することが明るい未来に繋がるものと考えます。

研究への意欲も大切だと思います。データの向こうに患者さんがいる。常識は非常識。私は疾患とデータの関連性を常に意識して検査結果を見ていたことから、コレステロール値だけでは説明出来ない現実を感じ、脂質の質の重要性を証明するための疫学調査を多くの医師や医療関係者の協力により実施することが出来ました。研究結果は中性脂肪の見直しやメタボリックシンドロームと云う概念に繋がり生活習慣病の改善に寄与出来たものと思っています。一昨年からは始めた『明るい健康を考える会』も今年7月2日には第3回目を開催することが出来ました。今年はメーカーの協力により、テレビでおなじみの『血液さらさら度』を希望者に測定するサービスも実施できました。こういった取り組みを行う事で医療関係者や地域住民とのつながりが出来、臨床検査への理解、認知度も高まるのではないのでしょうか。私は来年3月で定年退職するので後を引き継いで取り組んでくれる技師を募集しています。臨床検査の未来のために行動しましょう。



(自動分析機日立706型)

ふり返って

嵐南メジカルセンター 石 黒 克 子

中越支部発足50周年記念、心からお喜び申し上げます。

「記念誌によせて」ということで、原稿の依頼をいただきました。技師会の役員もしたことがなく、人ごとだと思いこんでいました。

嵐南メジカルセンターは、新潟県臨床検査センター協議会に加入しており会長施設としての当番が、5年ごとに回ってきます。そのため運営する側の大変さは、身にしみてわかっていますので、私なんかで良いのだろうか、文章なんか殆ど書いたことがないのに大丈夫だろうか、悩みましたが、少しでもお役に立てばと思いお引き受けすることにしました。

ふり返ってみますと、検査の仕事を始めたのが昭和50年からで、もう30年以上たちます。最初から中越支部に入会していましたが参加する機会が多く有りませんでした。その少ない中でも印象に残っているのがバレーボール大会と一泊二日のふれあい研修会です。バレーボールや卓球は下手の横好きですので参加することに意義がある…黒ずくめのムームー様の服を着た人がうわさの青木千鶴さんと初めてお会いして興奮したものです。研修会などでも、殆ど一人での参加でしたが、すぐ溶け込める雰囲気です。これからもよろしく願いいたします。

勤め始めの頃、約30年前ですが、検査の殆どが用手法で今と違って手間も時間もかかり検体数や項目数によっては、残業の連続でした。Reitoman-Frankel法のGOT.GPT、自家調整したZurkowski法での総コレステロールHagedoron-Jensen法での血糖（滴定法のため測定は200mg/dlまででそれ以上になると元を希釈して再測定となる）ASLOにCRP、毛細管によるHt、Fonio法による血小板数とあげれば限りがありません。大量の多項目の検体をいかに手際よく正確に処理していくか、忙しければ忙しい程「今日はいい仕事をしたなあ」とちょっぴり良い気分になったものです。

臨床検査の進歩は日進月歩で、他の施設からみたら大分遅れましたが、我が検査室にも自動化が進み昭和60年頃には、生化学自動分析装置や多項目自動血球分析装置が導入され、順次 電解質や血糖、ヘモグロビンA1cなども自動化されました。測定法も進歩し標準化が進められ基準値の共有が出来るようになってきています。古いものは消え新しい検査項目もどんどん増え、特殊検査に至っては項目名さえ言えないものも有ります。受付、測定、報告、これらの作業も手書きでの処理が殆ど無くなりコンピューターによりシステム化されています。50過ぎのおばちゃんも慣れないパソコンで苦手な文章作りに四苦八苦しています。今は、精度管理に精を出しています。（検体測定のデーターはもちろん、測定機器の管理、検体採取測定までの保存状況の管理等）

私の30年の間にも新しい出会い、別れが有りました。永遠の別れとなった後輩、宮島宏さん、友人の山内由利子さん、そのたびに、この人の分まで頑張ろうと思ったものです。由利子さんが35周年のとき中越支部の役員で、一生懸命だったのが思い出されます。

検査技師になりたいと思った時、資格を得て初めて検査結果を報告した時、誰かの為に役に立ちたい何かをしたいと、ワクワク、ドキドキした気持ちをあらためて思い出ことができました。これからももっと進歩し続けるでしょうが、何年たっても緊張感と前向きな気持ちを持ち続けたいとおもいます。

最後に50年間この中越支部を支え発展させてくださった諸先輩の方々に敬意を表し、下手な文章でも書く機会を与えていただいた事に感謝いたします。新潟県臨床検査技師会並びに中越支部のますますの発展と会員各位のご健勝をお祈り申し上げます。

中越支部発足50周年によせて

株式会社アルプ 広井峰行

中越支部発足50周年心よりお祝い申し上げます。

記念誌によせてとのことで、原稿のご依頼を頂きまして私の30年の間の移り変わりを少し思い出しながら書かせていただきます。年代までなかなか思い出せない為いろいろなことが後先になると思いますがおゆるしいただきたいと思います。

私が臨床検査技師になったのは昭和52年であります。いわゆる70年代の終わりころでしょうか。就職をして最初にしたことは、学校で勉強したことと実際の仕事のギャップでした。あまり勉強をまじめにしなかった私にはかなりのショックでした。ちょうどこの頃は自動分析機がかなり普及した時ではなかったかと記憶しています。しかし、まだ用手法でもけっこう検査をしていました。Na、Kは炎光光度計を使用していました。測定をするにはけっこう技術が必要で、メーターを見ながら炎の中心で測定しないと正しい結果がでないというものでした。最初はなかなかうまく炎が中心にこないため1検体測定するのに何分もかかったものでした。

自動分析機が普及した現在では用手法でする検査はかなり少なくなっています。しかし、私が検査技師になりたてのころはけっこう用手法でも検査をしていました。その用手法に欠かせないのがサンズピペットです。今ではほとんど見かけなくなりましたが、当時は必需品でした。私は不器用だったようでこのサンズピペットをスムーズに使いこなすのに少々てまどった記憶があります。

蛋白分画は現在では多くの施設では自動の機器を使用して検査しています。当時は一検体ずつセパラックスに塗布して泳動して、染色、脱色、乾燥、デンシトメーターにかけて結果を出す。これをすべて人の手で行っていました。人手と時間がかかる検査の代表だったと思います。私もかなり検査しましたが、どうもアルブミンと $\alpha 1$ の分離がきれいにいかなくてかなり苦労しました。いまだ分離がきれいにならない原因はよくわかりません。

私が検査技師になって30年、その間にいろいろな新しい検査が可能になりました。特に私が印象に残っている項目として、CK-MB、シクロスポリン、クレアチニンの酵素法、アミラーゼの酵素法ミオグロビンなどがあります。特にシクロスポリンの血中濃度測定を通じて、腎移植のさまざまな検査や検査結果の見方、その重要性をまったく別の角度から勉強させてもらうことになり、改めて検査結果の重要性を認識することになりました。

もうひとつ非常に印象に残っていることがあります。それはグリコヘモグロビンの検査についてです。私はグリコヘモグロビンは外注しており自施設では検査していないということがあたりまえになっていました。私が検査技師になって十数年後、グリコヘモグロビンを用手法で検査することになりました。当然カラムを使った試薬があることは知っていましたが、まさか自分がその試薬を使って検査をするとは思いませんでした。私もそのころにはそれなりに仕事もできるようになっていると自分では思っていました。このグリコヘモグロビンの試薬は検査試薬としてむずかしいものではありませんでしたが、最初のうちは10検体ないし15検体を検査すると必ず1検体ないし2検体くらは失敗しました。原因は決められた操作は必ず決められたようにするというを少しだけ守らなかったことでした。先輩から教えられたこと、説明書に書いてあることはきちんと守ることが大切であるということをお聞き知らされた出来事でした。

まだまだ、いろいろなことがあったと思いますが、全部を書くことは当然無理なことですし、忘れ

ていることもたくさんあります。現在活躍している若い技師の方々に少し昔のことを知ってもらえれば大変ありがたいと思います。そして、私にとってはあっという間の30年でしたが最後に大きな流れの変化についてまとめてみたいと思います。

この30年間に私は大きな変化がふたつあったと思います。ひとつは検査技術の大変な進歩です。肝炎ウイルスやクラミジア、結核菌といった検査に遺伝子検査が可能になり臨床の現場に大きな貢献をしています。また、細菌検査に自動化が導入されこれも大きな成果をだしていると思います。その他にもさまざまな検査の分野で検査技術は発展していますし今後も発展していくと思います。そして、このような発展を支えたものは開発をしたメーカーの努力はいうまでもなく大変すばらしいものがあります。また、多くの研究発表をしてきた検査技師もこの発展の一翼を担っていると思います。ふたつめは医療情勢の大きな変化です。保険点数の引き下げもさることながら、臨床検査技師も医療情勢や病院経営を考えないで検査室の運営ができなくなったということです。今後も技術面、医療情勢等さまざまところで大きな変化が予想されます。この変化に対応するためには、臨床検査技師としての技術と信頼できる検査データの提供がよりいっそう必要になると思います。

私の検査技師としての30年はいろいろな方々にお世話になり、また、ご指導いただいたことでここまで技師として仕事をしていくことができました。この場をおかりして厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

最後に公私共に大変お世話になりました、青木千鶴技師と吉川 清技師のご冥福を心よりお祈り申し上げます。



(平成12年度中越支部総会より)

「私的感覚。技師の現在・過去・未来」

医療法人崇徳会 長岡西病院 山崎 恒

中越支部50周年おめでとうございます。これまで多くの会員各位が中越支部を支え、また多くの方のご努力により、この日を迎えた事に対し中越支部の一会員として誇りにするところです。

この記念誌の発刊にあたり、私をご指名頂いた事に対し深謝するとともに40代を代表して書かせて頂きます。表題にありますように技師の「現在・過去・未来」をテーマとし、技師および技師会の取り巻く環境を含め私の歩んできた所感を記します。

【現在の取り巻く環境について】

現在の「検査室」と言うユニットから「病院」と言うユニットを考えると大変厳しい状況であり、医療界全体が岐路に立たされ「勝ち組、負け組」がハッキリとさせられる医療改革が進んでいます。それにともない収支が明瞭化している検査室は“マルメ”と“実施料の減算”が進み「生産部門」から「消費部門」へと転換期を迎えております。

2006年4月の医療費改定では3.16%の引き下げが行われました。これは過去最大であり「相当な環境影響の発生が不可避となる地球温暖化“ポイント・オブ・ノー・リターン”（引き返すことのできない地点）」が先に医療界にきた感があります。

技師の取り巻く環境の変化もこれに追従し「よりチーム医療への参画」が求められる環境となっています。“採血業務”“糖尿病チームや栄養サポートチーム、クリニカルパスへの参画”等、「臨床支援」と言う枠組みから「本来業務」へと取り込みが行われつつあります。

有益なデータをより早く提供し、臨床診断、治療に結びをつけるため“迅速検体加算”がこの改定から新設されました。この事は病院検査室と外部委託との差別化になるかどうかは別として「有益化」を高潮する趣が加わったと言えます。

技師会としては“臨床検査技師、衛生検査技師等に関する法律の一部改正に関する法律”が施行されました。長年の取組みが現実化しましたが、医療法における独占または定数配置までにおよぶ改正ではありません。しかしながら、今まで大きな改定も行われてこなかったわけですから、その功績は多大であると思います。またこの改定が意味するところは、より検査技師としての責任性と信頼性の重みが明確になったと言えます。

【現在の検査室運営について】

環境の変化にともない検査室の管理・運営も変わって来ています。医学検査学会では管理・運営、チーム医療領域の発表が増えてきています。特に採血業務を検査室に取り込む施設が多くなってきており、真空採血における“標準法”が実施されつつあります。採血行為に関しては法の解釈に論議があるものの“正しい検査”を最初から最後まで受け持つ事が“臨床検査の質保証”になり、看護師不足から検査室への“押し付け業務”と言う論議はどうあれ「患者様」にとって効率の良い診療につながればと思います。

【今の検査室のについて】

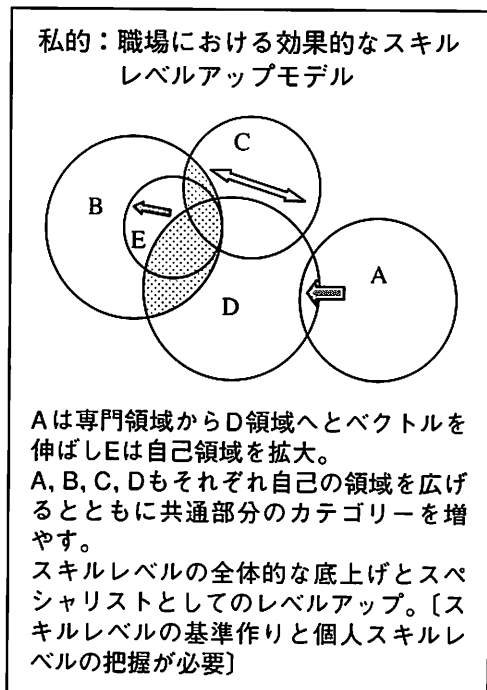
ターンアラウンドタイムはコンピューター用語で「処理を投げてから、結果が返ってくるまでの時

間]「データやコマンドの入力が終了してから、処理結果の出力が終わって次の要求の受け入れが可能になるまでの時間の事」と意味づけられています。技師は決してコンピューターのオペレーターではありませんが、より臨床検査の技術的な部分が見えにくくなり、よりそれに近い業務となっているような気がします。結果を正確に如何に早く処理するのか、受け渡されたデータを次の業務に有益化するのか、問われるべき時代です。

病院と言うユニットが経済的に厳しい状況であるからこそ検査の運営も問題視されます。検査室を管理する者は効率の良い人の配置を考えるのは当然の事であり、今“スペシャリスト”より“ゼネラリスト”を求めている事も理解できることです。

認定技師制度が謳われるなかではありますが、5年を一区切りで考えると（現在は3年とも言われています）、自己の業務に改善や功績、努力がなければ適材適所を考えなければなりません。「質の管理」は「安全の管理」であり、「量的な管理」とあわせて“人員体制の強化”が時代の要請であり、検査室存続の1つの鍵と考えます。

【少し昔を省みて】



すこし昔を省みると“良き時代”を思い出します。それだけ現在が厳しい証明にもなるという事になるでしょうか。現在のようにスピードが事のほか問われる時代ではなく、正確性をより重んじた時代ではなかったと思います。一変したのはアナログ時代から急速なデジタル時代が到来してからの事です。

技師として勤めた頃は当然の事ながらアナログ時代であり、「手書きのワークシートを見ながら仕事をしていた事」「電解質」の炎色反応が安定せず標準あわせに一苦労していた事」「GOT、GPTの？検量線から値をはじきだしていた事」「いくらあっても足りないザーリーピペット」「サンズピペットが命の生化学、溜まるは溜まる試験管との戦い」「血液寒天培地の美しさに騙されて手作りが多かったあの頃」…こんな時代に標準法はあっても“標準化”の趣は少なく精度をより高める時代でした。機器の自動化は5年単位、3年単位…と目まぐるしく変化し、この時代の手法や機器が現在も使われている事は少ないのではないのでしょうか。

技師会について省みると、入職して数年後から技師会役員を送り出しています。それだけに身近でもあり、時には意見的にもなります。中越支部の良さは一言で言えば“よりまとまりのある会”と言えるのではないのでしょうか。球技大会と言ったレクリエーションやふれあい研修会、技師会フォーラムと時代にあった企画を考えてきています。継続しているものそうでないものもありますが“会員相互”と言う命題を受け継ぎ“横のつながり”をより大事にしてきたと思います。

また、元・技師会長、栗原貞夫顧問をはじめ技師会OBの方々が、今でも会を支えて頂いている事は大変にありがたい事であり心強く感じます。とかく合法的に会を進めがちになりますが、しっかりとご意見を頂ける事に感謝をしています。

また、元・技師会長、栗原貞夫顧問をはじめ技師会OBの方々が、今でも会を支えて頂いている事は大変にありがたい事であり心強く感じます。とかく合法的に会を進めがちになりますが、しっかりとご意見を頂ける事に感謝をしています。

日本を“ダメにした世代”と言われる我々の世代ではありますが、その真価を問われる前にまだま

だやるべき事はたくさんありそうです。時代の変化の波をうまく乗り越え次の世代へ橋渡しできるよう、しっかりと繋げなければなりません。それは技師会とて同じ事です。

【未来について】

認定技師制度化が進んでいますが、「資格認定」した事により検査収益が上がったでしょうか。平成18年度診療報酬改定では「医療安全対策について専門の教育を受けた看護師、薬剤師等を医療安全管理者として専従で配置している場合に算定する」と改められました。

認定の意味するところは何でしょうか。認定技師は個人の満足ではないはずです。今、病院が資格を認めるとしたら“医療安全管理者”を重要視するかも知れません。資格を取得した方はおそらく“病院のためではない”と言われると思います。しかしながら資格を最大限に生かすべき事も大切であると思います。今後は何らかの付加価値が付く事が予測されます。技師会としても認定化を後押ししているのですから…。

“臨床検査は永久に不滅”ですが病院検査室、臨床検査技師はどうでしょう。前途多難、暗雲が垂れ込めている感があります。免疫検査、ホルモン関連、感染症検査の迅速化が進む事でしょう。また微量化、微侵襲・無侵襲検査も発展することでしょう。当然の事ながらユビキタスネット社会は急速化しています。社会構造、地球環境などさまざまな要因で医療が変わり臨床検査も変わります。あたりまえに“臨床検査技師”も時代に合わせて変化する事と思います。“小豆大ほどの血液”でほとんどの検査が出来たとしたら…。POCT時代への突入です。ベットサイド行うもの、検査室で行うもの、外来で行うもの、検査の体制そのものの考え方を切り替えなければなりません。

“患者中心の医療”と言われつつも「本当に患者」が中心でしょうか。ベストセラー小説「世界の中心で、愛をさけぶ」を映画化した韓国版「僕の、世界の中心は、君だ。」ではないですが、患者本位と言いながらも「実はこちらの都合で」と言う“話のすりかえ”は改めなければなりません。

【最後に】

希望的な推測、憶測も含め書かせて頂きました。検査室をマネジメントするツールは多々ありますがあくまでも道具立てであり、人を納得させる道具にすぎません。管理者として、技師として“プロフェッショナル”とは何かを一人一人が問い正せば自ずと進むべき方向性は見出せると思います。

サッカー観戦好きの私が“サッカーと臨床検査の未来について”とすればもっとまとまりのあるお話が出来たのかも知れませんが、取りとめのない文章になってしまったようです。10年後の60周年記念誌をまた発刊できるよう中越支部の発展に少しでも寄与できたらと考えます。

皆さんの検査室が元気で、そして会員の健康と技師としてのカテゴリーを少しでも拡大、拡張をはかれる10年間であってほしいと思います。



(平成17年度支部総会より)

15年を振り返って

見附市立病院 中村道夫

中越支部発足50周年おめでとうございます。

私のような技師になってから20年ちょっと、技師会に加入して15年の若輩者がこのような大役を仰せつかり大変恐縮しております。長文25行の原稿を受け賜り、何を書いたらいいのかわからず支部役員時代の資料や昔の技師会誌を紐解いていたら丁度私がこの新潟に戻ってきた頃（15年前）の35周年記念誌「やまあい」を見つけました。

中を見ると錚錚たる諸先輩方の名前が連ね、支部発足当時の情勢や過程そしてご尽力の数々を読み、改めて「大変な役を受けてしまった」と同時に「もう15年も経つのか」と懐かしく見入ってしまい当時では「医療情勢がこれほど厳しくなって来るとは思っていなかったかな」と思いつつ、後ろに掲載されている医療機器・試薬の広告等を見て「検査業界も著しく変化しているんだな」と自分の15年を振り返って見たりしました。

その中で技師会との関わりは平成13年・14年と2年間、力不足でしたが縁あって中越支部の役員をやらせて頂きました。それまでは自分の担当に関係する勉強会にたまに出席する程度で支部の活動がどう言う物なのか全く分からず、特に当院のような単病院はなかなか他病院さんとのつながりが少なかったため、緊張しながら初めての会合に行ったことを今でもよく覚えています。

「支部総会」「支部フォーラム」「ふれあい研修会」「すこやかともしびまつり」「糖尿病を知るつどい」と支部の活動は多種多様に亘り、何も分からない中で言われた事しかお手伝い出来なかったかと思いますが諸先輩役員の方々に色々ご指導頂き何とか務めることが出来ました。（ちょっと遅いですがこの場を借りてお礼申し上げます。）特に平成13年は東北医学検査学会が長岡リリックホールでの開催で、多くの技師・各支部役員の方と学会運営に微力ながら携わったことは私自身貴重な体験をさせて頂きました。そして「中越支部を盛り上げていこう」「これからの検査・検査技師はどうして行くべきか」等考えさせられる役員期間でもありました。役員をはなれてもう4年になりますが、これからも出来るだけ支部活動には参加して行ければと思います。



（平成12年度健康フォーラムより）

中越支部発足50周年記念によせて

小千谷総合病院 黒崎 一雄

中越支部発足50周年おめでとうございます。私も技師会に入会して27年が経ちますが、技師会というと、昔から県技師会よりも中越支部技師会というイメージの方が強いように思います。それは、歴代の支部長をはじめ役員一人ひとりが中越支部をこよなく愛し活発な活動をしてこられた賜だと思えます。中越支部の総会、研修会を通して役員の方々が一生懸命取り組んでいるようすが伝わってきますし、それがうまく引き継がれてきているように思います。私も4年間役員をさせて頂きましたが、顧問をされている初代支部長の栗原氏をはじめ小林、山崎前支部長とも、今でも中越支部のためにご尽力されていて、それが中越支部の役員のみならず、ひいては中越支部全体のまとまりにつながっているのではないかと思います。

さて、中越支部が発足して50年ということですが、50年前はさすがに振り返ることができないので、17~18年前を振り返ってみて、当時の懐かしい思い出の一つとして、毎年球技大会が開催されていたことを思い出します。バレーボールに卓球と各施設からの参加者も多く、当検査室もバレーボールで小千谷・北魚沼地区として優勝を目指し、検査室で作った「Labo Ace」と書いたお揃いのピンクのTシャツを着て参加人数の多さでは長岡赤十字病院とトップ争いをしていたような記憶があります。当時は、当検査室のスタッフもみんな若く、「キャー、キャー」と言いながらみんなが一丸となって優勝に向けて気持ちのいい汗を流し、大いに盛り上がっていました。勝敗については残念ながら記憶がなく優勝したかどうかは定かではありません。また、私を含めて子育ての時期を向かえた人が多く、みんなが子どもを連れて家族で参加していたので、写真を見ると小さかった子どもを通して当時を懐かしく思い出すことができます。

しかし、時代の流れとともに、近年は医療情勢が大変厳しく、検査室の運営も難しくなっています。こうした時代こそ技師会の力が求められるのではないのでしょうか。そんな中での、中越支部の大きな魅力は、新しい話題や今問題になっている事をいち早く研修会や総会で取り上げ、情報提供してくれることです。それと、総会、中越支部フォーラム、ふれあい研修会等の後に行われる情報交換会では、酒を酌み交わしながら、近隣の施設の状況を聴くことができ、自施設の抱える問題を相談することもできます。また、歴代の支部長や役員も多く集まるので、これからの検査室や検査技師のあり方について熱く語る場面も多く、普段にはない新たな刺激を得ることも大きな魅力の一つです。これらが、小回りの利く中越支部の活動に参加する一番の利点だと思います。これからも中越支部を通して、多くの会員がもっともっと気軽に技師会活動に参加できるよう“技師会活動入門支部”としての役割も担いながら、中越支部が益々発展していくように協力していきたいと思えます。

— 追伸 —

6月に中越支部50周年記念ゴルフコンペを企画したところ、技師会OBを始め中越地区に関係して下さった多くの方々から参加して頂き、幹事一同感謝申し上げます。誠に有り難うございました。



記念誌によせて

新潟県済生会三条病院 桑 原 喜久男

新潟県臨床衛生検査技師会中越支部、発足50周年、誠におめでとうございます。これも一重に諸先輩方の並々ならぬ臨床衛生検査技師会発展に懸ける情熱の賜物と感謝申し上げます。

私も当会への活動に参加させて頂く様になって15年余りが経過いたしました。過去に活動に参加して印象に残った出来事をご紹介させて頂きたいと思います。球技大会が始めての参加だと記憶しております。現在と異なり、検査室の平均年齢もまだ若く、バレーボール、卓球に汗を流し、休憩時間には他施設の先輩や同級生に会ったの仕事以外の話は大変有意義でした。お昼には車座になってのお弁当、ビールは格別で検査室内の和を保つ意味でも当院では大切な年中行事となっております。また支部で心エコー検査の実技指導を依頼され、湯之谷村の研修センターで1泊2日の研修会に参加させていただいた折には他施設の諸先輩方とお話をさせていただける機会があり有意義なものでありました。特に検査室創成期を経験された方から当時の臨床検査の様子をお聞きし興味深いものでした。現在、心電図と言えば患者様に電極を装着し記録ボタンを押せば十二誘導が容易に記録できます。健診事業にも用いられており1日に100人、200人を検査する事もめずらしくなりましたが、当時の心電図は1chづつ記録され、記録した心電図は写真として残す方法だったそうです。その現像には時間がかかった事。現像機の電源を落とすと、再度、検査するまでには大変時間を要したことなど当時の苦労話をお聞きする事で現在の状況の中で検査することのありがたさを感じた事と医療技術、機器進歩に驚きを持った事を記憶しております。

私は現在、生理機能部門で各種研修会を通して会員の皆様と知識の習得、技術向上のお役に立てるように活動させて頂いております。最近、会員の皆様の意見交換をする機会が少し足りないのではと考えております。今後、研修会の折には講演、実技指導だけではなく、参加された会員の声をお聞きし、日常業務にフィードバックできるような活動を増やして、臨床検査技師会活動を支える一翼を担えればと考えております。嬉しい事に研修会に参加される方の中に20~30才代前半の会員の数が増えている印象を持ちます。私達の役割として、経験豊富な諸先輩方とこれからの世代との橋渡しをして技術、経験を伝える為のお手伝いをする事も大事になってくるように考えます。

最後に本記念事業に対して役員皆様の活動に対しまして感謝申し上げますと共に、今後も会員皆様のお力添えで新潟県臨床衛生検査技師会中越支部がより一層の発展いたしますよう祈念いたします。



(1996年中越支部フォーラムより)

仕事と育児

柏崎メジカルセンター 渡邊夕香

「おたあさん、おっきー!!」

2歳半になる娘（娘は私のことをこう呼びます。）の声が響きわたる早朝、私の幸せな1日が始まります。（ああ、今日も元気だ、よかった!!）と安堵し小さな手をつなぎ保育園へ送り、小走りに車に乗り込み職場へと急ぎます。その間に私は母親から臨床検査技師に変身します。

<仕事と育児の両立>それは、実家も遠く核家族代表の私にとってとても難しい目標です。

月に一度は熱を出し職場を休まざるを得なかったり、鼻水&涙目の娘を保育園へ預け、仕事中に電話のベルが鳴るたびにお迎えの催促ではないかとドキドキしていたり、延長保育で一人ポツンと待っている娘の姿を見ると、仕事も育児も中途半端に思えて自分がどうしたらいいのか分からなくなったりしたこともありました。自分の考えていた仕事と育児の両立は想像以上に大変でいろいろな方々に心配や迷惑をかけていることを考えると、何のために働いているのだろう、誰のために働いているのだろうと何度も何度も涙しながら、仕事を辞めようと思いついたこともありました。

そのたびに夫や職場の方々、友人等に慰められ元気づけられ、周囲の理解と協力のおかげで今日まで仕事を続けられています。

どんなに遅くても迎えに行くと思いついてきて、その日の楽しかったこと、うれしかったこと、泣いちゃったことなどを一生懸命に話してくれる娘の手をしっかりと握りしめながら明日も頑張ろうと思う毎日です。

そして7月、私は2児の母となり日々の忙しさは2倍になりました。しかし、これからの喜びと楽しみは2倍?いえ、それ以上になると信じています。仕事と育児。両方あって今の私が輝いている気がします。目標まではまだまだ遠く険しい道のりですが、母として臨床検査技師としての誇りを胸に家族のため、自分のためにもっと頑張って、もっともっと強くなりたい!!

白衣に憧れて選んだこの職業を生き甲斐とし輝き続けたいと思っています。

今朝も娘の声が響きわたります。「おたあさん〜っ!!」

中越支部発足50周年おめでとうございます。

これからの会員の皆様のご活躍と支部の益々のご発展をお祈り致します。



(平成17年すこやかともしびまつりより)

記念誌に寄せて

新潟県南魚沼地域振興局健康福祉環境部

(南魚沼保健所) 新井 礼子

まずは、社団法人 新潟県臨床衛生検査技師会中越支部の発足50周年を心からお祝い申し上げます。その歴史の一時期に、わずかではありますが関係することができ、大変うれしく思います。白衣を着て病院の中を歩く姿を夢見て、自分の職業に臨床検査技師を選んだ私ですが、いきなり最初から保健所勤務となりました。初めの頃は、臨床検査技師になったからには、病気の人を診断・治療するための“臨床検査”に携わりたかったという悶々とした思いがありましたが、日々の検査に忙殺されているうちに時間が流れ、今となってはその思いもすっかり忘れ去られていました。これまで技師会活動とはほとんど無縁な私でしたが、中越支部の理事を平成14年度からさせていただいています。病院や検査センター等様々な職場の方と接する機会を得て、検査技師になりたての頃のことを思い出しました。それは、保健所で行われている食中毒患者の検査や感染症接触者の検査（個人的には公衆衛生検査と呼んだほうが合っていると思いますが）が、個人の診断治療のためというよりもむしろ、そのほとんどが疫学調査の範疇であって、縁の下のさらに地下の陽の当たらないすごく地味な部分の存在のような感じがしたことです。検査結果はその時の患者さんには活かされないでしょうが、回りまわって蓄積されて不特定多数の住民の病気を予防する（かもしれない）という検査の存在意義がわかりませんでした（いまでも本当に理解しているのかと問われれば疑問だらけで、全く自信はありませんが）。何回か理事会に出席するうちに、保健所の検査という井戸の中から少し周りを見ることができたかなと思っています。理事としては全く戦力にならなくて、一緒に理事になった皆様にはいつも申し訳なくと思っていますが、私にとってはとても勉強になることばかりでした（最初の頃は議事の内容・専門用語もさっぱり意味不明で、“臨床”で実際に病気と向き合っている方々の臨場感に圧倒されました）。技師会活動に参加して私が得たものは大きく、臨床検査技師として働くということは、その場所がどこであろうと、最終目的が地域住民の健康維持向上であることに違いはないということで、検査技師になりたての頃の思いを払拭することができたかなと思っています。



(中越支部40周年記念より)

『レンズ越しに見る世界観』

(医)立川メディカルセンター立川総合病院

川 野 剛

小さい頃から、不思議と好きなものの一つに『レンズ』がある。

幼稚園児の頃の虫メガネに始まり、オペラグラスから望遠鏡。そして学生時代は、顕微鏡。どれも「小さなものを大きく見る事」が出来る。小さくて見えなかったものを、自分の目で詳細に観察する事ができる優れもの。

仕事上、当然の事ではあるが毎日の様に顕微鏡を覗く。一枚の標本に、沢山の情報が隠れている。対物レンズの倍率を上げていく毎に細かい所まで観察でき、決して肉眼だけでは見えない世界が広がっている。初めてまともな顕微鏡を覗いた頃、それは感動したものであった。例えば「血液」という赤い液体、染色を施した標本では様々な細胞が存在している事を知った。

微生物の塗抹標本をみた時も、それは驚いたものであった。「こんなに小さいものが見えるのか？」と。今まで見た事の無かった世界が目の前に広がっていて、驚きもあったが、表現のし難い不思議な気分を味わった。

レンズ繋がりという訳ではないが、カメラにも興味を持ち出した。銀塩ではなく、デジタル。何枚撮ってもフィルムの心配をしなくて良いし、撮った画像はその場で見る事が出来るという利点がある。失敗したら消去でき、画像の加工も案外簡単なのである。この「カメラ」、レンズを通してものを見るという事自体は顕微鏡や望遠鏡と一緒にあるが、その時その時の一瞬を記録するものであり、少し内容が違う。

ファインダーを覗き、シャッターを押した瞬間に「過去」が写し出される。決して「未来」は写らないのであるが、出来上がった写真に未来を感じることはある。不思議なもので、同じ場面をカラーで見るとモノクロで見ると、印象もグッと変わってくる。同じものをみている筈なのに、全く違う感じがたまらない。

技師会もまた同様ではないかと思う。

県技師会という本体に、それぞれの支部という「レンズ」があり、それを通して様々な活動や、会員の集まりといった細かなところが見えるのではないか。難しい事などなく、興味本位で参加してみるのも面白い。技師会や支部会と聞くと堅苦しい集まりの様だが、参加してみるとこれが結構楽しい。仕事の話は勿論であるが、共通の趣味を持った仲間も出来たりする。覗いて初めてわかる感動や、使ってみての面白さが、そこに存在する。

話はだいぶ脱線したが、この度、中越支部会が発足50周年を迎えた。

自分自身の歳よりもずっと前から存在している支部会であり、今日を迎えるまでには大変な御苦労があったと思います。先輩方の築いてきた中越支部会、もっともっと盛り上げて行って、若い世代に引き継いで欲しいと思います。

会員皆が、元気で活発な中越を誇れる様に。

中越支部発足50周年記念によせて

長岡赤十字病院

八木 恵子

中越支部発足50周年おめでとうございます。

50年の間には、現在もそうであるように、役員の方をはじめ大変多くの方々が関わり、このように発展されてこられたのだと思います。研修会や学会など、参加させて頂く一方の私ですが、その度に役員の方々の熱心な活動が伝わってきます。

私とはいえば、臨床検査技師となり、技師会に入会して7年が経ちました。私達の年代では、入社時にはすでに現在のようなシステム化された、あるいはされつつある検査室ではありましたが、それでもそれから検査機器は新しいものに替わり、検査する項目も増え続けています。医療技術が進歩し続け、新たなニーズがある限り、常にそれに応えていくことになるのでしょう。数年後には、「私が勤め始めた頃はね…」と、私の入社時の検査室も、昔話になっているかもしれません。

また、最近ではNSTやICT、糖尿病療養指導士など、チーム医療の一員として、臨床検査技師も携わるようになってきました。ただ検査値を返すだけではなく、他職あるいは患者様とのコミュニケーションをはかる場が増えてきているように思います。

そして、一昨年の中越地震を経験し、災害発生時の臨床検査技師の役割や、その時何が出来るのかなど、いろいろなことを考える機会となりました。

このように、日々の仕事や経験を繰り返しているうちに、あっという間に7年経ってしまいました。

職種にかかわらず、7年といえはすっかりベテランのはずなのですが、残念ながら自分はそうはまだになっておらず、毎日教わること学ぶことの連続です。その中で、技師会の研修会、あるいはそこの他施設の方との情報交換は大変役立っています。特に先輩方は、まるで古くからの友人のように他施設の方と「ねえ、お宅じゃこれどーしてるが？」などと、何でもざっくばらんに質疑応答できているのも、技師会を軸とした交流があるからこそで、そういった施設間の繋がりが持てるのも、大切なのだなあと思っています。

このような、まだあるであろう会員の特典にふれながら、これからもいろいろな会に参加させて頂こうと思います。



(1996年中越健康フォーラムより)

(1996年中越健康フォーラムより)



50年記念誌によせて

県立十日町病院 中 島 聖 子

私が臨床検査技師として働き始めて、早いもので今年で三年目になります。学校を卒業したばかりで右も左も分からないような新人が、今まで何とか勤めてこられたのは、周囲の支えと指導のおかげだと感じています。

三年目にもなると周りからは、もう仕事に慣れただろうと言われますが、未だに毎日が緊張の連続です。

私が病院に勤めて、最初に担当になったのは細菌検査でした。細菌検査は、学生時代の実習のイメージしかありませんでしたが、実際には、同定・感受性試験が機械化されているものもあり、私が思っていた細菌検査とは随分違っていました。また、様々な迅速キットによって、検査時間が短縮され、簡単にその場ですぐ結果が分かるものもあり驚きました。

また、細菌検査では一般検査の一部も行っているため、髄液検査や鼻汁染色、AIHでの精液の調整なども行い、細菌検査業務の幅の広さに戸惑いつつ、細菌検査も含め、初めて行う検査はとても興味深いものでした。

二年目の途中で部署の移動があり、やや引きこもり気味で行っていた細菌検査から、接客メインの生理検査へと移動になりました。今までの細菌検査とはうって変わって、人と接する生理検査では慣れないことの連続でした。もともと地元出身なので、患者さんとの言葉の壁はありませんでしたが、知らない人と接することが苦手だったため、最初はなかなか患者さんとうまく話をする事が出来ずにいました。最近ではやっと患者さんと会話をすることにも慣れてきました。

生理検査では目の前にいる患者さんに対して、検査を進めていかななくてはならないのですが、最初はなかなかその流れについていけませんでしたが、最近では少しずつその流れについていけるようになってきたかと思っておりましたが、やはりまだまだ追いつけずにいます。

また、検査を行って行くなかで、患者さん相手の検査の難しさにもぶつかりました。同じ検査でも、当然のことながら、患者さんによって、条件が変わってきます。その中で、どんな患者さんでも結果を出していかななくてはなりません、なかなか同じように結果を出すことが出来ず、周りに迷惑をかけてしまい、自分の未熟さに落ち込む日々が続いています。

まだまだ反省点の多い毎日ですが、ただ落ち込んでばかりでは何も解決しないので、改善するべき点を考えて次回に備え、今は自分に出来ることを一生懸命していきたいと思えます。



(1999年中越支部研究会より)

支 部 の あ ゆ み

年	主 要 事 項	県・全国の主要事項
31	10月中越地区衛生検査技術者会設立会（長岡市長岡温泉） 出席者 26名 欠10名	9月新潟県細菌検査技師条例公布（県条例）
32	7月総会・研究会・講演「微生物学における最近の話題」 （長岡保健所） 県衛生研究所 斉藤孝一先生 講演「法案に対する諸問題について」 県衛生研究所 高沢邦輔技師	6月県職員細菌検査技術者の給与体制明確化 10月同職員調整給8%加算規則公布
33	3月総会・研究会 （長岡保健所） 9月国家試験問題集による講習会開始 （中越地区・長岡赤十字病院）	4月衛生検査技師法（公布） 9月国家試験受験対策講習会開催 12月文部省・厚生省で衛生検査技師学校養成所指定規則を制定
34	3月総会・研究会 （長岡保健所） 9月国家試験対策（模擬試験実施）（長岡赤十字病院）	5月第8回日本衛生検査学会新潟市で開催 10月第1回衛生検査技師国家試験実施（全国8会場）
35	3月総会・研究会 （長岡保健所）	5月日衛技新潟県支部は東北地区に編入
36	3月総会・研究会 （長岡保健所）	7月県技術者協会を技師会に改名 8月県衛生検査技師会誌を創刊（隔月発行）
37	3月総会・研究会 （長岡保健所）	12月日本衛生検査技師会社団法人化される。
38	3月総会・研究会 （長岡保健所）	4月新大医学部附属衛生検査技師学校開設
39	3月総会・研究会 （長岡保健所）	6月新潟地震発生
40	3月総会・研究会 講演「一般細菌の同定について」 （長岡保健所） 県衛生研究所 本間 宏技師 講演「地区検査技師会のあり方」 中越地区会長 栗原貞次郎技師	4月柏崎・刈羽地区、上越より中越地区に編入 10月県技師会研究会を長岡市で開催
41	3月総会・研究会 講演「検査技師の現況と今後の問題点」 （長岡赤十字病院） 中越地区会長 栗原貞次郎技師 シンポジウム「検査室の運営について」 助言者 県衛生研究所 大科達夫先生 発表者 7名	10月第7回東北地区衛生検査学会新潟市で開催
42	3月総会・研究会 講演「電解質異常の臨床的意義」 （中央総合病院） 中央総合病院 木戸平元先生	

年	主 要 事 項	県・全国の主要事項
43	3月総会・研究会 講演「血液型の亜型と免疫抗体の検査法」 (悠久荘) 県衛生研究所 高沢邦輔技師	4月県技師会支部制度新設により中越支部に改名
44	3月総会・研究会 講演「免疫グロブリンについて」 (長岡赤十字病院) 長岡赤十字病院 金子 博先生	
45	3月総会・研究会 講演「精度管理用プール血清コンセーラ について」 (長岡保健所) 日水製薬 藤城勝明先生	5月衛生検査技師法一部改正 (臨床検査技師法)
46	4月総会・講習会 講演 臨床検査技師国家試験指定講習会 (長岡赤十字病院) テキスト説明 管理者 支部長 栗原貞次郎技師	5月第20回日本衛生検査学会 新潟市開催 8月第1回臨床検査技師国家試験実施
47	3月総会・研究会 講演「脂質代謝について」 (長岡赤十字病院) 新大医学部 猪股 先生	4月県技師会学生会員制設置 4月新潟医療技術専門学校開校
48	3月総会・研究会 講演「血球凝集について」 (中央総合病院)	4月県技師会20周年 10月第14回東北地区衛生検査学会 新潟市開催 学会長 栗原貞次郎
49	3月総会・研究会 講師「モノアミノオキシターゼ(MAO) について」 (長岡赤十字病院) 和光純薬 山里藤男先生 10月中越支部機関紙「やまあい」創刊	3月県技師会総会・研究会 (長岡市開催) 3月支部役員定数を定める
50	3月総会・研究会 講演「衛生検査技師と法律」 (けさじろ荘) ～業務制限への展望～ 厚生省関東信越地方医務局 佐藤乙一臨床検査専門官	
51	3月支部総会・研究会 11月支部研究会・(中央総合病院) 「交差試験実技と理論」 12月バレーボール大会(中央総合病院看護学院体育館)	
52	3月支部総会・研究会 (けさじろ荘) 支部会費200円～500円に値上げ 6月支部研究会 (中央総合病院看護学院) 「HB抗原についての最近の話題」及びRPHAの実習 東大輸血部 吉原なみ子先生	4月新潟県臨床衛生検査技師会 と改称 副会長3名制 5月社団法人日本臨床検査技師 会と改称
53	3月支部総会・研究会 (中央総合病院) 「コレステロールの酵素法」 三井記念病院 中 甫 12月バレーボール大会(中央総合病院看護学院体育館)	2月県技師会誌通巻100号記念 誌発行 日臨技会費 5,000円 県会費 2,500円 支部会費 500円
54	3月支部総会・研究会 「海外由来の伝染病」 県衛生研究所 篠川 至所長 「コレラ菌検査法」 “ 池村謙吾副参事 5月第1回支部研究会 「HDL-Cについて」 和光純薬 徳田研究員	

年	主 要 事 項	県・全国の主要事項
54	6月第2回支部研究会 「超音波診断について」 小千谷病院 関喜代志先生 9月第3回支部研究会 「交差試験について」 三光純薬 小島先生 10月第4回支部研究会 「免疫グロブリン・補体測定について」ヘキスト高橋先生 12月バレーボール大会(中央総合病院看護学院体育館)	
55	3月第5回支部研究会 「キャンピロバクター・エルシニア」 「NAGビブリオの疫学と検査法」 県衛生研究所 池村謙吾副参事 支部総会・研究会 (長岡保健所) 7月支部研究会 「尿沈渣について」 研究班県委員 青木千鶴技師 11月「血液塗抹標方の見方」 小千谷総合病院 中村忠夫先生	第21回東北学会 新潟市で開催 学会長 小嶋福太郎
56	2月研究会「HbA1測定と臨床的意義」 三光純薬 山本圭巳先生 2月やまあいNo.31 3月総会 (長岡保健所) 会員数236名 「自動分析について、ルーチン以後の管理」 日本IMC 今門莞爾先生 12月やまあいNo.33 5月酵素法の基礎と問題点 吉川直宏先生 7月機器分析の基礎 今門莞爾先生 9月臨床酵素学入門 今門莞爾先生 10月統計学入門1 今門莞爾先生 11月統計学入門2 今門莞爾先生	4月県技師会役員を理事制とし 任期2年 日臨技創立30周年 日臨技会費 7,000円 県会費 3,500円 支部会費 500円
57	3月第27回総会 施設数56、会員数270名 「ガンと制ガン剤」 鈴木侠摩先生	篠川 至賞制定 2月県臨技創立30周年記念号発行
58	1月やまあいNo.34 3月第28回総会(長岡市医師会館) 「最近注目されている腸管病原菌について」 池村謙吾先生 「検査室における時間の使い方」 佐藤豊二先生 5月やまあいNo.35 8月やまあいNo.36 研究会「エコーを中心とした超音波診断」 目崎芳朗、鈴木 孝技師(35名参加) 11月研究会「これまでのサーベイに見られる問題点」 研究会「サーベイの考え方進め方」 佐藤豊二先生(33名) 11月研究会「検査技師の為の写真技術」 山崎正一先生(25名)	
59	1月研究会「止血凝固に関する話題とその問題点」 国際試薬 田中健夫先生(20名) やまあいNo.37	

年	主 要 事 項	県・全国の主要事項
59	3月第29回総会(会員数257名)(長岡市農協福祉会館)(76名) 「これから医療はどう変わるか」 厚生省病院管理研究所 石原 真先生 やまあいNo.38 4月やまあいNo.39 9月やまあいNo.40 勉強会 「ゲンタマイシン(GM)血中濃度測定」 -バイオアッセイによる簡易測定法- (中央総合病院) 田宮病院 三宅・阿部技師 10月共催成人病予防の集い(大和デパート長岡) (E C G. E E G. 血液・検尿)	
60	2月やまあいNo.41 「血液塗抹標本の見方」小千谷総合病院 中村忠夫先生 3月第30回総会 (ホテルニューオータニNCホール) 講演「医療費抑制時代の病院はどこへ行くのか」 ～中央検査部門に求められている変革とは何か～ 新潟市民病院 木村 明先生 10月中越細菌同好会発足 (魚沼病院 仁田原義元先生指導)	
61	3月第31回総会 5月技師長会議(長岡保健所) 「職場の現状と今後の取りくみ」 9月やまあいNo.42 10月球技大会(悠久荘) 11月やまあいNo.43 11月30周年記念研究会(ホテルニューオータニNCホール) 特別講演I「新潟へ近代医学を紹介した外国人医師」 ～医療技術導入の業績と地方文化への影響～ 県立ガンセンター新潟病院副院長 蒲原 宏先生 特別講演II「Nagao Isozymeの発見」 虎の門病院第2生化学部長 中山年正先生 一般演題13題	8月県技師会社団法人化 10月県技師会社団法人化記念式典
62	3月第32回総会(長岡市医師会館) 特別講演「ATLAについて」 富士レビオ 5月やまあいNo.44 6月技師長会議(長岡保健所) 「臨床検査をめぐる諸問題」 7月やまあいNo.45 細菌同好会「尿の細菌検査法について」 8月やまあいNo.46 9月球技大会(悠久荘) 12月研究会(田宮病院) 特別講演「検査センターから見た病院検査室」 S R L 常務 赤石先生 シンポジウム「臨床検査のあり方」 助言者 中条病院長 中山先生 分科会(6科)	10月第28回東北臨床衛生検査学会 (新潟市開催) 学会長 小林元康

年	主 要 事 項	県・全国の主要事項
63	<p>3月第33回総会（中央総合病院） 特別講演「最新の糖尿病マーカー」 ～フルクトサミンを中心に～ BML 玄場昭夫先生</p> <p>5月やまあいNo50</p> <p>6月技師長会議（長岡保健所） 参加15施設 「技師会活動への提言」 やまあいNo51</p> <p>7月球技大会（悠久荘） 参加50名</p> <p>8月やまあいNo52 細菌同好会（立川病院）</p> <p>9月技師長会議1泊2日研修（六日町白百合荘）参加14施設 特別講演「情報化社会とヒューマンネットワーク」 新潟産業大学教授 村山 實先生</p> <p>10月やまあいNo53</p> <p>12月研究会（中央総合病院） 特別講演「測定値の果てに見えてくる人間」 新潟交通 石川 寛先生</p> <p>ワークショップ「21世紀へのアプローチ」 分科会 ①他部門とのかかわり合い ②卒後教育と業務改革 ③外注検査 ④緊急検査</p>	<p>県技師会諮問委員会 （基本問題検討委員会設置）</p>
元	<p>2月やまあいNo54</p> <p>3月第34回総会（けさじろ荘） 特別講演「血液像から何を読み取るか」 津南病院長 田中信夫先生 基本問題検討委員会答申に関するアンケートの実施</p> <p>4月やまあいNo55</p> <p>5月やまあいNo56</p> <p>6月技師長会議（長岡保健所） 「検査室運営と技師会活動」</p> <p>7月球技大会（長岡市民体育館） 細菌同好会 TDM精度管理報告会 やまあいNo57</p> <p>10月やまあいNo58 糖尿病の集い（長岡・北越銀行）</p> <p>12月研究会（けさじろ荘） 特別講演「走査電顕で見た腎臓」 新潟大学 岩永ひろみ先生</p> <p>分科会 ①検査室でのパソコン利用（統計精度管理） ②ルーチンと緊急検査（交叉試験・凝固） ③一般検査（標準化の現状と今後） ④微生物検査（システムSD-Soft）</p> <p>特別講演「日臨技法改正運動」 六日町保健所 小林元康技師</p>	<p>4月県技師会創立40周年記念式典 県会費 5,500円</p>
2	<p>3月やまあいNo59 第35回総会（けさじろ荘） 特別講演「高度情報化時代におけるスポーツの傾向」 柏崎情報開発学院長 高橋 保先生</p>	

年	主 要 事 項	県・全国の主要事項
2	<p>5月やまあい№60 特別寄稿 「技師会に思うこと」 栗原貞次郎顧問</p> <p>6月施設代表者会議（長岡保健所） 特別講演 「医療廃棄物」 長岡保健所 田辺正二技師</p> <p>7月球技大会（L L C）参加者70名</p> <p>9月やまあい№61</p> <p>10月施設代表者1泊2日研修（湯之谷村 なりくら荘） ワークショップ「ルーチン検査の迅速化に向けて」</p> <p>11月糖尿病の集い（長岡・北越銀行）</p> <p>12月研究会（マルタケビル） 特別講演「医療雑感－検査技師に望むこと－」 サンプルラザ長岡 亀山公平先生</p> <p>分科会 ①日常検査の問題点と工夫 ②微生物検査～MRSAを中心に～</p>	
3	<p>2月やまあい№62</p> <p>3月第36回総会（けさじろ荘） 特別講演「走査電頭で見た肝臓」 新潟大学 岩永ひろみ先生</p> <p>支部規約改正 支部会費値上げ 500円→1,000円</p> <p>5月やまあい№64</p> <p>6月施設代表者会議（長岡保健所） 講演 「検査業務の管理・運営について」 小千谷総合病院 鈴木 孝技師</p> <p>講演 「尿沈渣の標準化」 吉田病院 青木千鶴技師</p> <p>やまあい№65 35周年記念誌編集委員会の活動開始</p> <p>やまあい№66 細菌同好会（ニチエー） 「昭和ディスク・ユーザーズマニュアルについて」</p> <p>7月血液同好会「抗リン脂質抗体の検出」 施設間差を縮小する会発足（15施設生化学サーベイ） 球技大会（L L C）参加者70名</p> <p>8月やまあい№67</p> <p>9月勉強会（マルタケ） 講演「水痘・带状疱疹ウィルス検査について」 第一化学薬品㈱ 小泉 浩先生</p> <p>「イムチェックVZVの使用経験」 長岡赤十字病院 濁川 昇技師 長岡中央総合病院 山田泰久技師</p> <p>検査室管理運営に関するアンケート実施</p> <p>10月ふれあい研修会（柏崎・大屋旅館）参加者（23名）</p> <p>11月糖尿病のつどい（長岡・北越銀行）</p> <p>12月発足35周年記念（中央総合病院） 文化講演「尿検査を取り巻く環境～落語一席～」 マイルス・三共営業部長 中村益次郎先生</p> <p>記念講演「医学検査の生い立ちと私の半生」 中越支部顧問 栗原貞次郎技師</p> <p>表彰式</p>	

年	主 要 事 項	県・全国の主要事項
4	<p>3月総会（今朝白荘）</p> <p>特別講演「走査顕微鏡でみた腸管」 新潟大学 岩永 ひろみ先生</p> <p>教育講演「生涯教育制度（日臨技）について」 新潟県臨床衛生検査技師会 近藤 進 先生</p> <p>4月やまあいNo70</p> <p>6月支部研修会（長岡市厚生会館）</p> <p>講演「溶血性輸血副作用の防止のための検査」 東海大学医学部輸血センター 小林 信昌先生</p> <p>講演「輸血検査の精度管理」 国際試薬株式会社 船越 國宏先生</p> <p>組織代表者会議（長岡保健所講堂） 「日臨技生涯教育制度について」 新臨技副会長 青木千鶴 技師</p> <p>やまあいNo71</p> <p>7月球技大会（LLC） 参加者67名</p> <p>10月糖尿病のつどい</p> <p>ふれあい研修会（川口町サンローラ川口）</p> <p>講演「統計学入門 その1」 北里大学保健衛生専門学院 木村 明技師</p> <p>講演「自動分析器用液状試薬について」 株式会社シノテスト 高橋 千草先生</p> <p>やまあいNo72</p> <p>11月やまあいNo73</p> <p>12月研究会（厚生連長岡中央総合病院）</p> <p>特別講演「良寛と貞心尼」 柏崎良寛貞心会 田村 甚三郎先生</p> <p>研究会 一般演題10題</p> <p>やまあいNo74</p> <p>2月研修会（長岡市株式会社マルタケ長岡営業所）</p> <p>講演「統計学入門 その2」 北里大学保健衛生専門学院 木村 明技師</p> <p>やまあいNo75</p> <p>支部だより（第186～191号）</p>	
5	<p>3月総会（今朝白荘）</p> <p>特別講演「MRSAと院内感染とその対策」 国立高田病院 川島 宗先生</p> <p>文化講演「微生物とレジャー」 たかさわ文化民族間 高沢 邦輔館長</p> <p>5月やまあいNo76</p> <p>6月支部フォーラム（長岡保健所会議室）</p> <p>議題「生涯教育この1年」「医療法改正への対応と今後」 「ブランチャラボ・採血業務について」 やまあいNo77</p> <p>7月勉強会「統計学その3」 北里大学保健衛生専門学院 木村 明技師</p> <p>球技大会（LLC） 参加者74名</p>	

	<p>8月やまあいNo78</p> <p>10月ふれあい研修会（浦佐 たもん荘）</p> <p>講演Ⅰ「眼底写真の臨床的意義」 長岡中央総合病院 武田 さち江先生</p> <p>講演Ⅱ「聴力検査、平行機能検査の臨床的意義」 内山耳鼻咽喉科医院 内山 春男先生</p> <p>講義「尿沈渣の標準化」 吉田病院 青木 千鶴 技師</p> <p>糖尿病のつどい やまあいNo79</p> <p>11月やまあいNo80</p> <p>12月研究会（田宮病院）</p> <p>特別講演「最近話題のペットによる寄生虫症」 北里大学保健衛生専門学院 升 茂先生</p> <p>一般演題 10題</p> <p>1月やまあいNo81</p> <p>支部だより（第192～197号）</p>	
6	<p>3月総会（ホテルニューオオタニ長岡）</p> <p>特別講演「輸血認定制度のねらい」 日臨技學術局理事 藤原 ムチ技師</p> <p>4月やまあいNo82</p> <p>5月やまあいNo83</p> <p>6月支部フォーラム（長岡保健所講堂）</p> <p>議題「今、検査技師が直面している問題点」</p> <p>7月健康フォーラム・球技大会（LLC） 参加者78名</p> <p>8月やまあいNo84</p> <p>9月ふれあい研修会（三島郡寺泊町 ホテル住吉屋）</p> <p>講演「医療法改正にともなう医療の変化」 （株）ヘキストジャパン 小室 亨 氏</p> <p>フリーターキング「組織活動のあり方」</p> <p>特別講演「病理随想」 東京医科大学 佐々 弘先生</p> <p>講演「HIVの最近の話題」 （株）ヘキストジャパン 八島 利博 氏</p> <p>10月糖尿病のつどい</p> <p>11月やまあいNo85</p> <p>12月支部研究会（長岡市高齢者センターけさじろ3F）</p> <p>教育講演「肥満高脂血症の運動療法」 小千谷総合病院内科医 上村 伯人先生</p> <p>一般演題 11題</p> <p>2月やまあいNo86</p> <p>支部だより（第198～203号）</p>	
7	<p>3月支部研究会、総会（長岡市高齢者センターけさじろ）</p> <p>特別講演「セメントの世界」 （株）秩父小野田 五十嵐 正文先生</p> <p>教育講演「阪神淡路大震災救護活動に参加して」 長岡赤十字病院 中川 光子先生 田中 憲子先生</p> <p>5月やまあいNo87</p> <p>6月支部フォーラム（マルタケ長岡営業所3F）</p> <p>7月健康フォーラム・球技大会（LLC） 参加者100名</p>	

	<p>やまあい No 8 8</p> <p>9月ふれあい研修会(湯之谷村国民年金センター「こしじ」)</p> <p>講演「体外受精の仕組みと技師の役割」 立川総合病院 星野 明生先生</p> <p>講義「胸部・腹部エコーの抽出法と判別」 (株)東芝メディカル学術部</p> <p>実習「胸部・腹部エコーの抽出法と判別」 やまあい No89</p> <p>糖尿病を知る集い</p> <p>11月やまあい No 9 0</p> <p>12月支部研究会(社会保険 長岡健康管理センター)</p> <p>特別講演「これからの医療と福祉」 県医師会理事 河内 実先生</p> <p>一般演題 8題</p> <p>1月やまあい No 9 1</p> <p>2月研修会(長岡市株式会社マルタケ長岡営業所) 支部だより(第204~209号)</p>	
8	<p>3月支部研究会、総会(長岡市高齢者センターけさじろ)</p> <p>教育講演「あなたも救えます!大切な人の命」 長岡消防署 栗林 彰先生</p> <p>4月やまあい No 9 2</p> <p>6月支部フォーラム(立川総合病院南館4F講義室)</p> <p>5月やまあい No 9 3</p> <p>議題「検査・管理の運営」</p> <p>7月健康フォーラム・球技大会(LLC) 参加者 80名</p> <p>9月やまあい No 9 4</p> <p>10月糖尿病を知るつどい</p> <p>10月ふれあい研修会(柏崎市剣野公民館)</p> <p>講義「MRIの基礎知識」 東芝メディカルアプリケーション 東 美奈子先生</p> <p>「MRIを担当して」 立川総合病院 吉原 正弘技師</p> <p>12月支部40周年記念研究会(ホテルニューオータニ長岡)</p> <p>特別記念講演「在宅医療、遠隔医療と未来の臨床検査」 長岡技術科学大学 福本 一郎先生</p> <p>特別記念講演「血液学をめぐる最近の話題」 立川総合病院院長新潟大学名誉教授 柴田 昭先生</p> <p>一般演題 6題</p> <p>12月特別記念誌 40周年記念抄録集</p> <p>12月支部40周年記念祝賀会(ホテルニューオータニ長岡)</p> <p>1月やまあい No 9 5</p> <p>2月やまあい No 9 6</p> <p>支部だより(第210~215号)</p>	
9	<p>3月支部研究会、総会(長岡市高齢者センターけさじろ)</p> <p>特別講演「今、検査界に思うこと」 群馬大学医療技術短期大学部 高橋 正雄先生</p> <p>5月やまあい No 9 7</p> <p>6月支部フォーラム(長岡赤十字病院 会議室(旧病院))</p> <p>議題「検査をとりまく現状と今後の課題」 やまあい No 9 8</p>	

	<p>7月健康フォーラム・球技大会（県立療養所悠久荘体育館） 第1回コンピューター強会（マルタケ長岡営業所会議室） （株）国際試薬 高山 三松先生</p> <p>9月第2回コンピューター強会（立川綜合病院講義室） 北里大学保健衛生専門学院 木村 明技師 済生会三条病院 田中 裕人先生</p> <p>ふれあい研修会（北里大学保健衛生専門学院） 実習「コンピューター実習」 「データベースの考え方とエクセルの使い方」 「インターネットについて」 北里大学保健衛生専門学院 木村 明技師 済生会三条病院 田中 裕人先生 （株）デイドベ어링 船越 雅美先生 エチゴネット 原田 善則先生</p> <p>やまあいN○99</p> <p>10月すこやかともしびまつり やまあいN○101</p> <p>11月糖尿病を知る集い</p> <p>12月支部研究会（長岡赤十字病院 大会議室） 一般演題 8題 特別講演「造血幹細胞移植療法の現状と展望」 長岡赤十字病院 藤原 正博先生 やまあいN○100</p> <p>2月第4回コンピューター強会（長岡赤十字病院 第一会議室） 北里大学保健衛生専門学院 木村 明技師 済生会三条病院 田中 裕人先生 やまあいN○102</p> <p>3月やまあいN○103 支部だより（第216～221号）</p>	
10	<p>3月支部研究会・総会（長岡中央綜合病院健診棟） 特別講演「聴覚障害者の福祉について」 米山手話サークル 松田 幸男 会長</p> <p>5月やまあいN○104</p> <p>6月支部フォーラム（長岡赤十字病院 会議室） 議題「検査をとりまく現況と将来」</p> <p>7月健康フォーラム・球技大会（LLC） 参加者55名</p> <p>8月やまあいN○105</p> <p>9月ふれあい研修会（県立こども自然王国） 講演「感染症検査の現状と問題点」 （株）ダイナボット 守谷 松次先生 講演「骨密度測定装置の現状」 実習「骨密度測定」 松本医科器械 石川 英昭先生</p> <p>10月第5回コンピューター強会（長岡情報ビジネス専門学校） 長岡西病院 山口 勇司技師 北里大学保健衛生専門学院 木村 明技師</p> <p>すこやかともしびまつり 糖尿病をしるつどい</p> <p>11月支部研究会（長岡赤十字病院 会議室） 一般演題 8題</p>	

	<p>特別講演「糖尿病の診断と治療」 長岡赤十字病院 佐々木 英夫先生 生涯教育研修専門課程開始にあたり 県生涯教育委員長 木村 明 技師 やまあいNo106 2月第6回コンピューター強会（長岡情報ビジネス専門学校） (株) デイド 本山 敦久先生 やまあいNo107 3月 やまあいNo108 支部だより（第222～227号）</p>	
11	<p>3月支部研究会・総会（長岡中央総合病院健診棟） 特別講演「ワインデスコール」 (株) 悠久堂医科器械 加藤 由紀子先生 6月支部フォーラム（立川総合病院講義室） 講演「医療ビックバンを迎え-DRG+PPS~そして対策-」 (社) 日本臨床衛生検査技師会 小崎 繁昭先生 やまあいNo109 7月健康フォーラム・球技大会（LLC） 参加者54名 8月やまあいNo110 9月ふれあい研修会「Sea Youth 雷音」 講演「院内感染対策と臨床検査技師の関わり」 ファイザー製薬(株) 川崎 賢二先生 講演「脳死判定の基準と臓器移植」 (財) 新潟県腎臓バンク 秋山 政人先生 講演「脳死判定の検査法」 (株) 日本光電 10月糖尿病をしるつどい すこやかともしびまつり99 11月やまあいNo111 12月支部研究会（長岡赤十字病院 大会議室） 一般演題 7題 特別講演「ヘリコバクターピロリの診断と治療」 新潟大学医学部第三内科 佐藤 祐一先生 2月コンピューター技術講習会（長岡情報ビジネス専門学校） 北里大学保健衛生専門学院 木村 明技師 済生会三条病院 田中 裕人先生 3月やまあいNo112 やまあいNo113 支部だより（第228～233号）</p>	
12	<p>3月支部研究会（長岡赤十字病院 第一会議室） 特別講演 「輝いていますか？ 色の効果であなたを改造！」 カラー&イメージコーディネーターカラーコミュニケーション プリンキピア代表 和田 富美 先生 6月支部フォーラム（立川総合病院講義室） やまあいNo114 7月健康フォーラム・球技大会（立川メディカルセンター晴陵医療学園体育館） 「腰痛体操」 参加者 27名 8月やまあいNo115 9月 すこやかともしびまつり2000 10月ふれあい研修会「ひめさゆり荘」</p>	

	<p>講演「検査室の(再)構築について ～検査室・家計簿を中心に～」 順天堂浦安病院 検査科技師長 川畑 卓美先生</p> <p>講演「感染症の基礎と臨床への報告について ～HCV・HIVを中心に～」 オーソ・クリニカル・イグノスティクス(株) 服部 俊一 先生</p> <p>糖尿病をしるつどい 1月やまあいNo116</p> <p>2月コンピューター技術講習会(長岡情報ビジネス専門学校) 新潟県労働衛生医学協会新津成人病検診センター 井関 卓也 先生</p> <p>新潟通信病院 伊藤 剛栄先生 やまあいNo117</p> <p>3月やまあいNo118 支部だより(第234～239号)</p>	
13	<p>3月支部講演会 総会(厚生連長岡中央総合病院 講堂) 特別講演 人類学古病理学の世界 「古人骨から考える現代社会」 県立歴史博物館 主任研究員 藤田 尚先生</p> <p>6月やまあいNo119</p> <p>7月中越支部フォーラム(長岡赤十字病院 会議室) 講演「臨床検査と医療法」 北里大学保健衛生専門学院講師 高橋 正雄 先生</p> <p>討 論 東北医学検査学会について 中越支部レクリエーション(アルピコボール長岡) 1. ボウリング大会 2. 納涼会</p> <p>10月すこやか・ともしびまつり 2001”(ハイブ長岡) 簡易血糖測定器による血糖測定(2日間延べ約700名) 臨床検査技師の業務紹介(パネル写真で紹介) 糖尿病を知るつどい(ホテルニューオータニ長岡) 一般参加者の血糖値を測定 やまあいNo120</p> <p>11月ふれあい研修会(Sea Youth 雷音)(柏崎市) 17日(土) 15:30～17:00 特別講演「病理解剖から期待させる中央診療部門の新たな可能性」 長岡赤十字病院 病理部長 江村 巖先生</p> <p>一般演題(9題) 教育講演「正しい機器・試薬リースの理解」 ダイナボット(株)営業統括部 三枝 洋三先生</p> <p>3月やまあいNo121 支部だより(第240～243号)</p>	
14	<p>3月支部講演会 総会(長岡赤十字病院 2F 会議室) 特別講演郷土の歴史「米百俵の精神～おもしろ裏話～」 長岡市立中央図書館 館長 稲川 明雄先生</p> <p>7月中越支部フォーラム(長岡赤十字病院 講堂) 新臨技マネージメントセミナーと合同開催 講演「変貌する日本の医療制度」 デイドベリング株式会社マーケティング部 松尾 久昭 先生</p> <p>講演「医療制度改革、規制緩和、診療報酬改定・・・病院存続が危うい!</p>	

	<p>その中で我々検査技師は何を考え、何をするべきか！」</p> <p>神奈川県湯河原胃腸科病院 事務長 杉山 誠先生</p> <p>10月すこやかともしびまつり 2002* (ハイブ長岡)</p> <p>①臨床検査技師の業務紹介 (パネルで紹介)</p> <p>②簡易血糖測定器による血糖測定・・・750名</p> <p>③加速度脈波計 (手指) による血管推定年齢測定・・・500名</p> <p>糖尿病を知るつどい (ホテルニューオータニ長岡 NC ホール)</p> <p>内容: 一般参加者の血糖値を測定・・・120名</p> <p>11月ふれあい研修会・支部研究会 (北里大学保健衛生専門学院)</p> <p>特別講演「国際認証規格 ISO15189 と検査室評価の動向」</p> <p>ISO/TC212 国内検討委員会ワーキンググループ 1 委員</p> <p>株式会社 SRL 医科学分析センター長 久保野 勝男先生</p> <p>講習「日臨技生涯教育システム J AMT I S の登録操作法」</p> <p>北里大学保健衛生専門学院 学科長 木村 明先生</p> <p>講習「パソコンスクール ～何でも気軽に聞いてみよう～」</p> <p>新臨技情報システム研究班委員 伊藤 剛栄先生</p>	
15	<p>3月支部講演会 総会 (厚生連長岡中央総合病院 講堂)</p> <p>特別講演 必見、コーチングの効果</p> <p>「部下・同僚の能力をいかに引き出すか！」</p> <p>人材教育コンサルタント (有) マックス・ゼン 丸山 結香先生</p> <p>11月ふれあい研修会・支部研究会 (北里ホール)</p> <p>特別講演「知ってます？ A C L S ! /知っておきたい救急対処法」</p> <p>新潟市民病院 救命救急センター 廣瀬 保夫先生</p> <p>一般演題 6題</p> <p>教育講演「検査室評価の時代が訪れる・ISO15189 による認証と認定」</p> <p>デイトベーリング (株) ヘルスカソリューション (HCS) 松尾 久昭先生</p> <p>6月中越支部フォーラム (厚生連長岡中央総合病院 検診棟)</p> <p>講演「D P C の現状と検査室運営」</p> <p>アイネット・システムズ (株) 常務取締役 川越 悟先生</p> <p>講演「S A R S : どのように検査するか」</p> <p>新潟県保健環境科学研究所ウイルス科 西川 眞先生</p> <p>10月すこやかともしびまつり 2003 (ハイブ長岡)</p> <p>内容: テーマ「あなたの血糖値は？」</p> <p>①臨床検査技師関連資料展示</p> <p>②簡易血糖測定器による血糖測定・・・894名</p> <p>糖尿病を知るつどい (ホテルニューオータニ長岡 NC ホール)</p> <p>一般参加者の血糖値を測定・・・173名</p> <p>ミニ講演「血糖測定は、こんな事に注意」</p> <p>長岡赤十字病院 山田 弘美技師</p> <p>11月ふれあい研修会・支部研究会 (北里ホール)</p> <p>特別講演「知っています？ A C L S ! …知っておきたい救急対処法」</p> <p>新潟市民病院 救命救急センター 廣瀬 保夫先生</p> <p>一般演題 6題</p> <p>教育講演「検査室評価の時代が訪れる・・・ISO15189 による認証と認定」</p> <p>デイトベーリング (株) ヘルスカソリューション (HCS) 松尾 久昭先生</p>	
16	<p>3月支部講演会 総会 (長岡赤十字病院 2F 会議室)</p> <p>特別講演 必見! 健康食品の効果</p> <p>「栄養サプリメントの効果とダイエット」</p> <p>明治製菓株式会社東京第二営業所 菅野 浩志先生</p> <p>6月支部フォーラム (長岡赤十字病院 2F 大会議室)</p>	

	<p>講演 残存フィブリノゲン、フィブリンを迅速に除去する「チューブ21QR」 日東紡績株式会社 小島 幸雄先生</p> <p>講演 「ザ・サバイバル東海大学の試み」 東海大学医学部付属病院 診療技術部 臨床検査技術科 免疫化学検査室係長 瀬戸 亨往先生</p> <p>10月 “すこやかとしびまつり 2004” (ハイブ長岡) 内容：テーマ「あなたの血糖値は？」 簡易血糖測定器による血糖測定・・・723名 糖尿病を知るつどい (テルニューオータニ長岡NCホール) 一般参加者の血糖値を測定・・・142名</p>	
17	<p>3月支部講演会 総会 (長岡赤十字病院 2F 会議室) 特別講演 今、話題の?!・・・あなたの病院では・・・ 「輸血検査に関連した感染症検査」 長野市民病院 検査科長 亀子 光明 先生</p> <p>7月支部フォーラム (長岡赤十字病院内看護専門学校3F 視聴覚室) 講演 「NSTと関連検査」 第一化学薬品株式会社 カスタマーサポートセンター 山下 由紀子先生</p> <p>講演 臨床検査技師に関わる訴訟 「医療訴訟の実例検討と今後の動向」 東京日動火災保険株式会社 夏堀 徹也先生</p> <p>10月*すこやかとしびまつり 2005* (ハイブ長岡) テーマ 「血糖コントロールしていますか！」 簡易血糖測定904名 下肢静脈エコー42名 糖尿病を知るつどい (長岡リリックホールシアター) 一般参加者の血糖値を測定・・・132名 三条市民セミナー (三条市総合福祉センター) テーマ「知って得する糖尿病」 一般参加者の血糖値を測定・・・250名</p> <p>11月ふれあい研修会・支部研究会 (北里ホール(北里大学保健衛生専門学院)) 講演「シスタチンCについて」 デイドベーリング株式会社 技術担当 熊谷 昌二先生 講演「ザ・サバイバル東海大学の試み パートII」迅速化時代への対応 東海大学医学部付属病院 臨床検査技術科免疫科学検査室 瀬戸 亨往先生</p> <p>講習 普通救命法講習会 魚沼消防本部大和分署</p> <p>1月やまあいNO.122</p>	
18	<p>3月支部講演会 総会 (厚生連長岡中央総合病院 2F 講堂) 講演「臨床検査のイノベーション」 デイドベーリング株式会社 事業推進部 遠藤 英夫先生 支部規約改正.名称を(社)新潟県臨床検査技師会中越支部とする 支部規約改正.市町村合併により松代地区を中越支部とする</p> <p>7月施設代表者情報交換会 (長岡赤十字病院 2F 第3会議室) 診療報酬改定対策 中越支部フォーラム (長岡赤十字病院 2F 第1会議室) [検査をとりまく環境]・・・どう対応する?診療報酬改定・・・ 講演 検体検査分野『新診療報酬改定とこれからの検査室』 アボットジャパン (株) 兼弘 昌彦 先生</p>	(社)新潟県臨床検査技師 会法人化20周年

講演 輸血検査分野『最近の輸血検査の話題』

新潟県赤十字血液センター 松山 雄一先生

9月ふれあい研修会・支部研究会（シーユース「雷音」）

講演 『電子カルテの開発と運用について』

日本メディカルバンクシステム 代表取締役 中木 英勝先生

看護技術講習

長岡赤十字看護学校

10月すこやかともしびまつり2006（ハイブ長岡）

AED講習会 長岡市消防局

血糖測定

糖尿病を知る集い（長岡市リックホール（シアター）

簡易血糖測定

三条市市民公開講座（三条市総合福祉センター）

「もっと知ろう糖尿病」

講演 落語 三遊亭白鳥

簡易血糖測定・動脈硬化度測定

11月中越支部発足50周年記念式典・祝賀会（パストラル長岡）

公開講演「健康食品及びサプリメントの功罪」

岐阜薬科大学 薬剤学教室 平野 和行 先生

表彰式

歴代中越支部役員名簿

年度	支部長	副支部長	幹事・理事	監事	県役員・委員
昭31	●栗原貞次郎	橋本金吾	●石田好忠、●太刀川 四	若月敏雄、伊藤 武	
32	●栗原貞次郎	若月敏雄	●石田好忠、●太刀川 四	伊藤 武、八百板昭二	
33	●栗原貞次郎	若月敏雄	●石田好忠、●太刀川 四		
34	●栗原貞次郎	若月敏雄	●石田好忠、●太刀川 四		
35	●栗原貞次郎	若月敏雄	●石田好忠、●太刀川 四		監事・伊藤 武
36	●栗原貞次郎	若月敏雄	●石田好忠、●内藤重男		
37	●栗原貞次郎	若月敏雄	●石田好忠、●内藤重男		監事・嶋田一男
38	●栗原貞次郎	●伊豆一雄	●佐藤賢吉		
39	●栗原貞次郎	●伊豆一雄	●佐藤賢吉		監事・鈴木寿一
40	●栗原貞次郎	●岡村常吉	●内藤重男、●小林元康、佐藤吉彦		
41	●栗原貞次郎	●岡村常吉	●高橋マサ、●小林元康、佐藤吉彦		監事・佐藤吉彦
42	●栗原貞次郎	●小林元康	●高橋マサ、●阿部 渉、●桜井良作		
43	●栗原貞次郎	●鎬城 彌	●伊豆一雄、●伊藤 武、●岡村直治、小林元康、佐藤吉彦		監事・大島庄市
44	●栗原貞次郎	●小林元康	●高橋マサ、●花澤洋吉、●鈴木 孝、関原一治、伊藤一雄		
45	●栗原貞次郎	●伊豆一雄	●岡村常吉、●関原一治、●小林元康、佐藤賢吉、中島富夫		
46	●栗原貞次郎	●伊藤 武	●伊豆一雄、●佐藤吉彦、●小林元康、佐藤賢吉、中島富夫		監事・吉川 清、研究班長・桑原昭久、柴野 正
47	●伊豆一雄	●伊藤 武	●古川 清、●佐藤吉彦、●小林元康、田村敏行、中島富夫、佐藤賢吉		●会長・栗原貞次郎、研究班長・桑原昭久、小幡武代
48	●小林元康	●伊藤 武	●佐藤吉彦、●須田京子、佐藤賢吉、中島富夫、田村敏行、五十嵐 公		●会長・栗原貞次郎、監事・中島富夫、研究班長・桑原昭久、小幡武代、小林元康
49	●小林元康	●岡村常吉	●佐藤吉彦、●田村敏行、●中島富夫、青木千鶴、五十嵐 公、佐藤賢吉、佐藤富子、永村 薫		研究班長・桑原昭久、小幡武代、小林元康
50	●桑原昭久	●中島富夫	●黒鳥繁雄、●鈴木 孝、●田村敏行、●富永富市、青木千鶴、五十嵐 公、佐藤賢吉、佐藤富子、永村 薫		研究班長・桑原昭久、田中俊夫、岩本久司、青木千鶴、小林春治
51	●中島富夫	●横山政徳	●黒鳥繁雄、●鈴木 孝、●大橋代次郎、●富永富一、青木千鶴、佐藤富子、藤木 守、佐野通子、岩本久司		監事・佐藤賢吉、研究班長・岩本久司、青木千鶴、渡辺昭一、小林春治
52	●中島富夫	●岡村常吉	●横山宏平、●鈴木 孝、●大橋代次郎、●富永富一、青木千鶴、佐藤富子、藤木 守、佐野通子、岩本久司		研究班長・岩本久司、山本 修、青木千鶴、渡辺昭一

●印は県理事兼務

(社) 新潟県臨床検査技師会中越支部役員歴一覽

●印は県常任理事・県理事

昭和53年	昭和54年	昭和55年	昭和56年	昭和57年
支部長：●佐藤賢吉	支部長：●佐藤賢吉	支部長：●佐藤賢吉	支部長：●佐藤賢吉	支部長：●佐藤賢吉
副支部長：●横山宏平	副支部長：●高野了	副支部長：●間島浩	副支部長：●富永一郎	副支部長：●富永一郎
会計：中沢京子	会計：中沢京子	会計：坂田房子	会計：坂田房子	会計：坂田房子
庶務：●岩本久司	庶務：平井知恵子	庶務：●北沢江利子	庶務：●北沢江利子	庶務：●北沢江利子
広報：吉野司郎 小林幸子	広報：小林幸子	広報：長谷川邦雄 遠藤恵美子	広報：長谷川邦雄 ●阿部常一	広報：●阿部常一 長谷川邦雄
会誌発送：	会誌発送：	会誌発送：	会誌発送：	会誌発送：
学術：●高野了 平井智恵子 風巻忠夫 高橋吉彦	学術：●間島浩 風巻忠夫 高橋吉彦	学術：●阿部常一 関口正夫	学術：●富永一郎 関口正夫	学術：●富永一郎 関口正夫
組織：●富永富一 小林元康 中野さよ子	組織：●富永富一 ●濁川昇	組織：●濁川昇 ●間島浩 小林元康 小林幸子	組織：●川村峰穂 宮路久子 鈴木民子	組織：●川村峰穂 宮路久子 鈴木民子
県副会長：●小林元康	県副会長：●小林元康	県副会長：●小林元康	県副会長：●小林元康	県副会長：●小林元康
表彰委員：中島富夫	表彰委員：中島富夫	表彰委員：中島富夫	表彰委員：中島富夫	表彰委員：中島富夫
監事：●田村敏行	監事：	監事：	監事：	監事：
顧問：	顧問：	顧問：	顧問：	顧問：

(社) 新潟県臨床検査技師会中越支部役員歴一覽

昭和58年	昭和59年	昭和60年	昭和61年	昭和62年
支 部 長：●佐藤賢吉	支 部 長：●佐藤賢吉	支 部 長：●吉川清	支 部 長：●吉川清	支 部 長：●青木千鶴
副支部長：●吉川清	副支部長：●吉川清	副支部長：●青木千鶴	副支部長：●青木千鶴	副支部長：●五十嵐公
会 計：倉品代喜子	会 計：倉品代喜子	会 計：●高木容子	会 計：●高木容子	会 計：●広井峰行
庶 務：●青木千鶴	庶 務：●青木千鶴	庶 務：●青木千鶴	庶 務：●青木千鶴	庶 務：鈴木隆一
広 報：神林光輝	広 報：神林光輝	広 報：関原一治	広 報：関原一治	渡辺英子
●吉川清	●吉川清	会誌発送：	会誌発送：	広 報：角谷文司
会誌発送：	会誌発送：	学 術：富永一郎	学 術：富永一郎	鈴木隆一
学 術：●富永一郎	学 術：●富永一郎	●広井峰行	●広井峰行	会誌発送：角谷文司
●広井峰行	●広井峰行	●関口正夫	●関口正夫	●風間喜代子
●関口正夫	●関口正夫	阿部雅典	阿部雅典	学 術：●五十嵐公
●三宅章	●三宅章	北沢洋子	北沢洋子	●関口正夫
組 織：小川正明	組 織：小川正明	高頭秀吉	高頭秀吉	秋山俊彦
●小林元康	●小林元康	北沢江利子	北沢江利子	山口勇司
布施利夫	布施利夫	宮嶋長治	宮嶋長治	組 織：山崎将宏
県副会長：●小林元康	県副会長：●小林元康	組 織：●吉川清	組 織：●吉川清	柳田良子
表彰委員：中島富夫	表彰委員：中島富夫	県 会 長：●小林元康	県 会 長：●小林元康	小林元康
監 事：高木容子	監 事：高木容子	表彰委員：小林春治	表彰委員：小林春治	県 会 長：●小林元康
願 問：	願 問：	監 事：	監 事：	表彰委員：小林春治
		願 問：	願 問：	監 事：
				願 問：

(社) 新潟県臨床検査技師会中越支部役員歴一覽

昭和63年	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年
支部長：●青木千鶴	支部長：●青木千鶴	支部長：●青木千鶴	支部長：●山崎將宏	支部長：●山崎將宏
副支部長：●五十嵐公	副支部長：●山崎將宏	副支部長：●山崎將宏	副支部長：●山口勇司	副支部長：●山口勇司
会計：●広井峰行	会計：●広井峰行	会計：●広井峰行	会計：佐藤誠子	会計：佐藤誠子
庶務：鈴木隆一	庶務：棚橋俊子	庶務：棚橋俊子	庶務：山内由利子	庶務：山内由利子
渡辺英子	広報：●山口勇司	広報：●山口勇司	広報：●星周一郎	広報：●星周一郎
広報：角谷文司	会誌発送：須佐稔	会誌発送：須佐稔	会誌発送：諏佐稔	会誌発送：諏佐稔
鈴木隆一	上杉貞子	上杉貞子	学術：●田中保	学術：●田中保
会誌発送：角谷文司	学術：●井口修	学術：●井口修	●長谷川利春	●長谷川利春
●風間喜代子	●星周一郎	●星周一郎	村山睦男	村山睦男
学術：●五十嵐公	●長谷川利春	●長谷川利春	山田玲子	山田玲子
●関口正夫	片桐宏至	片桐宏至	組織：●山口勇司	組織：●山口勇司
秋山俊彦	組織：●山崎將宏	組織：●山崎將宏	原正人	原正人
山口勇司	岩本洋子	岩本洋子	宮沢裕子	宮沢裕子
組織：山崎將宏	柳明美	柳明美	県副会長：●青木千鶴	県副会長：●青木千鶴
柳田良子	県副会長：	県副会長：	表彰委員：柴野正	表彰委員：柴野正
小林元康	表彰委員：小林春治	表彰委員：小林春治	監事：藤田栄六	監事：藤田栄六
県会長：●小林元康	監事：	監事：	小杉仁志	小杉仁志
表彰委員：小林春治	顧問：	顧問：	顧問：栗原貞次郎	顧問：栗原貞次郎
監事：				
顧問：				

(社) 新潟県臨床検査技師会中越支部役員歴一覽

平成 5年	平成 6年	平成 7年	平成 8年	平成 9年
支 部 長：●山 崎 將 宏	支 部 長：●山 崎 將 宏	支 部 長：●山 崎 將 宏	支 部 長：●山 崎 將 宏	支 部 長：●岩 本 久 司
副支部長：●山 口 勇 司	副支部長：●山 口 勇 司	副支部長：●山 口 勇 司	副支部長：●山 口 勇 司	副支部長：●長谷川 利 春
会 計：山 田 弘 美	会 計：山 田 弘 美	事 務 局：●岩 本 久 司	事 務 局：●岩 本 久 司	事 務 局：●吉 原 正 弘
庶 務：山 内 由 利 子	庶 務：山 内 由 利 子	会 計：高 野 淳 子	会 計：高 野 淳 子	会 計：山 崎 美 智 子
広 報：●岩 本 久 司	広 報：●岩 本 久 司	庶 務：柳 春 美	庶 務：柳 春 美	庶 務：笠 原 夕 香
会誌発送：小 暮 尚 美	会誌発送：小 暮 尚 美	広 報：●吉 原 正 弘	広 報：●吉 原 正 弘	広 報：●田 中 裕 人
学 術：●長谷川 利 春	学 術：●長谷川 利 春	会誌発送：長谷川 美和子	会誌発送：長谷川 美和子	保 科 清 子
●吉 原 正 弘	●吉 原 正 弘	学 術：●長谷川 利 春	学 術：●長谷川 利 春	笠 原 夕 香
堀 貢	堀 貢	田 中 裕 人	田 中 裕 人	会誌発送：保 科 清 子
富 田 暁 美	富 田 暁 美	寺 門 義 明	寺 門 義 明	学 術：●山 口 勇 司
組 織：●山 口 勇 司	組 織：●山 口 勇 司	藤ノ木 良 一	藤ノ木 良 一	黒 澤 芳 子
原 正 人	原 正 人	組 織：●山 口 勇 司	組 織：●山 口 勇 司	山 田 泰 久
関 谷 守	関 谷 守	田 村 英 行	田 村 英 行	小 杉 仁
鎌 田 アヤ子	鎌 田 アヤ子	相 川 千 鶴 子	相 川 千 鶴 子	組 織：●長谷川 利 春
県副会長：●青 木 千 鶴	県副会長：●青 木 千 鶴	生涯教育：●木 村 明	生涯教育：●木 村 明	黒 崎 和 広
表彰委員：柴 野 正	表彰委員：柴 野 正	県副会長：●青 木 千 鶴	県副会長：●青 木 千 鶴	小 島 誠
監 事：柴 野 正	監 事：柴 野 正	表彰委員：柴 野 正	表彰委員：柴 野 正	生涯教育：●木 村 明
古 川 一 三	古 川 一 三	監 事：柴 野 正	監 事：柴 野 正	県副会長：●山 口 勇 司
願 問：栗 原 貞 次 郎	願 問：栗 原 貞 次 郎	秋 山 俊 彦	秋 山 俊 彦	表 彰 委 員：柴 野 正
		願 問：栗 原 貞 次 郎	願 問：栗 原 貞 次 郎	監 事：秋 山 俊 彦
				神 田 浩 一
				願 問：栗 原 貞 次 郎
				山 崎 將 宏

(社) 新潟県臨床検査技師会中越支部役員歴一覽

平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年
支部長：●岩本久司	支部長：●吉原正弘	支部長：●吉原正弘	支部長：●吉原正弘	支部長：●吉原正弘
副支部長：●長谷川利春	副支部長：●長谷川利春	副支部長：岩本久司	副支部長：●星周一郎	副支部長：●星周一郎
事務局：●吉原正弘	事務局：●高橋英雄	事務局：●高橋英雄	事務局：●高橋英雄	事務局：●高橋英雄
会計：山崎美智子	会計：小片早千子	会計：小片早千子	会計：永井久美子	会計：永井久美子
庶務：笠原夕香	庶務：品田恭子	庶務：品田恭子	庶務：村山晶子	庶務：新井礼子
広報：●田中裕人	広報：●田中裕人	広報：●田中裕人	藤木知恵子	藤木知恵子
保科清子	山之内清子	山之内清子	広報：●田中裕人	広報：●田中裕人
笠原夕香	品田恭子	品田恭子	河合真理江	河合真理江
会誌発送：保科清子	会誌発送：山之内清子	会誌発送：山之内清子	学術：●星周一郎	学術：●星周一郎
学術：●山口勇司	学術：●長谷川利春	学術：岩本久司	高藤博	高藤博
田巻文雄	岩下ゆかり	岩下ゆかり	中村道夫	中村道夫
山田泰久	田中幹人	関谷守	組織：●山口勇司	組織：●山口勇司
小杉仁	組織：●山口勇司	組織：●山口勇司	黒崎一雄	黒崎一雄
組織：●長谷川利春	岩本久司	小川貢	吉田和文	吉田和文
黒崎和広	小川貢	藤田桂子	生涯教育：●木村明	生涯教育：●木村明
小島誠	藤田桂子	生涯教育：●木村明	県副会長：●山口勇司	県副会長：●山口勇司
生涯教育：●木村明	生涯教育：●木村明	県副会長：●山口勇司	表彰委員：富永一郎	表彰委員：富永一郎
県副会長：●山口勇司	県副会長：●山口勇司	表彰委員：富永一郎	監事：石田啓市	監事：石田啓市
表彰委員：富永一郎	表彰委員：富永一郎	監事：富永一郎	関口正夫	関口正夫
監事：秋山俊彦	監事：富永一郎	神田浩一	顧問：栗原貞次郎	顧問：栗原貞次郎
神田浩一	神田浩一	顧問：栗原貞次郎	山崎将宏	山崎将宏
顧問：栗原貞次郎	顧問：栗原貞次郎	山崎将宏	小林元康	小林元康
山崎将宏	山崎将宏	☆田中(幹)中途退任		☆高橋・村山中途退任

(社) 新潟県臨床検査技師会中越支部役員歴一覽

平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
支 部 長：●吉 原 正 弘	支 部 長：●吉 原 正 弘	支 部 長：●坂 西 清	支 部 長：●坂 西 清
副支部長：●黒 崎 一 雄	副支部長：●黒 崎 一 雄	副支部長：●田 村 英 行	副支部長：●田 村 英 行
事 務 局：●坂 西 清	事 務 局：●坂 西 清	事 務 局：●横 山 修 市	事 務 局：●横 山 修 市
会 計：阿 部 照 江	会 計：阿 部 照 江	会 計：長谷川 好 江	会 計：長谷川 好 江
庶 務：新 井 礼 子 杵 渕 典 子	庶 務：新 井 礼 子 杵 渕 典 子	庶 務：新 井 礼 子 浅 野 幾 子	庶 務：新 井 礼 子 浅 野 幾 子
広 報：●田 中 裕 人 津 端 恵 子	広 報：●田 中 裕 人 津 端 恵 子	広 報：笹 岡 悠 一	広 報：笹 岡 悠 一
学 術：丸 山 千 恵 子 久 住 摂 子 原 正 人	学 術：丸 山 千 恵 子 久 住 摂 子 原 正 人	学 術：●横 山 修 市 ●小 畑 貢 宮 真 理 子	学 術：●横 山 修 市 ●小 畑 貢 宮 真 理 子
組 織：●黒 崎 一 雄 ●吉 田 和 文 小 船 井 和 弘	組 織：●黒 崎 一 雄 ●吉 田 和 文 小 船 井 和 弘	組 織：●吉 原 正 弘 ●田 村 英 行 今 村 真 明 良	組 織：●吉 原 正 弘 ●田 村 英 行 今 村 真 明 良
生涯教育：●木 村 明	生涯教育：●木 村 明	生涯教育：●木 村 明	生涯教育：●木 村 明
県副会長：●吉 原 正 弘	県副会長：●吉 原 正 弘	県副会長：●吉 原 正 弘	県副会長：●吉 原 正 弘
表彰委員：富 永 一 郎	表彰委員：富 永 一 郎	表彰委員：秋 山 俊 彦	表彰委員：秋 山 俊 彦
監 事：石 田 啓 市 小 林 幸 子	監 事：長谷川 利 春 手 塚 宗 昭	監 事：長谷川 利 春 手 塚 宗 昭	監 事：長谷川 利 春 手 塚 宗 昭
願 問：栗 原 貞 次 郎 山 崎 將 宏 小 林 元 康	願 問：栗 原 貞 次 郎 山 崎 將 宏 小 林 元 康	願 問：栗 原 貞 次 郎 山 崎 將 宏 小 林 元 康	願 問：栗 原 貞 次 郎 山 崎 將 宏 小 林 元 康
	☆監事、石田・小林中途退任		

発会式の呼びかけ

謹啓 秋冷の候益々御清栄の段大慶に存じます。

此の度県下衛生検査技術者待望の検査技師条例が県議会を通過したことは、すでにご承知のことと存じますが、皆様と共に欣快に至りでございます。

就きましては、本条例に基く今後の対策と技術相互の親睦を図るべく、左記事項について協議致したいと思しますので貴施設検査担当者諸君の出席方の御配慮を賜ります様お願い致します。

記

一. 日 時 自 10月13日（土曜日）午後3時
至 10月14日（日曜日）

一. 場 所 長岡市 長岡温泉

一. 議 題

1. 条例成立迄の経過説明
2. 条例に基く今後の対策
3. 衛生検査協会中越地区分会（仮名）結成について
4. その他

昭和31年10月5日

長岡地区衛生検査技術者研究会会長

栗原貞次郎

各保健所長殿

各病院長殿

（原文縦書きを横書きに変更して掲載）

中越地区発会式参加者

小林元康（与板保健所）、嶋田一男、石原武治（栃尾保健所）、石田好忠（小出保健所）、田沢哲哉（小千谷支所）、田中達夫（小千谷病院）、佐藤賢吉（魚沼病院）、八百坂昭二（三条病院）、黒鳥繁雄、福島 巖、栢沢洋吉、宮島 渉（中央病院）、佐藤九十九（栃尾郷病院）、関口徳二、岡村常吉（十日町保健所）、吉野司郎（大割野病院）、鈴木寿一、伊藤 武（六日町保健所）、栗原貞次郎、石川行恵（長岡保健所）、若月敏雄、橋本金吉、伊豆一雄、柴野 正（長岡日赤）、田中俊夫（立川病院）、太刀川四（三条保健所）

中越地区衛生検査技術者協会規約

(発 足 当 時)

- 第1条 本会は中越地区衛生検査技術者協会と称し事務所を長岡保健所に置く。
- 第2条 本会の会員は中越地区に於いて衛生検査の技術に従事しているものとする。
- 第3条 本会は会員の技術並に知徳の向上を計るを目的とする。
- 第4条 本会は前条の目的達成の為左の事業を行う。
1. 会員相互の研究調査発表会及び講習会
 1. 検査技術に対する情報の交流
 1. 会員の福祉増進に対する計画の実施
 1. その他必要と認められる事項
- 第5条 本会に左の役員を置く。
- 会長1名、副会長1名、幹事若干名（内1名会計を兼ねる）
- 役員は総会に於てこれを選出するものとする。役員任期は1ケ年とするも留任は妨げない。
- 第6条 本会に顧問をおき役員会の議を経て会長これを委嘱す。
- 第7条 会議は総会並びに役員会の2種とする。総会は毎年1回之を開催し、役員会は会長必要に応じて招集する。臨時総会を開くことが出来る。
- 第8条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わり次年度総会において会計の報告をする。
- 第9条 本会の会費は年額百円とし、4月に前納するものとする。
- 第10条 本会に入会しようとする者は、入会申請書に所定の事項を記入し会長に申し込むものとする。
- 第11条 本会の運営は会費及び寄附金等に依り充当する。
- 第12条 本規約は総会の決議に依らなければ変更することが出来ない。
- 第13条 本規約は昭和31年10月13日より施行する。

以上

(原文縦書きを横書きに変更して掲載)

社団法人 新潟県臨床検査技師会中越支部規約

- 第1条 この会は、社団法人新潟県臨床検査技師会中越支部と称し、事務所を支部長所属の施設に置く。
- 第2条 この会は、会員の技術並び知徳の向上を図り、もって地域の保健衛生に寄与することを目的とする。
- 第3条 この会は、前条の目的達成のため、次の事業を行う。
- (1) 研究・調査・発表及び講習会の実施。
 - (2) 衛生思想の普及と地域保健事業への協力。
 - (3) 検査技術に関する情報の交流。
 - (4) 会員の福祉増進に関する事業。
 - (5) その他前条の目的達成に必要な事業。
- 第4条 この会の会員は、中越地区に居住または勤務する臨床検査技師で本会の目的に賛同して入会した者とする。
- 第5条 この会に入会しようとする者は、入会申し込み書に所定の事項を記入し支部長に申し込むものとする。
- 第6条 この会を退会しようとするときは、その旨を文書で支部長に届けなければならない。
- 第7条 この会の運営は、会費及び寄付金等をもって当てる。
2. 会費は年額1,000円とし、前納する。
 3. 会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。
- 第8条 この会に次の役員を置く。
2. 支部長1名、副支部長1名、理事若干名、監事2名。
 3. 前項の役員は、別に定める規定により選出し、総会に報告する。
 4. 支部長、副支部長、県理事は、理事の互選とする。
 5. 理事及び監事は、相互に兼任することができない。
 6. 役員の内任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 第9条 この会に、顧問並びに名誉会員を置くことができる。
2. 顧問並びに名誉会員は、学識経験者及び本会の功労者の中から理事の承認を得て支部長が委嘱する。
 3. 顧問並びに名誉会員は、会費を納入することを要しない。
- 第10条 この会の会議は、総会及び理事会とする。総会は、年1回開催し、理事会は支部長が必要に応じて開催する。臨時総会を開催することができる。
2. 会議の議事は、出席者の過半数の同意により決定する。
- 第11条 この会の事業計画及び予算は、その事業年度開始前に総会の議決を得なければならない。
- 第12条 この会の事業報告及び決算は、その年度終了後2月以内に監事の監査を経て、総会の承認を得なければならない。
- 第13条 この規約は総会の議決を経なければ変更することができない。

付 則

1. この規約は昭和31年10月13日より施行する。
2. 昭和44年3月15日一部改定
3. 昭和52年4月1日一部改定
4. 昭和62年4月1日一部改定
5. 平成3年3月30日一部改定
6. 平成18年3月11日一部改定

社団法人 新潟県臨床衛生検査技師会

中越支部役員選出規程

第1条 中越支部規約第8条第3項により役員選出はこの規程の定めるところによる。

第2条 中越支部役員選出委員会を設ける。

2項 委員の定数は7名とし、別表1の地区より選出する。

3項 前項の委員は、支部長が委嘱する。

4項 役員選出委員長は委員の互選により選出する。

5項 委員の任期は2年とする。

第3条 役員の選出方法は、別表による他、役員選出委員会に委ねる。

第4条 役員の選出結果は総会の承認を得る。

第5条 この規程は、理事会の議決を経なければ変更することができない。

【別表1】役員選出委員及び役員選出区分

役員選出委員	理事*	監事	地区
1	1		三条市、加茂市、南蒲原郡
2	5		長岡市、見附市、栃尾市、三島郡、古志郡
1	1	2	柏崎市、刈羽郡
2	2		小千谷市、北魚沼郡、南魚沼郡
1	1		十日町、中魚沼郡

*印 各地区より選出する理事の最低数。

付 則

1. この規約は平成3年3月30日より施行する。

昨年秋の大会に加え、今年夏も入った喜びまたの
 ほか、空を見ても嫁に穿つてみて、皆様方には公私
 共にご多忙な毎日をお過ごしのことと思っております。今年夏もあま
 すと、1か月に及びました。3月下旬には中越支部総会・研
 究会、新潟県に入り4月早々新潟県総会・研究会、4月下旬
 には日社総会・学会が相ついで行われます。皆様方
 には奮ってご参加下さるようお願いいたします。

◎ 中越支部総会・研究会について

とき： 昭和52年3月26日(土) 午後1時～4時
 ところ： けさじろ荘

総会提案事項 中越支部会費の値上げについて(200円→500円)
 各種物価、交通費、通信費等一連の値上がりで、支部財政に困難を来
 した弊中会も満足に開催できない状態になってきました。そのため
 今回の値上げ案が提案されることになりました。これを西現場で十分審議
 して下さる。ちなみに県下各支部の会費は次のとおりです
 (上越支部 500円 下越支部 300円 新潟支部 500円)
 (佐渡支部 1,000円)
 総会費に行われる研究会については、不研北字KKにお願ひしてあ
 りますが、講師名および議題なども未定です。後日お知らせいたし
 ます。なお研究会終了後懇親会を開催する予定です。

◎ 昭和52年度狭い選衛委員会の開催について

とき： 昭和52年3月26日(土) 午前10時
 ところ： 新潟中央総合病院
 役員選衛委員長 五十嵐 公 (日赤) 小千谷地区、小出地区
 〃 選衛委員 三宅 幸 (田舎) は未定
 〃 〃 金子 陽子 (日赤総合)
 〃 〃 赤原 芳子 (相野原)
 〃 〃 吉野 可即 (津南)

◎ 行事開催報告

1 研究会： 昭和51.11.27 新潟中央総合病院 文芸雑誌の文壇と理論
 参加者 25名

(研究会終了後日誌会費値上げについて会員の意向を調査したところ、
 3割加算の旨が決定され、ご意向)

2 親善バレーボール大会： 昭和51.12.4 参加チーム 3チーム

優勝 日赤チーム、二位 立川チーム、三位 中央チーム
 今回から優勝チームへカップを贈呈した。今度からの大会
 もカップ争いへの強張りして下さい。高つてご参加下さい。

◎ 会員の移動

新入会 吉田内科病院 曾根信子
 移動 加茂西院 佐藤京子(細金厚子)→埼玉県へ

◎ 県医師会関係情報

1 県医師会および研究会
 昭和52年4月8日9日 新潟市

(県の総会においても会費規定の改正および県医師会費 2000円→2500円)
 の値上げが提案される予定です)

2 会費の納入について

昭和52年度 日社総会費 2,000円 県総会会費 2,000円 薬剤の方
 針早急(21号)に 中央病院 青木幹事まで納入して下さい。

3 移動・改姓の届け 中央病院 中島幹事までお知らせ下さい。

やまあい

Yamaai No.7 52.2.21

発行 新潟県衛生検査技師会 中越支部

◎ 支部 総 会 日 程 決 ま る

去る1月25日(水)長岡保健所において支部幹事会を囲み支部総会及び講習の日程を下記のように決定しました。

日 時 昭和53年3月26日(土) 午後1時より
場 所 長岡中央総合病院 講堂

総 会 及 び 講 義

(講義については未定)

終了後ささやかではありますが無題視会を行います。

◎ 県 技 師 会 の 動 向

○ 第32回新潟県臨床衛生検査技師会研究会について

日 時 昭和53年4月6日(木)7日(金)
場 所 東映ホテル(予定)

第1日 特別講演 内分泌関係 前大 尾形先生

定期総会

第2日 一般演題 多題

技術講座

生理(心電図の解説)

衛生会病院 河辺先生

シンポジウム 2題

生化学検査研究班のコントロールペ

他 / 題

特別講演 / 題

心電図解説の時間中に生理以外の技術講座を予定

○ 新潟県臨床検査技師会誌100号記念行事。

昭和53年2月1日発行のもの、実際は101号とほぼ同じ頒布予定

★ 委 換 し

Yamaai No.12 S. 53. 2. 1

発 行 新潟県臨床衛生検査技師会 中越支部

記念祝賀会は研究会会ノ日目4月6日(木)午後5時より行なう。

○ 厚生大臣に陳情

昭和53年1月7日本県の小沢厚生大臣がお国入りの際(会長以下5名で)下記のことより新潟県技師会として陳情した。

1. 臨床検査技師の業務制限拡大と教育制度(4年制)。
2. 臨床検査所の許可制。

○ 永年表彰について

新潟県技師会に員の永年表彰を技師会として行うか。

詳細については組織、事務局長、庶務、技師、29名より県単任幹事会(2月5日)県幹事会(2月25日)総会まで各討議が行なわれ決定。

○ 第30回日本臨床衛生検査学会開催地(立候補(講師 松本 一博)新潟県の他新潟県と立候補しており、これからの努力が必要である。

○ 日臨技会会長に佐藤乙一代を推せん。

新潟県技師会では会長に佐藤乙一代、理事に小島福太郎氏、幹事に小本氏(秋田)を推せんしました。

研究班より

細胞診研究班 2月24日(金)PM1時より 新潟鉄道病院

化学研究班 GOT、GPTのコントロールカーベイ配布

尚配布に成績記入用紙にミスプリントがあり記入環境にそって記入の

研究会でのシンポジウム「トランスアミナーゼの測定時における誤差要因、アルカリ濃度の濃度及び分析方法による誤差」を中越支部で受持することになりました。

支部よりのお祝い

○ 各地区(支部役員単位)より支部委員の選挙委員を2月末までに決め中央病院中越支部(選挙)委員会は3月25日(土)11時より長岡中央病院において開きます。

○ 会費納入について

53年2月末日まで2000円(日任技5000 新任技2500円中越支部500円)を中越支部に納入してください。

尚2月末日までに納入の会費については日任技会誌送付の5月よりリストアップします。

施設負担のことは一時立話にて支拂い載りますのでご協力下さい。

○ 第3回バレーボール大会小千谷病院チームが優勝

去る52年12月3日に行なわれた中越バレーボール大会において初参加の小千谷病院チームが優勝(2位に立川病院、3位日赤病院、4位中央病院)した。大会終了後無題視会がバニタムに行なわれた。

○ 会員移動 岸原若子(新潟県養老所) 阿部若子(改姓)

やまあい

Ya ma ai 1979.9.22 No 25

発行：新潟県臨床衛生検査技師会 中越支部

9月も下旬に入り、しのぎやすくなつてまいりました。食欲の秋、読書の秋…… 皆様にはどのような秋でしょうか？

バレー・ボール大会

● 中越支部はオ三位に

9月2日新潟医療技術専門学校体育館で熱戦がくりひろげられ、中越チームは健闘をなしくオ三位に終わりました。なお中越支部は次の各位が参加しました。御苦労様でした。

● 風間 裕子(加茂)、青木 千鶴(中央)、永井久美子・宮下早千子(日赤)、高橋 幸彦・長谷川邦雄(立川)、相泉 孝子(小千谷)、富永一郎・佐藤ひめ子(小出)、小川 貢(大和)、鈴木 隆一・山田 恵子・藤ノ木良一(津南)、赤坂 亜美(十日町保)、小林 元康(長岡保)、佐藤 賢吉(魚沼)。

栗原元会長 永年功勞で表彰

オ20回東北学会が、10月6日7日の両日盛岡市で開催されますが、この席上、20回学会を記念して、技師会に功績のあつた会員を、各県1名表彰することになり、県技師会では栗原元会長(長岡市医師会保健衛生センター)を推せんした。

やまあい

Yamaai NO.33 S.58.5.23

発行 新潟県衛生検査技師会中越支部

新緑の候、各位にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
さて去る3月26日、長岡医師会館での58年度支部定期総会にて新役員
が選出されましたが、才1回幹事会を4月23日に開き業務分担と下記の
ように決定しました。又今回は各ブロックの連絡責任者と決めましたので、
併せてお知らせします。

○業務分担

会長 ◎佐藤賢吉(魚沼病院)

副会長 ◎吉川 清(十日町病院)

組織 佐藤賢吉(魚沼病院) ◎小林元康(三条保健所)

小川正明(三之町病院) 布施利夫(長岡日赤病院)

◎高木容子(長岡日赤病院)

学術 吉川 清(十日町病院) ◎三宅 章(田宮病院)

◎富永一郎(小出病院) 関口正夫(小千谷病院)

広井峰行(立川病院)

庶務 ◎青木千鶴(中央病院)

会計 倉品代瓦子(中央病院)

編集 神林光輝(刈羽郡病院)

◎ 県幹事

○ 各委員担当区域

魚沼地区(関口正夫) 5

国立小千谷療養所、魚沼病院、小千谷総合病院、

堀之内病院、新潟県保健衛生センター中越支部

小出地区(富永一郎) 9

小出保健所、県立小出病院、町立大和病院、

六日町保健所、県立六日町病院、国保城内病院

五日町病院、小出検査センター、北里保健衛生学院

柏崎地区(神林光輝) 8

柏崎保健所、国立療養所新潟病院、会田医院

刈羽郡総合病院、柏崎病院、金沢病院

柏崎メジカルセンター、高柳町国保診療所

三条地区(小川正明) 7

県立加茂病院、三条保健所、三条総合病院、済生会三条病院

三之町病院、塚野日診療所、三条臨床検査所

十日町地区(吉川 清) 5

町立津南病院、上村病院、県立十日町病院、中赤病院、

十日町保健所、

長岡地区A(三宅章) 4

長岡保養園、田宮病院、宮内病院、三島病院、

長岡地区B(広井峰行) 4

立川総合病院、県立悠久荘、長岡医師会保健衛生センター、与板保健所

長岡地区C(布施利夫、高木容子) 7

長岡赤十字病院、中越臨床検査センター、北越病理センター、
日本細胞研究所、国立寺泊療養所、フコ-白岩の里、
新潟県環境衛生中央研究所、

長岡地区D(青木千鶴、倉品代子) 6

中央総合病院、病理センター、栃尾柳病院、
長岡保健所、手師医院、嵐南メジカルセンター、

庶務部

菅病院、伊藤武、小室真弓、服部綾子
酒井正枝、大湊淳子、 (取替略)

一 県技師会より

5月14日理事会を開き、昭和58年度投取分担と次の通り決定した。

- 会長 小島福太郎
- 副会長 横山政徳(編集担当、日臨技編集連絡責任者)
- 小林元康(組織担当)
- 近藤進(学術担当、日臨技学術研究班班長)
- 事務局長 大島博(無料取業相談責任者)
- 庶務 長岡栄広、森山英子、大湊裕子
- 会計 相田清治
- 学術 小形久、小出三弥、長谷川富樹
- 編集 中川則雄(会長指名)
- 組織調査 阿部康彦、高橋克行

- 上越担当 飯塚文弘
- 中越担当 佐藤賢吉
- 下越担当 植口興三
- 佐渡担当 有藤良夫
- 新潟担当 横山政徳

業務災害対策委員長 小島福太郎

〃 委員 横山政徳、小林元康、近藤進、
大島博、災害発生該当支部長、

○ 研究班

今年度は輪血、公衆衛生の二班で委員長が交代予定です。現在入選が進められており、決定次第班長会議を開いて今後の計画を立案することになっています。

○ 会員の異動と会誌等の送付先について

会員の異動に伴い、会誌等の送付先が旧住所で新任所になか
はか送られないことが時々あり、お叱りを受けるわけですが、会員の
異動に際しては、会員名簿作成時に新しくしたからそれでよいという事
ではなく、必ず「異動届」を出して下さい。記入する旧住所、施設名は、
日臨技会誌が送られて来る際の宛名を記入していただくことです。
現在このような例がありましたら、以前届出された方も、もう一度支部
長まで御連絡下さい。

東北学会 演題について

中越支部より長岡赤十字病院、小出病院の二施設が演題を
予定しております。演題を申込まれた施設の抄録のメットが厚へは
7月25日必着です。遅れないようお願い致します。

会員名簿 未提出の方は早急に支部長までお送り下さい。

秋の気配は次第に濃く付て来たり。皆様には
お喜ありませんか。

「やまあい」の活動に無沙汰なれども、今年度
計画した勉強会の方は順調に進行しています。
今後共 皆様のお参加をお願いいたします。此
から何かと行事が多くなります。決定事項、連
絡事項等をご報告いたします。

- 第25回 東北臨床衛生検査学会
奨励賞に小出病院 富永一郎技師の受賞が
内定しました。おめでとうございます。
- 第44回 新潟県臨床衛生検査技師会研究会
長岡市で開催決定しました(長岡市では4回目)
月日: 59年11月9日~10日。

やまあい

Yamaai NO 38 S 59. 9. 18
発行 新潟県衛生検査技師会中越支部

会場: 中越県協会館

特別講演、講師 < 中央綜合病院長 亀山宏平先生
長岡ペンクラブ会長 羽賀善哉先生

- 成人予防の集い(動脈硬化性疾患研究会主催)
10月8日~9日 長岡大和デパート5階で開催
技師会でも協力団体として検査技師を派遣し協力
する事にいたしました。

検査内容: 心電図、肌波、血液、尿検査

長岡地区より、日赤、中央、立川の各病院にご協力
を厚願いたしました。ご苦勞様です。

- 第44回 研究会の研究発表募集
長岡での開催であり、中越支部会員より多数の
発表を期待しています。
- 細菌学勉強会のお知らせ

日時: 59年9月29日(土) PM. 2.00~5.00

会場: 厚生連中央綜合病院 第2会議室

演題: 「ゲノマレシ血中濃度測定」
— バイオアッセイによる簡易測定法 —

田宮病院

三宅章 技師

阿部雅典 技師

以上

やまあい

Yamaai NO.40 S.60.5.25

発行 新潟県臨床衛生検査技師会 中越支部

花の季節は過ぎ新緑の頃となりました。県技師会総会も終り、新年度の活動が始まりました。中越支部では役員の交替も相当あり、過日の役員会で職務分担、担当地区、学術関係の分担などが決まりましたので概要をお知らせします。

○業務分担

会 長	組 織	◎ 吉 川 清	県立十日町病院
庶 務	◎ 背 木 千鶴	厚生連中央総合病院	
編 集	関 原 一治	長岡保健所	
学 術	◎ 富 永 一 郎	県立十日町病院	
会 計	◎ 高 木 容 子	長岡赤十字病院	
学 術	◎ 広 井 峰 行	立川総合病院	
"	◎ 関 口 正 夫	小千谷総合病院	
"	◎ 阿 部 雅 典	田宮病院	
"	北 沢 洋 子	厚生連中央総合病院	
"	高 頭 秀 吉	長岡赤十字病院	
"	北 沢 江 利 子	厚生連三条総合病院	
"	宮 島 長 治	金沢病院	

◎ 印は県技師会の理事を兼ねております。

○担当地区

△魚沼地区（関口正夫）10

国立小千谷療養所、魚沼病院、小千谷総合病院、堀之内病院、新潟県保健衛生センター中越支部、小出保健所、県立小出病院、町立大和病院、五日町病院、小出検査センター、

△十日町地区（富永一郎・吉川清）14

町立津南病院、上村病院、県立十日町病院、中条病院、十日町保健所、六日町保健所、県立六日町病院、国保城内病院、北里保健衛生学院、山口医院、斎藤記念病院、

△柏崎地区（宮島長治）11

柏崎保健所、国立療養所新潟病院、会田医院、労働衛生医学協会、刈羽郡総合病院、柏崎病院、金沢病院、柏崎メジカルセンター、高柳町国保診療所、東電新潟原子力保健安全センター、小林美佐子（自宅）、

△三条地区（北沢江利子）8

県立加茂病院、三条保健所、三条総合病院、済生会三条病院、三之町病院、塚野目診療所、三条臨床検査所、坂内小児科医院、

△長岡地区 A（阿部雅典）4

長岡保養園、田宮病院、宮内病院、三島病院、

△長岡地区 B（広井峰行）6

立川総合病院、県立悠久荘、長岡医師会保健衛生センター、与板保健所、立川病院中越腎センター、立川総合病院表町病院、

△長岡地区 C（高木容子・高頭秀吉）6

長岡赤十字病院、中越臨床検査センター、北越病理センター、国立寺泊療養所、コロニー白岩の里、新潟県環境衛生中央研究所、

△長岡地区 D（北沢洋子・背木千鶴）6

中央総合病院、厚生連病理センター、栃尾郷病院、長岡保健所、寺師医院、嵐南メジカルセンター、

△庶務扱い 5

菅 医院、小室 真弓、高橋 治美、小林 敦子、中村 静夫、

○学術の分担

◎ 富 永 一 郎	関 口 正 夫	血 清・血 液
広 井 峰 行	北 沢 江 利 子	臨 床 化 学
阿 部 雅 典	高 頭 秀 吉	細 菌・病 理
宮 島 長 治	北 沢 洋 子	生 理

※ 本年は例年になく会員の異動があったようですが、入会、退会、異動、改姓などの届出は中越支部長又は地区担当役員に届けて下さい。

やまあい

Yamaai NO.42 S. 61. 9. 5
発行 新潟県臨床衛生検査技師会 中越支部

残暑の中にも秋を感じるようになりました。

“やまあい”の発行が担当者の転勤で休んでおりました。年度も後半に入り 昭和 61 年度の事業である球技大会・30 周年記念研究会も下記のように実施する運びとなりましたのでお知らせとともに御案内を申し上げます。

◎ 球技大会

△ 日時 昭和 61 年 10 月 12 日(日)
開会式 A・M 8:45
競技開始 A・M 9:00

△ ところ 悠久荘 体育館

△ 競技種目 卓球(A・M) 排球(P・M)

△ チーム編成とリーダー

刈羽・柏崎地区	宮島 長治 (金沢病院)
三条・南蒲地区	飛田 賢一 (三条済生会病院)
日赤・長岡 C 地区	高頭 秀吉 (長岡赤十字病院)
中央・長岡 D 地区	小池 芳一 (栃尾郷病院)
立川・長岡 AB 地区	阿部 雅典 (田宮病院)
南魚沼地区	富永 富一 (県立六日町病院)
中魚沼地区	小船井 和弘 (県立十日町病院)
北魚沼地区	関口 正夫 (小千谷総合病院)

— 細菌は友達 —

仮称 中越細菌同好会の発足

— 総勢 42 名 —

微生物検査アンケート調査により、42 名の参加希望者があった。男性、女性ほぼ同人数であり、過不足でなく最適比の状態であろう。10 月 5 日に顔を合わせるのが楽しみです。

これだけの細菌学者が集まればもう怖いものはない。原爆、ミサイル、豆鉄砲なんでもござれ！ 世界征服も夢でないぞ！

しかし安心なされー 細菌学者の集まりといっても細菌兵器をつくるのではない。宇宙の糧となる心優しい人間ばかりの連中です。独断と偏見で強力な助人を得ました。魚沼病院 小児科 仁田原 義元 先生です。先生は新潟大学細菌学教室で研究をされました。酒はまるでだめだそうですが、酒の席は好きとのこと。気軽に話でジョークも飛びます。10 月 5 日の講演が楽しみです。

やまあい

Yamaai NO 41 S. 60. 9. 14

発行 新潟県衛生検査技師会中越支部

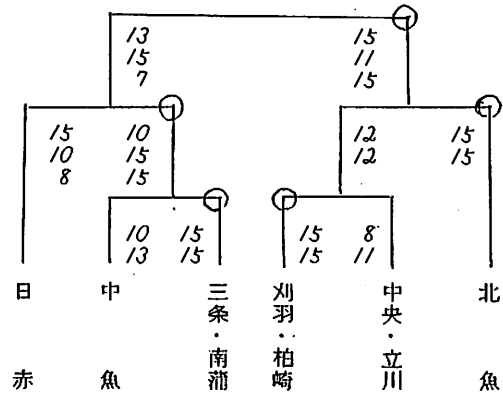
やまあい

Yamaai NO. 43 S. 6 / . / . 3
 発行 社団法人 新潟県臨床衛生検査技師会 中越支部

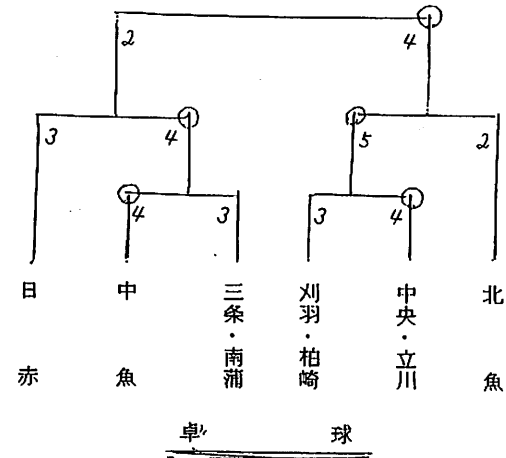
白熱の好ゲームのうち球技大会終る !!

10月12日(日) 県立悠久荘体育館において、中越技師会球技大会を開催しましたが、各ブロックより多数の参加者があり、各種競技に熱戦を繰りひろげ、白熱のゲームの中に友好を深め盛会のうちに終了しました。ゲームの結果は次の通りです。

排	球	優勝	北魚 沼チーム
		準優勝	三条・南蒲チーム
卓	球	優勝	中央・立川チーム
		準優勝	中魚 沼チーム



排球



卓球

◎ 30周年記念 中越臨床衛生検査学会については、かねてよりお知らせしておりましたが、この度、特別講演 二題、一般演題 十三題によるプログラムが出来ましたので、御案内申し上げます。

当日は多くの会員の参加でこの学会を成功させましょう。!

尚、学会終了後、講師の先生を囲んで懇親会をいたしますので、ブロック担当役員に御申出下さい。

やまあい

yamaai NO.45 S.62.7.6
発行 社団法人 新潟県臨床衛生検査技師会 中越支部

本年度事業決まる！！

5月14日(木)長岡保健所会議室に於て、第2回役員会を開き1回目の役務分担を受けて各部担当ごとの具体的取組について検討を行い、本年度の事業を次のように決定致しました。

(学術)

講演会：東北学会の新潟開催で今年度は2回とする。

- 1) 11月末に1時間位専門にとらわれず全般的な話題の講演を1題と分科会として3分割位に分かれ、日常検査の問題点等を話し合いその後総括として各部の代表がそれぞれの内容について報告発表する新しい形で開催する。
- 2) 3月 総会時に講演会

(系組 総括)

- 1) 球技大会；昨年同様、排球、卓球を長岡を会場に開催する。
- 2) アンケート；組織運営の参考にす為、広く会員より意見をいただく。
- 3) 記念誌の発行；30年の中越史をまとめる。

栗原貞次郎氏 技師会顧問に！

中越支部発足はもとより、県技師会長としても永年、会の発展の為御尽力いただいている栗原氏を中越支部規則第6条に基づき顧問に推薦致しましたところ、快くお受けいただきました。

技師長(施設責任者)会議開かれる

6月4日(木) 於：長岡保健所
参加施設 13施設

先ず青木支部長の挨拶につづいて、栗原顧問、小林県技師会長から技師会を中心とした医療の動向、全国総会の報告等を挨拶の中でお話をいただいた。本題の事業計画について学術、組織の担当責任者から説明、計画の理解と協力要請を行いました。

質疑応答では、主として同好会と技師会との関係や、東北学会新潟開催等に集中し予定の時間がアッという間に過ぎてしまいました。技師会の運営については各検査室の責任者の理解と協力がなければ会員の動きが良くならない、そんな主旨から開かれた会議であるが、まだ昨年と今回の2回目でもあり、今後の運営のあり方についても検討の余地があることが話されました。その他懇親会の席も含めこの日1日話題に上がった事は……

- 検査技師国家試験科目の1本化
 - 臨床工学技士法 (議員提案)
 - 県の医療圏構想
 - 統廃合問題(国、県、保健所)による共同利用
 - 転勤を含む人事交流のあり方
 - 調整手当、役職手当など処遇問題
 - 産休代替の斡旋
 - 技師会法人化による地区検診への参加
 - 技師会名簿の作成 (粟島に生理技師派遣)
- 等々我々臨床検査をめぐる諸問題はつきませんでした。

やまあい

Yamaai NO. 47 S. 62. 9. 12
 発行 社団法人 新潟県臨床衛生検査技師会 中越支部

過日、「やまあい」(NO. 46 S. 62. 8. 20 発行)で御案内、予告申し上げました、中越支部球技大会を下記要領で開催いたします。

つきましては、各地区リーダーのもとスポーツの秋を体力増進はもとより中越技師会会員相互の交流に有意義な一日を過ごしたいと思っておりますので、皆様多数の御参加をお願いいたします。応援の方もよろしく!!

記

日時 昭和 62 年 9 月 23 日(水) 祭日 AM 9:00~PM 3:00

会場 県立 悠久荘 体育館 長岡市寿町 2-4-1

競技種目 卓球、排球

大会次第 (1) 開会式 AM 8:45

(2) 組合せ抽選

(3) 競技開始 AM 9:00

A) 排球 (排球終了後卓球に移ります)

B) 卓球

(4) 表彰式 PM 2:50

(5) 閉会式

(6) 解散 PM 3:00

△ 競技方法 — 排球— (9人制で 15本 3セットとする)
 各チーム 男性 4名 女性 5名
 (男女構成は原則で例外あり)

— 卓球— (団体戦とする)

混合ダブルス 5 (男性 5、女性 5)

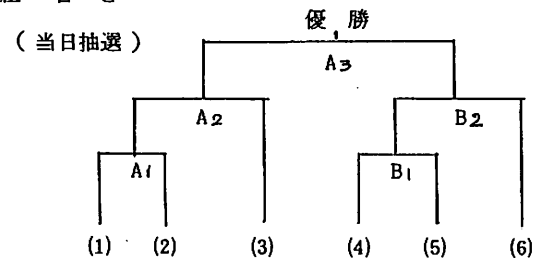
// 本 3セット勝負とし、決勝戦のみ 2/本 3セットとする。

サーブは 5本ずつ、ジュースは 1本ずつとする。

△ チーム編成とリーダー

- 刈羽・柏崎地区 横山 修市 (刈羽郡総合病院)
- 三条・加茂地区 風間 記代子 (済生会三条大野畑病院)
- 日赤・長岡C地区 柳田 良子 (長岡赤十字病院)
- {中央・長岡D地区} 原 正人 (中央総合病院)
- {立川・長岡AB地区}
- {南魚沼地区} 秋山 俊彦 (県立小出病院)
- {中魚沼地区}
- 北魚沼地区 関口 正夫 (小千谷総合病院)

△ 組合せ



△ その他

1) 参加賞ならびに賞品多数用意してあります。

2) 昼食 400.-

(当日会場にて注文をとります。各リーダーがまとめ
て申し込んで下さい。)

やまあい

yamaai NO.48 S.62.11.7
 発行 社団法人 新潟県臨床衛生検査技師会 中越支部

中越支部球技大会 終る！

去る9月23日秋分の日、長岡市の県立悠久荘体育館に於て、支部球技大会が開かれました。

参加者50余名が各ブロック別にわかれて、優勝を目指し白球を追いかけ、珍プレー好プレーの続出する熱戦をくりひろげました。

会員の親睦と友好を深めながら、楽しい大会は無事終了致しました。

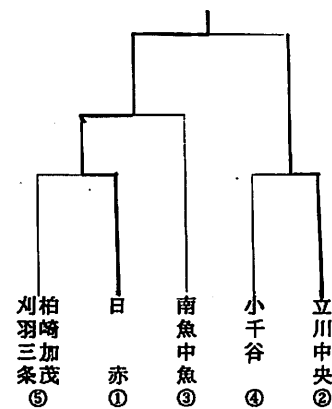
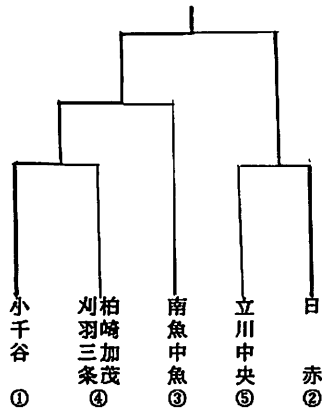
試合の結果は次の通りです。

排 球 優 勝・・・小 千 谷
 準 優 勝・・・日 赤

卓 球 優 勝・・・日 赤
 準 優 勝・・・立川、中央

[排 球]

[卓 球]



※数字は順位です。

中越支部研究会の日程が下記の通り決まりました。お知らせ致します。

《中越支部研究会》

日 時 昭和62年12月6日 (日) (9:30~16:30)
 会 場 医療法人 崇徳会 田宮病院

プログラム

- 9:30~9:40 開会の辞 中越支部長 青木千鶴
 医療法人崇徳会理事長・田宮病院長 田宮 崇
- 9:40~12:00 学術分科会
 1) 臨床化学、R I 情報 小林(日赤) 広井(立川) 山口(田宮)
 2) 血 液 富田(小千谷総合) 関口(小千谷総合)
 3) 生 理 山崎(国療新潟)
 4) 微生物公衆衛生 星(日赤) 阿部(田宮)
 5) 血清輸血 五十嵐(日赤) 佐藤(中央)
 6) 病理細胞診一般 岩本(日赤) 伊藤(病理センター) 青木(刈羽)
- 12:00~13:30 昼 食 施設見学
- 13:30~14:30 特別講演 〈検査センターから見た病院検査の展望〉
 (株) SRL 赤石常務
- 14:35~16:00 シンポジウム 臨床検査のあり方
 シンポジスト 三宅技師長(田宮) 吉川技師長(県立十日町)
 藤木技師長(長岡中央) 鈴木技師長(小千谷総合)
 渡辺技師長(県立加茂) 横山技師長(済生会三条)
- 助 言 者 中山先生 (中条病院長)
 司 会 青木中越支部長
- 16:00 閉会の辞 五十嵐 公 副支部長(日赤)
- 16:30 ナイトセミナー (懇親会)

多数参加をお願いします。

※8時50分厚生会館前より田宮病院のマイクロバスが会場まで出ます。
 4時10分田宮病院より長岡駅前までマイクロバスが出ます。

やまあい

yamaai NO. 53 S. 63. 10. 4
発行 社団法人 新潟県臨床衛生検査技師会 中越支部

第1回 中越支部 検査室管理者、新任技師セミナー開かれる

中越支部 初の試みのセミナーが、9月17日(土)、18日(日)1泊2日の日程で黄金色の稲穂が風にさざめく、六日町 白百合荘において、14施設から16人が参加して開かれました。

第1日目の内容は、支部長の開会挨拶のあと、県技師会 黒岩副会長、大島事務局長から県技師会の活動報告、今後の動向などについてのお話がありました。

次いで、研修ビデオ(病院におけるTQCについて)を見た後、田宮病院 三宅技師長より「問題解決のプロセス」の講演がありました。休憩をはさんで、グループワークとして2班に別れ、検査業務諸問題について意見交換をして終了しました。

翌2日目は、グループワークのまとめとその発表、新潟産業大学 村山先生より特別講演「情報化社会とヒューマンネットワーク」のお話を聞いて、正午前閉会しました。グループワークで出された問題は、下記の様な内容でした。

—— Aグループ ——

- ・技師会が活性化されていない
- ・病休・産休要員が見つからない
- ・国立病院存続に対する不安
- ・国立病院統廃合に対する不安
- ・Drとの関わり方
- ・週休二日制の対応
- ・機械等の不備(共同利用から生じている)
- ・外注が多くなっている
- ・院長に主体性が欠けている

—— Bグループ ——

検査室の存在意義を高めよう

- ・検査室のサービスとピーアール
- ・アンケートのコメントがない
- ・採血から報告までの管理がなされていない

- ・他部門との連携がうまくいっていない
 - ・経営管理の勉強不足
 - ・施設方針をよく理解しえなかった
 - ・統計的な管理データを利用しきれなかった
 - ・発言不足
 - ・検査室の整備
 - ・人員 ~ ローテーション 意識
 - ・機器 ~ 新しい機器の購入と更新 リース問題
 - ・外注問題 ~
- 以上の問題が話し合われました。
尚、新任技師セミナーの方は申込者が無く中止となりました。

吉川 清氏 東北学会功労賞 受賞

10月1/2日、秋田市で開催された、第29回東北学会に於いて吉川清氏(県立悠久医療養所)が功労賞を受賞されました。おめでとうございます。

第51回新臨技会研究会のお知らせ

日 時	11月18日/19日(金・土)
場 所	ホテルニューオータニ長岡 コープ文化センター
内 容	教育講演 崇徳会田宮病院 田宮 崇先生 機器説明 ドライケミストリー 2~3社予定 一般演題 5~6題予定 研究班中心によるワークショップ 臨床化学 免疫・生理

中越支部研究会のお知らせ

日 時	12月4日(日)
	詳しくは決定しだい御案内します。

■技師長会議レポート

去る6月15日(木)午後2時より長岡保健所の講堂にて、業務多忙の中をおして、14名の技師長の参加を得て開催された。先ず最初の議題である中越支部事業(スポーツ大会や秋の研究会など)について報告するとともにご協力をお願いした。また、次の議題である検査室運営についても活発な議論や情報交換がなされた。その要旨について報告する。

(1)学術活動について

日臨技・東北・県・支部の学術活動以外に各種専門学会や協会などの団体への参加もあり、逆にプログラムが多いとも考えられる。今後はさらに会員のニーズやプログラムの質を追求するとともに、地道な卒後教育プログラムの充実が望まれる。開催曜日土・日は単身赴任者にとっては帰省もあり、強講もできない。地元や少人数の施設においては、逆に土・日なら自分の意志により他者にばからず参加でき、また、参加したいとの意見もあった。

(2)緊急体制とローテーションについて

特に県職では数年に1度、転勤による自然ローテーションが実施されている。ある病院では技師10名で10日に一度のローテーションで夜間緊急対応しているが大変である。拘束料金や時間外賃金、緊急項目の指定や専門外の不慣れな項目の実施とその教育体制、及び他者のカバーリング業務など、問題提起と活発な情報交換がなされた。

(3)臨時や産休要員の情報交換

人材バンク的な技師会事業の必要性とその連絡網システムの構築について検討された。結果的には、支部長に一括報告し、求人及びその紹介は「やまあい」等でピーアールしては・・・など提案された。この場合、会員以外でもリストアップ可能かなど、今後の大きな課題となった。現在、各ブロック役員により就職希望者など現在把握中である。

(4)卒後教育について

日常業務での教育研修(○J T)に大きな比重をかけ、他は、月1回の検査科内での勉強会、技師会他の各種研修会へ出張等により研修させている。

以上、とても短時間では議論し尽くせぬ議題であり、時間切れとなってしまった。検討すべき課題が散在していることを再認識させられ、今後さらに充分時間をかけて、技師の知識・技術の向上や地位・処遇改善に向けて組織をあげ議論する必要があることを痛感した。

■新潟県臨床衛生検査技師会報告

(1)会員名簿

会員名簿は2年に一度作成し、隔年の移動等による変更は、別冊で変更部のみ作成すること。

(2)技師会組織強化月間

新潟県は95%を越える組織率を誇っている。7月現在の会員数1067名。日本臨床衛生検査技師会会長選挙有権者は、入会が9月登録以前の者に限ることと、入会希望者は早急に入会手続きを取っていただきたい。

(3)秋の県の研究会は11月10・11日(ホテルニューオオタニ長岡)に決定。一般議題は8月末に締切とのこと。中越地区での開催なので、ふるって参加して頂きたい。詳しくは、お気軽に最寄りの役員まで!!!

■中越支部スポーツ大会 終わる!!!

去る7月16日(日)、長岡市民体育館において、中越支部スポーツ大会が開催されました。

参加者7名が各ブロックのチームに別れて、優勝を目指し白球を追いかけ、珍プレー好プレーの続出する熱戦をくりひろげました。会員の親睦と友好を深めながら、楽しい大会は無事終了致しました。試合の結果は次の通りです。

+++排球の部+++

+++卓球の部+++

☆優勝 北魚沼地区 選優勝
(小千谷チームは富田秀雄技師を中心にピンクのユニホームと奥さんとお子さんおじちゃん先輩技師の応援でチームワークも満点でした。おめでとう!!!。)

準優勝 南・中魚沼A地区 第3位
(小出チームはリーダーの富永一郎技師を中心に全日本女子バレー風の美人技師に長谷川先輩の鼻の下は伸びて……?。でも、本当に頑張りました。)

第3位 南・中魚沼B地区 第5位
(六日町チームはリーダーの秋山俊彦技師を中心に大きく善戦し、頑張りぬいて小林・長谷川高大先輩も、まだまだ若いことが証明できて嬉しいとか……?。)

第4位 柏崎・刈羽地区 第4位
(柏崎刈羽は片桐宏至技師、三条加茂は上杉貞子技師を中心に大奮闘。青木支部長のお膝元で百人力と思ったが……。また、三条加茂の女性は美人が多い?。)

第5位 長岡ABD地区 第6位
(中央リーダーの原 正人技師と保養園リーダーの村山睦男技師により、作戦だけは良かったのだが……。二日酔い数人が足を引っ張ったのではと反省!。)

第6位 長岡C地区 ☆優勝
(日赤チームはリーダーの岩本久司技師を中心に、ママがんばって!と黄色い声の応援や揃いのユニホームでチームワークは満点、本当におめでとう!!!。)

南・中魚沼地区と柏崎刈羽地区の参加者増はうれしかった。特に南・中魚沼地区の動員力には感心させられました。初顔の新人技師さんや技師の卵(実習生)も大勢参加して頂き、平均年齢もぐっと下がって、若い力ギンギンのスポーツ大会となりました。ここに結集した中越支部パワーを学術の面でも発揮したいものがあります。知恵と力を合体させて、中越支部もパワーアップ!!!
(おまけに支部長もシェイプアップ!!!)

■教えてくれーのHELPコーナー

1. 便濁血反応の抗人ヘモグロビン法のレセプト(医療保健請求書)が返戻された。あなたの施設ではどうですか?、教えて下さい。 中越太郎

<<あなたも紙上で情報交換しませんか。詳しくは、役員まで>>

やまあい

Yamaai No.57 平成元年7月31日発行
発行 社団法人 新潟県臨床衛生検査技師会 中越支部

技師会に思うこと

中越支部顧問 栗原貞次郎

中越支部発行の機関誌「やまあい」が昭和49年10月に創刊、以来会員相互の連携と結び付きを深める絆として、支部会員の身近なものとして親しまれてまいりました。既に第60号が届けられております。こうした歴史を振り返り、雑感を申し述べたいと思います。

現在の技師会は、私が県技師会（新昭技）の役員であった時代（昭和25～49年）と比べ、会員数・施設数が倍増し、転勤による職場の移動等で運営も容易なものではないと存じます。また、「やまあい」を通し情報を出来る限り会員に知らせ、理解と協力を仰ぐ、一人でも多くの会員が参加できるよう意見や要望を求め会員の声を反映するよう努める。また、総会で決められた事業計画を遂行すべく役員諸氏は、日常業務が終了後、午後6時より熱心な討議を重ね精いっぱい努力していることに対し、心から敬意を表するものです。

さて、ここ数年お互いに協力して参りました私の同僚諸氏が定年を迎え、会員の新陳代謝が進み、顔ぶれも変わり、会の創設期を知らない世代となっております。そこで、中越支部を中心に当時を振り返ってみます。昭和29年10月長岡地区衛生検査技術者協会を設立（16施設36名）。その後県技師会の下部組織（上、中、下越、佐渡の4支部）として、名称も中越支部と変更。この時代は身分の確立実現のため、県庁衛生部を窓口にして、全国では厚生省並びに国会に法制度獲得に向けて活発な運動を行った。やがて昭和31年9月新潟県細菌検査技師条例案を通過、年輩者はこの県知事免許があります。昭和33年4月衛生検査技師法国会を通過。待望久しかった私たちの身分が社会的に認められた。このような経緯で、全国主要都市に衛生検査技師養成機関ができた。県内では、新大付属衛生検査技師学校が昭和38年4月開校。続いて、新潟医療技術専門学校、北里大付属北里保健衛生専門学校が開校。時代の要請で医療機関の増加とこれに伴う検査機構の整備等で年々検査技師が採用されるようになり、技師会組織も大世帯となりました。学術部門も各研究班単位で勉強会が開催され、内容も高度化して参りました。また、社会的にも地域医療、保健衛生の分野で重要な職能団体として、公益法人に認可される等、めざましい成長ぶりは誠に喜ばしいことでもあります。このことは会員が一体となって長期にわたり幾多の困難を乗り越えて目的達成に邁進してきた賜であって、組織力の偉大さに驚くと共に、その必要性を痛感いたします。

国際化の時代を迎え、国内国外に拘らず社会情勢は常に変動しております。これからの技師会活動も、カリキュラム、卒後教育等多数の問題がございます。会のあり方について、とかく役員任せとなりがちです。現在に満足する事なく、会員一人一人の会であることを認識して、職場を始め同僚との結び付きを深め、会員と役員相互協力の基、技術並び知徳の向上を図る等、会の目的達成のため頑張らしましょう。日常多忙な業務の中で技師会活動を行うことは、容易なことではありませんが、人がこの世の中で生活するにはそれなりの苦勞が伴うものです。さきに述べてきたように、私たちが現在検査技師として社会的に重要な地位を確立できたことは、先輩諸氏の並々ならぬ努力と会員諸氏

の団結と協力によるものであります。このことを踏まえて、皆さんには自己の生活も大切ですが、都合の出来る限りの催しに参加して、意見交換の場を広げて討議を重ね、旧来の慣行にとらわれず、改めるべき事は速やかに改善し、この活動が時代に即応した意義深いものとなるよう一層の努力と協力を願うものです。以上取り留めもない事を述べ、誠に恐縮に存じます。会員の皆さんに少しでもご理解いただけたら幸いです。終わりに、皆さんのご健勝と益々のご活躍併せて技師会の成長、発展を心から祈念いたします。
(元長岡地区、中越地区初代会長 元県技会長)

※我々の目標とすべき、栗原大先輩のお言葉に、心が洗われた思いがします。これを期に初心に立ち帰り、力を合わせ頑張ろうと、決意を新たにします。今後も顧問として、我々の目標として、未永くご指導いただけますようお願い申し上げます。ご多忙の中、本当にありがとうございました。

*****インフォメーション_1.***** 【リース契約のメリット・デメリット】

病院は設備投資型業種の典型であり、膨大な設備投資を必要とする。しかし、高度な医療サービスを提供するには不可欠である。そこで、今回はリース契約について検討したので報告する。

《メリット》

1. リース契約は購入と違って、資金が一度に流出することがないので、収益性さえ確保されれば、高額な器械・設備等の導入も可能となり、施設の近代化に果たす役割は大きくなる。
2. 融資元の銀行等に対し申告書や決算書を提示する場合、購入とは違い貸借対照表上の借入金に表示されず、総資産利益率等が良くなり、資金を調達するには判断基準が良くなる。
3. 原価償却費、修繕費、支払い利息等、当該器械・設備等に関わるコストの把握が購入の場合は複雑となるが、リースの場合月割りに平均化され定額となるので単純化される。その他、「電子機器利用設備等をリースした場合の特別控除」と言う制度もあるとのこと。

《デメリット》

1. 借入金による購入の場合は、返済法や条件によって毎月の支出を変更できるが、リースは毎月の支出固定費の底上げとなる。
2. リースの場合、物件に関わる支払い利息、保険料、固定資産税等の諸費用が発生するので、現金一括に比し割高である。
3. リースの場合、中途解約できないのが一般的であるため、期間中の破棄・新機種購入による除去が出来ない。

平成2年度中越支部施設代表者(一泊2日)研修会
日時10月27・28日(土・日)会場「なりくら荘」湯之谷村笹沢

真剣かつ和やかな研修会の模様

写真の申し込みも受け付けます。
総会時にお知らせ下さい。



や ま あ い

Yamaai No. 64 平3年5月17日

発行 社団法人新潟県臨床衛生検査技師会中越支部

◇平成3年度中越支部職務分担及び年間事業計画決まる。

※職務分担

支部長 *山崎将宏
副支部長 *山口勇司
学術 *長谷川利春 *田中 保 村山隆男 山田玲子
組織 原 正人 山内由利子 宮沢裕子
会計 佐藤誠子
広報 *星岡一郎(やまあい) 諏佐 稔(県技師会誌)
新臨床副会長 青木千鶴
顧問 栗原貞次郎 (*印 県理事)

※年間事業計画

6月20日(木)施設代表者会議
7月 7日(日)球技大会
10月 中越支部研修会(一泊二日)
12月 中越支部研究会
中越支部35周年記念誌発行

◇施設代表者会議開催の御案内

日時 6月20日(木)午後1時30分から午後5時まで
場所 1 長岡保健所 講堂
議題 検査室業務の管理運営について
「小千谷総合病院の場合」
講師 小千谷総合病院検査課技師長 鈴木 孝
2 尿沈渣の標準化について
講師 日臨床全国委員 青木千鶴
3 その他

◇球技大会の御案内

日時 7月7日(日)午前9時から午後4時まで
場所 長岡ロングライフセンター
競技種目 バレーボール、卓球

◇支部会費納入の御願い

先の支部総会において、支部規約改定により、支部年会費が500円から1,000円に値上げされました。つきましては、既に会費を納入された方々は、値上げ分500円を徴収させていただきますので、会計の佐藤誠子(長岡赤十字病院)まで納入下さいます様御願い致します。尚、新入会員につきましては、入会申込み書と併せて14,000円(日臨床7,000円、県臨床5,500円、支部会費1,000円入会金500円)を納入下さい。

◇会員名簿作成についての御願い

本年度は、会員名簿作成の年です。所定の会員名簿記入用紙に、記入の上、各地区担当に、5月末日迄に提出を御願い致します。尚、施設連絡責任者になられた方々は、責任をもって提出を御願い致します。

◇同好会情報

※血液同好会

血液同好会では、下記の日程で学習会を行ないます。多数御参加下さい。

記

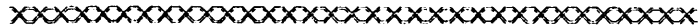
日時 7月13日(上)午後3時から
場所 長岡赤十字病院検査部技師室
内容 「抗リン脂質抗体(ループスアンチコアグラント)の検出について」
連絡者 富田 秀雄(小千谷総合病院)山田 隆(長岡赤十字病院) 送又、珍しい症例を、お持ちの方は、ご持参下さい。尚、終了後、懇親会もあります。

※「施設間差を縮小する会」が発足しました。

連絡者 小林 幸子(長岡赤十字病院)

◇表彰

この度、新臨床元会長である小林 元康技師が、福見賞を受賞されました。おめでとうございます。



や ま あ い

Yama ai No. 65 平3年6月8日

発行 社団法人新潟県臨床衛生検査技師会中越支部



◇記念誌編集委員より御願い

去る6月4日第1回編集会議を開き、35周年記念誌を、より良いものにするため、「みんなで造ろう、記念誌を」をスローガンに、広く会員の皆さんより原稿を募集することとしました。皆さんからの原稿をお待ちしています。

尚、寄稿される方は、所定の原稿用紙を用意していますので、編集委員長(山崎支部長)迄、御連絡下さい。締め切りは、7月末日です。

※35周年記念誌編集委員

- 編集委員長 山崎将宏 (国療西小千谷病院)
- 編集委員 { 栗原貞次郎 (支部顧問)
- 小林元康 (長岡保健所)
- 長谷川利春 (県立小出病院)
- 山口勇司 (田宮病院)
- 星周一郎 (長岡赤十字病院)

◇同好会情報

※細菌同好会

細菌同好会では、下記の日程で研修会を行ないます。多数御参加下さい。

記

- 日 時 6月22日(上)午後2時から5時迄
- 場 所 ニチエー(株)大会議室 長岡市千場1丁目
- 内 容 「昭和ディスク・ユーザーズ・マニュアルについての研修」
- 講 師 昭和薬品化工株式会社学術部
- 連絡先 阿部雅典(田宮病院)

◇急告 つつが虫病発生急増!

※長岡保健所検査課

つつが虫病は、近年影をひそめていましたが、山菜シーズンも重なり、今年度に入り届出が急増しています。昨年一年間の届出が28件でしたが今年は、4月24日初発、5月22日までの約1ヵ月間に26件の届出がありました。

保健所管内別では、六日町が10件、糸魚川7件などです。推定感染場所は、自宅近辺の山・田・畑が多い様です。年齢別では、9才の男子以外は、40才以上です。

保健所別	届出数	性別		年齢		市町村別
		男	女	～59	60～	
六日町	10	5	5	2	8	六日町5 壱塚町5
糸魚川	7	2	5	2	5	市1 能生町4 名立町2
上越	3	1	2	2	1	妙高高原町2 上越市1
十日町	2	1	1	0	2	中里村2
小出	2	2	0	2	0	小千谷市2
村上	1	0	1	1	0	山北町1
三条	1	0	1	1	0	下田村1
計	26	11	15	10	16	

◇御訂正

前号の「やまあいNo. 63」は、「やまあいNo. 64」の誤りでした。又、誤字が多数あった事をお詫びします。

やまあい

Yamaai No. 66 平3年6月20日

発行 社団法人新潟県臨床衛生検査技師会中越支部

◇「七夕球技大会」の御案内

先の「やまあいNo. 64」で、御案内、予告申し上げました、中越支部球技大会を、下記の通り開催致します。

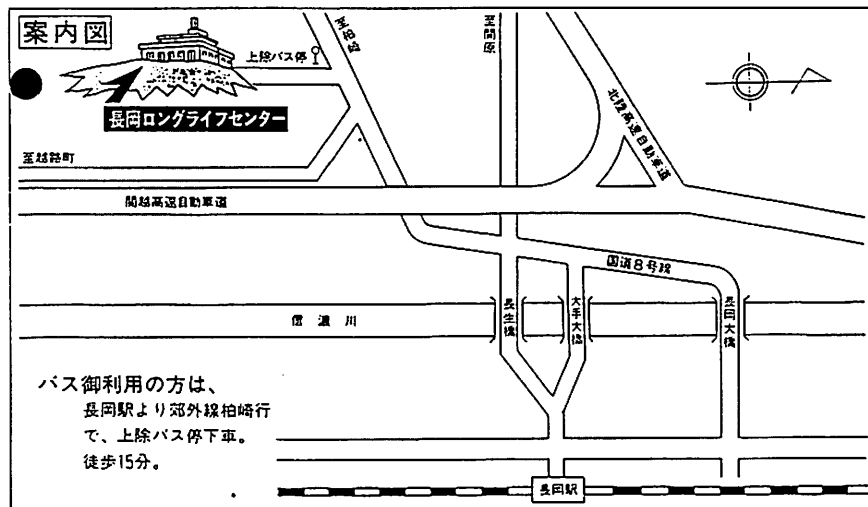
尚、会場は、昨年同様「長岡ロングライフセンター（LLC）」です。公私共に忙しいとは思いますが、日頃の運動不足解消、又、会員相互の親睦を深めるため、是非多数御参加下さい。（競技終了後は、温泉にも入れます。）

記

日時 平成3年7月7日（日）am 9:30～pm 3:00
（時間厳守にて集合下さい。）

会場 長岡ロングライフセンター体育館
種目 バレーボール（地区対抗）
卓球（地区対抗団体戦）
（ルール、組合せ等は、当日発表）

参加される方（個人、施設）は、7月3日迄に、各地区担当に御連絡下さい。
尚、大変申し訳ございませんが、昼食は、各自御用意下さい。（食堂も有ります。）



◇県理事会報告

6月8日（上）、県技師会事務所において、理事会を行ないました。各部（総務、学術、編集）報告は、「技師会誌No. 180」を、ご覧頂きたいと思いますが、今回の会議では、特に研究会開催について意見交換がありました。

問題点 ・春は総会があるため2日間要すると思うが、秋は1日でも良いのではないか。（開催費用問題）

・開催日は、どうか。（一人でも多く参加できるように）

・開催地は、春・新潟、秋・長岡が良いか。等々。

以上の問題を検討するため、近藤会長は、「諮問機関を作りたい。」との考えを示しました。

◇東北学会演題募集締め切り迫る。

東北学会の演題予備登録は、6月29日締め切りです。未だの方は、各地区担当又は、県学術担当まで申込み下さい。

◇35周年記念誌「原稿・写真」募集

先の「やまあいNo. 65」で記念誌の原稿募集の御案内を致しましたが、加えて写真の募集も行なっております。中越支部に関する珍しい写真、懐かしい写真をお持ちの方は、編集委員まで御連絡下さい。

◇支部会費納入の御願い

支部規約改定により、本年度より支部会費が500円値上げした事は、既に御連絡申し上げましたが、未だ若干未納の方が有る様です。未納の方は、早急に納入下さいませよう御願い致します。尚、不明な点がございましたら会計の佐藤誠子、又は、各地区担当まで御連絡下さい。

◎次回中越支部役員会は7月3日（水）pm 6:15～長岡赤十字病院技師室で行ないます。

や ま あ い

Yamaai No.73 平成4年11月30日
発行 社団法人新潟県臨床衛生検査技師会中越支部

◎「ふれあい」研修会を終えて

・・・支部長 山崎将宏

中越支部恒例の「ふれあい研修会」は、10月30日～11月1日の2日間にわたって会場を信濃川と魚野川が合流するすばらしい景観を眼下に見下ろす「越後川口サンローラ」で開催されました。

時折、激しく降る秋雨に出席者の出足が鈍るのではなかろうかと心配をしたのですが大勢の出席がありほっとしました。

スケジュールは、第一部・研修会、第二部・懇親会、第三部・スポーツと盛り沢山ですがまずは、研修会「統計学 その一」、講師は北里大学附属北里保健衛生専門学院の木村明先生。

難しい「統計学」を優しく教えていただき、今まで統計を見ると一種の拒絶反応を禁じえなかったのですが、これからは面白くなりそうです。これは、シリーズとして回を重ねる予定でスタートしましたので今後が楽しみです。その上、取りにくい生涯教育制度のBの点数が取れるのです。

次に、液状試薬の開発に力を入れている「株式会社シノテスト」より美人講師高橋千草先生を遠く相模原よりお招きして自動分析器用液状試薬の現状を拝聴しました。

第二部・懇親会は、第一部で学んだ講義を忘れないよう、しっかりアルコール固定するという発想で部屋に引き揚げてまで継続、そして、蒲団に入ったのは、時計の針が12時をだいぶ廻ってからでした。

第三部・スポーツ、あいにくの雨でゴルフやテニスはお流れで、朝食後解散することになりました。

以上、ふれあい研修会の様子をご報告申し上げますが、今年都合で出席できなかった方は、来年ぜひおいで下さい。

◎中越支部研究会のお知らせ

支部では、下記の内容で研究会を行ないます。多数ご参加下さい。

記

○日 時：平成4年12月6日(日)午前10時～午後3時30分

○場 所：厚生連中央総合病院検診棟4F講堂

I・文化講演 「良寛と貞心尼」

講師 柏崎良寛と貞心会々長 田村 甚三郎先生

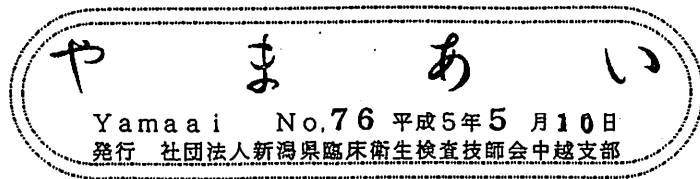
II・一般演題

1. 当院で経験した第V因子インヒビターの2症例
片桐 智美他(長岡赤十字病院)
2. 2年間の大腸癌検診における便潜血の結果について
富田 秀雄他(小千谷総合病院)
3. 一般検査「尿沈査標準化」の伝達講習
棚橋 俊子 (中央総合病院)
4. 尿沈査より見つけたパポパウィルス
小林 智子他(長岡赤十字病院)
5. 当院における乳腺細胞診の検討について
斎藤 孝久他(小千谷総合病院)
6. C型肝炎検査・PHAとPA法との比較検討
小船井和弘他(県立小出病院)
7. 当院の *Enterococcus*
金子 陽子他(中央総合病院)
8. 施設間差縮小同好会よりの第2報
山田 弘美他(長岡赤十字病院)
9. 拡張型心筋症における予後の検討
丸山千恵子他(長岡赤十字病院)
10. 非定型抗酸菌について
小暮 尚美他(長岡保健所)

III・懇親会

寿 泉・・・長岡市袋町TEL(36)0637

会 費 3000円



Yamaai No.76 平成5年5月10日
発行 社団法人新潟県臨床衛生検査技師会中越支部

平成5年度研究会及び支部総会報告

新潟県臨床衛生検査技師会中越支部の平成5年度研究会及び通常総会は去る3月27日(土)午後2時より会員80名余の出席のもと、長岡市「今朝白荘」で開催された。

研究会

まづ、特別講演には、今この病院でも対策に苦慮され、また関心の高いMRSAを取り上げ、講師に国立高田病院の川島崇先生をお願いして「MRSA院内感染とその対策」と題してご講義頂いた。

つづいて文化講演に元県臨技会長高沢邦輔氏にご登場願ひ、今は自ら長年にわたって蒐集されたものをもとにつくられた「高沢文化民芸館」の館長を努めておられる体験話を「微生物とレジャー」と題してお話頂いた。

次に、昨年からスタートした「生涯教育制度について」その後の動きや今後の対応について中越地区生涯教育制度対策委員の鈴木孝技師そして先般実施した生涯教育制度に関するアンケートの集約結果について山口副支部長より報告がなされた。

総会

最後に総会は議長に吉原正弘技師(立川総合病院)を選出し「平成4年度事業報告」「平成4年度決算報告・会計監査報告」そして次に「平成5年度事業計画案」並びに「平成5年度予算案」について審議が行なわれ、原案どおり承認された。

(詳細は議案書を参考にしてください。無い場合は支部長にご請求ください)

なお、今年度は役員改選期であり、役員選出規定に基づき選考委員会を組織し、選考してきた新役員について藤田栄六選考委員長(県立加茂病院)より発表あり、全会一致で承認された。

役員選考委員としてご活躍頂いたのは次の方々です。
三条地区・藤田栄六(県立加茂病院) 長岡地区・小林幸子(長岡日赤病院)
吉原正弘(立川病院) 小千谷地区・弥久保一義(魚沼病院) 赤坂征美(六日町病院)
十日町地区・風巻忠夫(上村病院) 柏崎地区・阿部多美子(郡病院)

平成5・6年度役員紹介

支部長	◎ 山崎 将宏	国療西小千谷病院
副支部長	◎ 山口 勇司	田宮病院
県副会長	◎ 青木 千鶴	吉田病院
会計	山田 弘美	長岡日赤病院
庶務	山内由利子	厚生連中央病院
広報	◎ 岩本 久司	長岡日赤病院
会誌	小暮 尚美	長岡保健所
学術	◎ 長谷川利春	県立小出病院
"	富田 暁美	小千谷総合病院
"	鎌田アヤ子	ゆきぐに大和病院
"	◎ 吉原 正弘	立川病院
"	堀 貢	三の町病院
組織	山口 勇司	兼務
"	原 正人	刈羽郡総合病院
"	関谷 守	県立十日町病院
顧問	栗原貞次郎	
会計監査	柴野 正	長岡日赤病院
"	古川 一三	県立十日町病院

◎印は県理事

今期で役員を退任した方々は次の方々です。 ご苦勞様でした。
また次の機会のご活躍を期待いたしております。

佐藤誠子・星周一郎(長岡日赤病院) 諏佐稔(長岡保健所) 田中保(小千谷病院) 村山睦男(長岡保健園) 山田玲子(厚生連三条病院) 宮沢裕子(上村病院)

☆ 施設代表者会議 ☆

期日 平成5年6月15日 2時~5時
会場 長岡保健所

日臨技生涯教育研修 自己申告書

未提出の方はお早く!!

やまあい

Yamaai No.84 平成6年8月8日
発行 社団法人新潟県臨床衛生検査技師会中越支部

毎日毎日記録的な猛暑に見舞われ、心も肉体もくたくたです。会員の皆さん、いかがおすごしでしょうか？

今夏の猛暑は、世界的な傾向で、北極海上の寒気が小さいことと、南方の高気圧の勢力が強いためだそうです。この暑さは、今月いっぱい続くそうです。

水不足も心配ですが、まづは体力をキープしてこの夏を元気に乗り越えましょう。

“中越支部フォーラム”開かれる

日時：平成6年6月14日(火) 午後2時～5時
場所：長岡保健所講堂
議題：「今、検査課が直面している問題点」

助言者：柏崎刈羽郡医師会副会長
会田 恵 先生

話題提供者：

- | | | |
|-------------|---------|----------|
| 1) 採血業務について | 長岡赤十字病院 | 柴野 正 技師長 |
| 2) 保険点数改訂 | 県立十日町病院 | 秋山 俊彦技師長 |
| 3) 拡大7項目 | 立川綜合病院 | 吉原 正弘技師長 |

毎回検査室にとって最も重要な問題点を取り上げ、各施設の現状や考え方を照会し、討論してもらっています。今回は、21施設37人の代表者が参加され、関心の強さがうかがえました。3時間が短く感じられました。

採血業務については、まだ本格的に実施している施設は多くはありませんでしたが、概ね、将来検査室が積極的に関与すべきであるという考え方でした。

そうするには人的問題の解決が重要になりそうです。

保険点数改訂に関しては、あまり積極的に策を講じている施設はありませんでしたが、この10月に再び点数改訂があり、検体検査においては益々きびしい内容になることが予想されています。

健康フォーラム・球技大会

日赤Aチーム完全制覇

7月10日(日)午前9時から 長岡ロングライフセンター体育館で健康フォーラム・球技大会が開かれました。今年から取り入れた健康フォーラムでは、山崎支部長が、「健康とは」と題し、ご自分の健康法を紹介しながら、健康について講演いただきました。改めて、健康の大切さを痛感しました。

続いて恒例の球技大会に移りました。熱戦の末バレーボール、卓球の両方に日赤Aチームが見事完全優勝を果たしました。

「ふれあい研修会」のおしらせ

会場：三島郡寺泊町 ホテル住吉屋 ☎0258-75-3228(代)

日時：9月17日(土)～18日(日) 午後2時30分～

費用：一泊二食(懇親会を含む) ¥12,000

懇親会のみ ¥6,000

研修会のみ 無 料

内容：講演：「医療法改正における医療界の変化」 講師未定

フリートーク：「組織活動を通して」

(当日参加できない人もご意見をお寄せください)

特別講演：「病理あれこれ」

日本医科大学名誉教授 佐々 弘 先生

野外研修：詳細は未定

※ 宿泊者に関しては、送迎バスあり。交通手段のない人は支部の方で都合つけます。

毎年参加された方には大変好評です。また今回のホテルは、さしみが大変おいしくて評判の所です。ぜひ一度参加されてみてはいかがでしょうか。締め切りは8月31日(水)まで。詳細については、別案内が出ます。

生涯教育制度1クール目の最終年度です。

まだポイントが、足りない人はレポート提出によるポイント獲得も可能です。

提出規定に沿って早めに提出を。支部長あてに。

今年度新入会員の申請には、30点(A.基礎一般教科 20点以上 B.基礎専門教科10点以上)を履修することが必要です。



Yamaai No. 87 平成 7年 5月 18日
発行 社団法人新潟県臨床衛生検査技師会

中越支部研究会及び平成7年度通常総会報告

日に日に暑い日が多くなり、日本列島梅雨入りしたところもありますが、体調を崩さないよう健康管理には十分注意しましょう。

新潟県臨床衛生検査技師会中越支部の研究会及び平成7年度通常総会が去る3月25日(土)午後2時より長岡市高齢者センター「けさじろ」において開催され、会員54名の出席でした。

【 研 究 会 】

特別講演では、「セメントの世界」と題して秩父小野田(株)資源事業本部理事補の五十嵐正文氏よりコンクリートの耐久性や建築業界の裏話などコンクリート物を作る時に役に立つ予備知識として大変為になるお話でした。

また、教育講演では「阪神大震災救護活動に参加して」と題して、長岡赤十字病院看護婦の中川光子氏・田中憲子氏より救護活動での不安・戸惑い・喜び・反省などについて熱弁を奮って頂き会員は熱心に聞いていました。

【 総 会 】

通常総会では、議長に岡 冨子技師(中央総合病院)を選出し「平成6年度事業報告」「平成6年度決算報告・会計監査報告」及び「平成7年度事業計画案」「平成7年度予算案」についてそれぞれ審議され、原案通り承認されました。

この平成7年度事業計画案の中で、山崎将宏支部長は「臨床検査はどうあるべきか?」を問いながら、支部活動に対し1)生涯教育制度の構築～本稼働に向けて～ 2)県研究班活動と中越支部との連携強化 3)支部活動(事業)への積極的参加～一声かけ合う運動～の三点を基調に定着恒例事業の充実・発展に努めると話されました。

◎詳細は議案書を参照し、無い場合は岩本(長岡赤十字病院)まで請求して下さい。

《 新 役 員 選 出 》

今年度は役員改選期であり、役員選出規定に基づき役員選考委員会を設置し、通常総会に於いて選考委員長(代理)岡口美江子技師(県立十日町病院)より発表があり、全会一致で承認されました。

新役員名は、別紙(役員職務分担・地区別連絡担当一覧)参照

★役員選考委員 ◎印委員長

- ◎長谷川直市(県立小出病院)・村木秀樹(県立加茂病院)
- ・岡 冨子(中央総合病院)・広井峰行(ファルコバイオシステムズ)
- ・阿部芳子(国療新潟病院)・田中 保(小千谷総合病院)
- ・岡口美江子(県立十日町病院)

☆今期で役員を退任された方

- ・山田弘美(長岡赤十字病院)・山内由利子(中央総合病院)
- ・富田暁美(小千谷総合病院)・鎌田アヤ子(ゆきぐに大和病院)
- ・堀 貢(三之町病院)・原 正人(刈羽郡総合病院)
- ・岡谷 守(県立十日町病院)・山田公作(県立十日町病院)

大変ご苦労様でした!!

また次の機会のご活躍を期待いたしております。

支部活動予定

◎中越支部フォーラム

日 時：平成7年6月14日(水) 14:00～17:00
会 場：(株)マルタケ長岡営業所 3F会議室
長岡市新産3-5-4 TEL 0258-47-1565
(駐車場あり)

テーマ：「生涯教育制度本施行に際して」

生涯教育委員 目崎芳朗技師

「魅力ある技師会活動とは？」

「採血業務 Part 2」 支部役員

- * 恒例の会終了後の懇親会は、都合により今回は中止させていただきます。申し訳ございません。
- * 会場までは交通の便がわるいので、出来るだけお誘い合わせのうえおいで下さい。どうしても交通手段のない方は支部担当役員まで連絡して下さい。

◎健康フォーラム(ミニ講演+球技大会)

日 時：平成7年7月9日(日) 9:00～15:00
会 場：長岡ロングライフセンター体育館
種 目：ソフトバレーボール・卓球 及び ミニ講演

やまあい

Yamaai No.89 平成 7年 9月 4日

発行 社団法人 新潟県臨床衛生検査技師会中越支部

9月に入り残暑もようやく和らぎはじまりましたが、海・山・スポーツに日焼けで真っ黒になった方が多いのではないのでしょうか。

さて、いよいよ技師会活動も佳境に入ってきました。後半の活動としては、10月「ふれあい研修会」・11月「県学会」(長岡ベルナル)・12月「支部研究会」が予定されています。

●ふれあい研修会のご案内(一泊二日)

日時: 9月30(土)・10月1日(日) 午後2時30分～翌正午

会場: 湯之谷村・国民年金保養センター「こしじ」

TEL:02579-2-6111

内容: 30日/2:30～6:00

『体外受精の仕組みと技師の役割』

立川総合病院・不妊センター医長
星野明生先生

『胸部・腹部エコーの抽出法と判読』基礎～中級編(講義)
(株)東芝メディカル

1日/9:00～12:00

『胸部・腹部エコーの抽出法と判読』基礎～中級編(実習)

担当: 立川総合病院・山崎まゆみ技師
済生会三条病院・桑原喜久男技師
長岡赤十字病院・丸山千恵子技師

会費: ①研修会(会場整理費)・¥300

②研修会(会場整理費)+懇親会・¥5,000

③研修会(会場整理費)+懇親会+宿泊・¥11,000

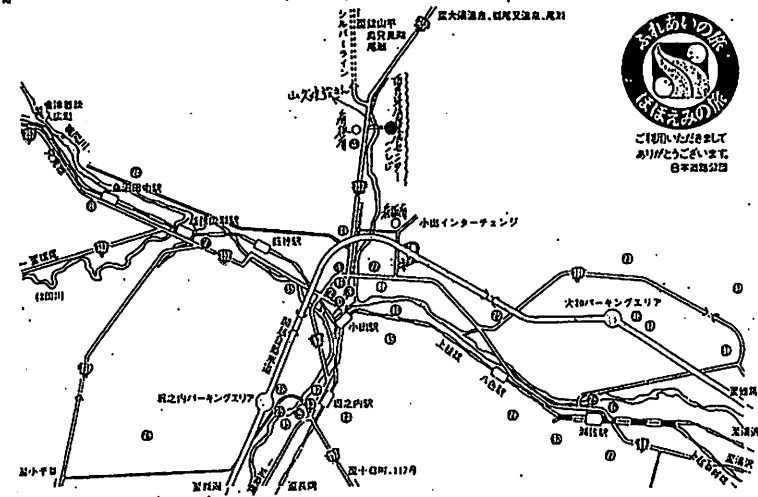
(会場整理費徴収についてのお断り)

近年、支部活動を促していくうえで会場費・講師料など大変費用が掛かるようになりました。研究班研修会や他学会などでも参加費として徴収する傾向にあるようです。今後支部活動において、会場整理費として徴収させて頂く場合があるかとおもいますが、会員皆さまの御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。

《申し込み方法》

9月14日(木)迄に、担当地区役員または長岡赤十字病院・岩本まで会費別①・②・③・所属・氏名を申し込んで下さい。

小出インター周辺のご案内



◆第64回(社)新潟県臨床衛生検査学会について

新潟県臨床衛生検査技師会では、新体制の中、学術一同「皆で参加する(企画・実行)」をスローガンに秋期県学会に向けて頑張っております。本年度初の試みとして「平日参加は難しい!」と言う声が多い中で、日曜日に開催する事になりました。皆さんお誘い合わせのうえ、御参加を御願いたします。

日時: H7年11月12日(日)

会場: 長岡ベルナル(飛翔) TEL:(0258)29-0101

内容: 研究班レクチャー・一般演題・特別講演・公開講演
(詳細は、新臨技会誌参照)

《お願い》今年から生涯教育認定制度本施行に入り、研修会時に生涯教育手帳の提示の必要がなく、受付で会員番号・氏名を記入していただきますので会員証をお持ち下さい。

やまあい

Yamaai No.90 平成7年11月12日
(社)新潟県臨床衛生検査技師会中越支部

中越支部活動報告

★長岡医師会主催の『糖尿病を知る集い』に技師を派遣

去る9月9日(土)コープ文化センターNCホールにて、糖尿病を知る集いが開催された。当日、中越支部から長谷川邦雄技師(立川Hp)ほか3名を派遣し、一般参加者350名の中から、希望者100名ほどに対し血糖検査を実施した。技師会は公益法人として地域医療の一躍を担えた。

★『ふれあい研修会』

去る9月30日(土)～10月1日(日)の両日、湯之谷村・国民年金保養センター「こしじ」で開催された。

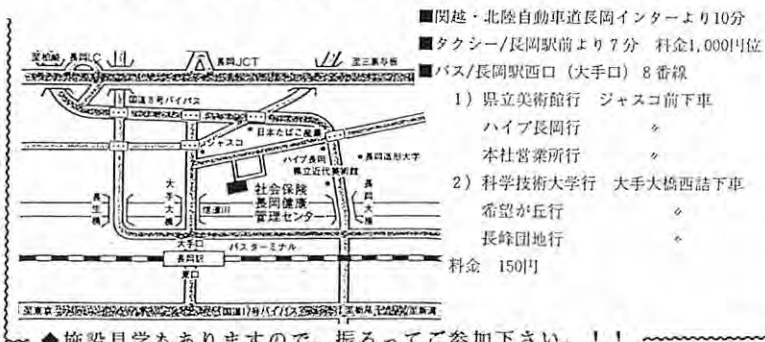
『体外受精の仕組みと技師の役割』と題し、立川総合病院不妊受精センター医長の星野明生先生から、ご講演いただいた。不妊症の診断治療から顕微受精までを大変わかりやすく、また、体外受精に対する先生の本音を交えたお話を聞く事ができた。技師の役割については、各施設の状況に応じた対処・参画をすべきとのご指導をいただいた。

引き続き、東芝メディカル(株)の浜滝寿伸先生による『胸部・腹部エコーの抽出法と判読』の講演。翌日は、技師を講師に実践的な実習が行なわれた。腹部エコーの患者役をお願いした方に、「胆石」が偶然にも発見されたことや、例年にない74名と多くの参加を得た事など、有意義な研修会となった。ご協力いただいた方々に感謝し、心よりお礼申し上げたい。

★県臨技会活動報告

去る11月12日(日)にベルナル(長岡市内)において、第64回新潟県臨床衛生検査学会が開催された。研究班主体の学会と日曜日それも仏滅を狙った学会は功を奏し、200余名の参加を得て成功裏に終了することができた。今後の県臨技の予定は、総会が来年4月26日(金)万代市民会館(新潟市)。法人化10周年記念式典が、6月9日(金)ホテル新潟(新潟市)にて開催される運びとなっている。

★中越支部研究会 会場のご案内



★中越支部研究会のご案内

期日 : 12月10日(日) 10:00~15:00

会場 : 社会保険長岡健康管理センター
長岡市寺島町字飴売229番地1
TEL 0258-28-3666

次第 :

10:00~10:30 開会 支部長挨拶 山崎将宏

10:30~12:00 特別講演

『これからの医療と福祉』

県医師会理事・県国民健康保険審査委員会会長
講師 県産業保健連絡協議会会長・南魚沼福祉社会理事長

河内 実 先生

12:00~13:00 昼食と施設見学

13:00~14:50 話題提供(一般演題)

座長 原 正人 (刈羽郡総合病院)

- 『ケガの予防と回復の伴ったPPLの一症例』
小林 進 (県立六日町病院)
- 『コアグレックス100s用凝固試薬の検討』
黒澤芳子 (県立加茂病院)
- 『各種疾患における血清アミラーゼの変動とその意義について』
山口勇司 (田宮病院)

座長 佐藤 信 (立川総合病院)

- 『膀胱の癌肉腫の一症例』
高頭秀吉 (長岡日赤病院)
- 『検診にて発見されたアメーバー性大腸炎の症例』
渡辺英子 (長岡中央総合病院)

座長 品田恭子(国立療養所西小千谷病院)

- 『心房停止の2症例』
桑原喜久男(済生会三条病院)

座長 関谷寿子(県立六日町病院)

- 『99%アルコールを用いたクッション+Swim-down法の有用性』
小玉真由美(立川総合病院)
- 『クッション+Swim-down法の有用性』
斎木久美子(立川総合病院)

14:50~15:00 閉会

★弁当の注文は、11月末日までに各担当役員(11月10日)をお願いします。
弁当は600円の予定です。また、会場は駐車も可能ですのでお誘い合わせの上、多数のご参加をお待ちしております。



Yamai No.91 平成 8年 1月26日
発行 社団法人 新潟県臨床衛生検査技師会中越支部

あけましておめでとうございます。

会員の皆様には新しい良いお年を迎えられたことと思います。
今年の中越支部が昭和31年に発足してから40周年目にあたる年を迎えました。40年といえますと、当時、青年で職場の若手ホープも還暦を迎え、第一線から退く時を迎える長さです。
つまり、第一回の国家試験で資格を取得した人達が次々と現役を去り、代わって技師法に基づく学校を出てきた人達の時代へと変わって来ました。技師会も21世紀とともに新しい時代を迎えようとしています。
昨年からは技師会の生涯教育制度も本格的なスタートを切りました。それを受けて、我々中越支部も会員の皆さんが喜んで参画し、生涯教育の実をあげて頂きますよう研究会・講習会の計画を実行してきました。それらに対する皆さんの要望をアンケートという形で昨年の暮れに取りまとめさせて頂きましたが、今後の活動に活かして行きたいと思っております。

今年も中越支部の発展のために皆さんのご協力とご支援をお願い致します。まして年頭のご挨拶とさせて頂きます。

支部長 山崎将宏
中越支部理事一同

☆中越支部研究会開催される

例年ですと支部研究会の日は、天候に恵まれず参加人数に不安を持つのですが、平成7年12月10日(日)は、晴天に恵まれ78名の参加により社会保険健康管理センターに於いて開催されました。

午前中は、「これからの医療と福祉」と題し、県医師会理事・国民健康保険審査委員会会長である河内 実先生より、老人医療の現実と将来の展望についてご講演を頂きました。講演終了後、昨年開設されたばかりのセンター内を見学させて頂き、当センター藤田技師の「鍵の掛かっている部屋以外は自由に見てよろしいです!」との指示に、参加者は、大変きれいでゆとりのある作りに感心し、見学されておりました。
午後からは、その年の県内・外で発表された一般演題8題を発表していただき、大成功裏に終了しました。

御協力いただいたセンターの藤田技師・山崎技師・加藤技師にお礼申し上げます。有り難うございました。

◇研究会アンケート集計結果

(アンケート配布62、回収40:回収率65%)

参 加 年 代 別	
男性: 20代-1名 30代-2名 40代-7名 50代-0名 60代-2名	合計12名
女性: 20代-7名 30代-11名 40代-6名 50代-1名 60代-0名	合計25名 不明3名
職 業 規 模	
技師2~3名施設: 6名 技師4~10名施設: 11名 技師10名以上施設: 21名	不明2名
担 当 分 野 (複 数 回 答)	
全般的3名 化学4名 一般13名 血清6名 輸血5名 生理13名 微生物5名 病理1名	血液11名 公衆衛生1名 情報1名 その他4名
評 価	
特別講演: 大変よかった・9名 よかった・21名 まあまあ・4名 興味ない・0名	
一般演題: 大変よかった・6名 よかった・23名 まあまあ・6名 興味ない・0名	
感 見 ・ 感 想	
・会場がきれいであった。 ・日曜開催はよかった。 ・演者の声が早口で小さい。	
・12月は忙しいので11月末にして欲しい。 ・一般発表で他部門の話を開けて刺激になった。	
・特別講演は身近な問題でよかった。 ・一般教養も取り上げて欲しい。	

◇第65回県学会一般演題締切迫る!

- ・予備登録申込締切 平成8年2月20日
- ・抄録受付締切 平成8年3月6日

◇法人化10周年記念行事

- ・平成8年6月7日(金) ホテル新潟(記念講演など計画中)

◎技師会費納入のお願い・2月末迄に!!

- ・会費納入の時期になりました。現会員の方は引き続きの継続を御願ひ致します。また、まだ未入会の方がおられましたら入会を勧められるようお願い申し上げます。

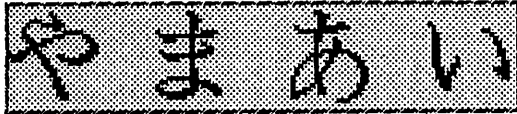
【内訳】・日本臨床衛生検査技師会会費	¥10,000
・新潟県臨床衛生検査技師会会費	¥5,500
・新臨技中越支部会費	¥1,000
合計	¥16,500

- ・新入会の方は、今年度から入会金が2,000円になりますので、上記金額にプラスして、計18,500円になります。

《送付先》〒945 柏崎市米山台3-1-15 山崎将宏(TEL:0257-23-8659)
《振込先》

銀行 第四銀行433-1219388 中越技師会会費・高野淳子
郵便 00610-6-11542・山崎将宏

支部総会は3/23(土)の予定です。参加をお願いします。



Yamaai No.94 平成 8年 9月 6日

発行 社団法人 新潟県臨床衛生検査技師会中越支部

9月に入り、朝晩涼しくなり大変しのぎやすい季節になって参りました。日本列島、依然病原大腸菌O-157が猛威を奮っており、この夏各病院細菌検査室では対応に追われていたのではないのでしょうか。

さて支部活動も後半に入り、ふれあい研修会・研究会および支部結成40周年行事が予定されております。会員皆様方が”一声かけ合って”積極的に参加されますよう、お願いいたします。

☆中越支部フォーラム開催(参加者22名)

去る6月15日、立川総合病院に於いて15病院の方々からお集まりいただき「検査の管理・運営」について、外部委託検査を中心に各施設の現状や問題点について討論されました。尚、会に先立ち事前にアンケートを取らせていただいた内容について一部掲載いたします。

- 1) 外注検査にする基準は? (施設数)
 - * 検体数の少ないもの(年間500件以下など) 12
 - * コストの高いもの 9
 - * 設備(機械・機器)がないもの 9
 - * 緊急性のないもの 3
- 2) 外注検査にするメリットは?
 - * 採算性の向上(無駄を省く) 16
 - * 特殊検査ができる 7
 - * 機械・機器購入、更新費用の削減 6
- 3) 外注検査にするデメリットは?
 - * データが遅い 10
 - * データ管理ができない(精度に不安) 7
 - * 検体量のロスが多い(多項目分割) 6
 - * 至急対応ができない 5

☆健康フォーラム開催(参加者67名、学生13名)

7月7日長岡I.L.Cにおいて球技大会が行われました。ミニ講演(昨年好評のストレッッチ体操)の後、ソフトバレーボールを行い熱戦逆転の末、済生会三条病院が優勝しました。お昼には恒例の”豚汁”を作り、アツと言う間に売り切れました。午後からは今回初のソフトドッチボールを行い少し迫力にかけたように感じましたが結構楽しくでき、日赤・立川混成チームが優勝しました。

◎「糖尿病を知るつどい」にご協力を！

長岡市医師会主催の「糖尿病を知るつどい」が今年で10回目を迎え10月12日(土)、NCホール(日、ニューオータニ)で開催されます。毎年支部では、共催団体として血糖測定コーナーを担当しておりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

◎ふれあい研修会に参加しよう。

期日:平成8年10月5・6日(土・日)
会場: 剣野公民館(研修) / 別業旅館大家(懇親会・宿泊)
内容: 「MRIについて」 (株)東芝メディカル 懇親会、宿泊
※詳細については、後日案内文を配布いたします。

◇支部結成40周年記念行事について

今年支部結成以来40年の年にあたります。一つの節目として、後益々の支部技師会の充実と発展を期し、記念講演および今までご尽力いただいた方々の表彰と祝賀会の計画・準備を進めております。
期日:平成8年12月8日(日)
内容: 記念講演/表彰/祝賀会

☆歓迎！！技師会新入会

・佐藤幸子(県立十日町病院) ・伊藤雅子(刈羽郡総合病院)

◇日臨技会員証の再発行は、《自己申請》です。

日臨技会員証を紛失された方、または、改姓された方は、ご自身で申請書を記入し、日臨技へ郵送して下さい。
申請方法は、「医学検査」第4.5巻・第5号をご参照下さい。
(費用:紛失・破損¥500、改姓無料)

新 報 会 だ よ り

(生理検査勉強会)

日 時: H8年9月10日(火) PM6:00~

会 場: 厚生連長岡中央総合病院 第一指導室

内 容: 「神経生理学一級」 ※(臨検に関する質問など)

講 師: 厚生連長岡中央総合病院 神経内科医長 大野 司先生

問い合わせ先: 厚生連長岡中央総合病院 生理検査室 尾品代喜子まで

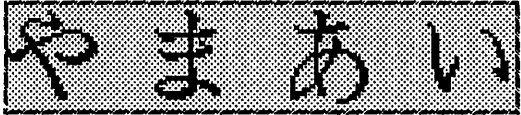
★東芝メディカル(株)の医用機器展示会および講演会のお知らせ

日 時: H8年9月13日(金) PM2:00~7:00、14日(土) AM10:00~PM5:30

会 場: 長岡グランドホテル(2F・南の間)

講演会/14日(土) PM3:30~5:00

演 題 「肝臓の超音波診断と治療的応用」 講師/新潟大学医学部第3内科 遠辺義史先生



Yamaai No.95 平成 9年 1月 20日

発行 社団法人 新潟県臨床衛生検査技師会 中越支部

巻 頭 言

“ 明けましておめでとうございます。 ”

た。こて
しすせ
で指らく
年目く
きめく
す。すた
ま記の年
思年かり
と周れ切
こ4はう
た足でい
れ発演と
らは講年
え年別周
迎昨年0
をはきて
年はず、
新てでし
いし催ま
良ま開き
はりが頂
にと会岐
様部究示
の支る員
皆部研て
の支る員
中義にき
意と頂し
し 政え
シ暗いき
なま

た。こて
しすせ
で指らく
年目く
きめく
す。すた
ま記の年
思年かり
と周れ切
こ4はう
た足でい
れ発演と
らは講年
え年別周
迎昨年0
をはきて
年はず、
新てでし
いし催ま
良ま開き
はりが頂
にと会岐
様部究示
の支る員
皆部研て
の支る員
中義にき
意と頂し
し 政え
シ暗いき
なま

宏 同 将 一 崎 事 山 理 支 部 長 中 越 支 部

= 40周年を迎えて =

宏 同 将 一 崎 事 山 理 支 部 長 中 越 支 部

で0の
年1う
3年祝
和3年
長た昭
部して昭
支まとが
れこ一足
さの会発
成後者に
結と術こ
がっ技こ
拿す査は
者は検々
技術の生
技た術し
查っ区し
換な地と
菌に越足
細度中発
限制1の
海がるの
新稱あた
月名でし
5う職成
年い先結
5とのに
2部そ日
和支。3り
附越が1
中す月で
郎ま衛と
てとしを
1
2
3

次り床策
貞あ臨対
原そのの
栗の今後
人たが今
起りい大
ら誌たけ
が念め分
れ声県れ
な記とく
に上産(そ
残しま大
に上令。残
誌集条たを
念に師し
記開技ま
年長査れ
5名固定集
36細制に
たり奥ちの
換な地と
菌に越足
細度中発
限制1の
海がるの
新稱あた
月名でし
5う職成
年い先結
5とのに
2部そ日
和支。3り
附越が1
中す月で
郎ま衛と
てとしを
1
2
3

には多
の目で
から年
代の方
代世目
行の各
代四展
世して
るて各
い四展
がの発
の次展
開、次
見あて
をつし
目つそ
き退す
大をま
に職り
代現あ
次がで
いんよ
てとい
しほな
う自運
ろ代う
わ一そ
変、も
く在の
現るで
な何よ
大お

結成40周年記念研究会・祝賀会、成功裏に終わる！！

平成8年12月8日ニューオータニホテル長岡に於いて支部結成40周年記念研究会・祝賀会が開かれました。雪の天候で出足が心配されたのですが総勢100名近い会員の方々が参加いただき盛大にとり行うことができました。ありがとうございます。

◎◎◎ 記念研究会出席者数：95名 ◎◎◎ 記念祝賀会出席者数：52名
※会の詳細につきましては、記念抄録集をご参照下さい。

☆役員改選のお知らせ

平成9年度は役員改選の年です。役員選出規定に基づき役員選考委員会を設置し、新役員を選出致します。

☆技師会費納入のお願い、2月末日迄に！！

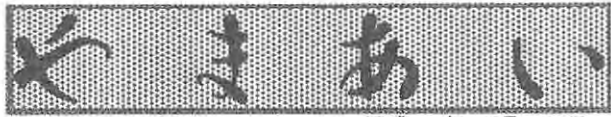
会費納入の時期になりました。現会員の方は引き続き継続されますよう願っています。また、未入会の方がおられましたらご入会を勧められるようお願いいたします。

	《継続会員》	《新入会員》
内訳：日本臨床衛生検査技師会費	¥ 10, 000	¥ 10, 000
新潟県臨床衛生検査技師会費	¥ 5, 500	¥ 5, 500
所属支部会費	¥ 1, 000	¥ 1, 000
新入会費		¥ 2, 000
合 計	¥ 16, 500	¥ 18, 500

納入方法 ① 銀行振込 第四銀行433-1219388中越技師会会費・高野淳子 ② 郵便振込 00610-6-11542 山崎将宏

※必ず上記何れかの方法で納期までに納入して下さい。納期迄に納入されないとは納期以降の研修会において生涯教育の点数が認定されませんのでご注意ください。

ごま班申
が(4)折
さん去、お
子(た)一たを
理事してし福
由理まがつま
内部れんたれ
山支ささわら
の迄献鶴に献
院年費千年更
病6に木長し
合～展背、残
総年発のりを入
央3の院あ績
中成会病で業お
岡平本田長のた
長はれ吉会くし
、んら、副多ま
日さめ日のめれ
1内動3会動さ
1山を2本を献
月、1月は員貢
1た姿2ん姿に
1し副1き園展
年ま班年不全発
成さ研成、委員
成さ研成、委員
平去血平た委本上
遊輸し県し



Yamaai No. 97 平成 9年 5月 20日
発行： 社団法人新潟県臨床衛生検査技師会中越支部

《平成9年度中越支部研究会・総会報告》

去る、3月29日穏やかな春の日差しの強い土曜日の午後、長岡高齢者センター「けさじろ」において研究会及び中越支部通常総会が開催されました。
特別講演として、群馬大学医療技術短期大学・北里大学保健衛生専門学院講師高橋正雄先生をお迎えし、『今、検査界に思うこと』と題した検査界の裏表に関する興味深い講演でした。
総会では、議長に加藤正人技師(厚生連長岡中央総合病院)を選出し、「平成8年度事業報告」、「平成8年度決算報告・会計監査報告」及び「平成9年度事業計画案」、「平成9年度予算案」について審議され、原案通り承認されました。
また、平成9・10年度役員が先に行われた中越支部役員選考委員会にて選出され、選考委員長の富永富市技師(県立小出病院)より発表され、全会一致で承認されました。

《中越支部平成9/10年度役員及び担当地区・病医院》

支部長挨拶



新緑のまぶしい今日この頃です。田植もほぼ終わったでしょうか？
会員の皆さんは、新年度を迎えた新たな気持ちで仕事に取り組んでいることと思います。さて、私こと岩本久司(長岡赤十字病院)は、先般の支部総会において支部長に選出されました。
まずは、4月16日に支部役員会を開催し、各役務分担、担当施設等が決定いたしました。(下記参照) 役員のうち3名が改選され、慣れない仕事に少々不安ですが、平成9年度事業計画に沿って、恒例となった行事はもちろんのこと、新たにコンピューターの勉強会(シリーズ)や、臨床検査技師を世間を知ってもらうために、地域社会の行事への積極的参加を計画しています。

役員一同全力を尽くす所存ですが、会員の皆さんのご協力をお願いいたします。

職務	*印は県理事	氏名	(勤務先)	担当地区
支部長	*	岩本 久司	(長岡赤十字病院)	長岡C地区
副支部長(兼組織)		長谷川 利春	(県立療養所悠久荘)	県立療養所悠久荘
県副会長(兼学術)	*	山口 勇司	(長岡西病院)	長岡A地区
事務局	*	吉原 正弘	(立川総合病院)	長岡B地区
会計		山崎 美智子	(長岡赤十字病院)	長岡C地区
庶務		笠原 夕香	(柏崎メディカルセンター)	柏崎・刈羽地区
広報	*	田中 裕人	(済生会三条病院)	三条・加茂A地区
機関誌		保科 清子	(長岡保健所)	保健所関連
学術		黒澤 芳子	(県立加茂病院)	三条・加茂B地区
"		黒山 泰久	(厚・長岡中央総合病院)	長岡D地区
"		小杉 仁志	(厚・中条病院)	十日町・中魚沼地区
組織		黒崎 和広	(厚・魚沼病院)	小千谷・北魚沼地区
"		小島 誠	(県立小出病院)	南魚沼地区
生涯教育	*	木村 明	(北里保健衛生専門学院)	北里保健衛生専門学院
表彰委員		柴野 正	(長岡赤十字病院)	
監事		秋山 俊彦	(県立十日町病院)	
"		神田 浩一	(厚・刈羽郡総合病院)	
顧問		栗原 貞次郎	(自宅)	
"		山崎 将宏	(自宅)	

【 貴施設は 〃 が担当いたします。】
平成8年度自己申告締め切りは、5月末までです。申告漏れの無いようにお願いします。

《今期で役員を退任された方々》

高野 淳子 (長岡赤十字病院) 柳 春美 (厚・長岡中央総合病院)
長谷川 美和子 (三条保健所) 寺門 義明 (国療新潟病院)
藤ノ木 良一 (津南病院) 田村 英行 (厚・魚沼病院)
相川 千鶴子 (県立六日町病院)

大変ご苦労さまでした。また次の機会での活躍をお願いいたします！

《会員の異動》

氏名	旧勤務先	新勤務先
小林 進	県立六日町病院	県立がんセンター
田沢 崇	県衛公研	三条保健所
保科 清子	六日町保健所	長岡保健所
長谷川 美和子	長岡保健所	三条保健所
広川 智香	三条保健所	六日町保健所
村山 昌子	三条保健所	長岡保健所
藤ノ木 ゆりえ	労衛医協会六日町	長岡健康管理センター
小杉 仁志	厚・魚沼病院	厚・中条病院
長谷川 紀昭	厚・魚沼病院	厚・長岡中央総合病院
手塚 宗昭	厚・長岡中央総合病院	厚・魚沼病院
細 塚 剛子	糸魚川総合病院	厚・魚沼病院
賀 賢	厚・中条病院	厚・魚沼病院

《新入会員の方々》

小田 幸代 (三条・大島病院) 樋口 晃子 (柏崎メディカルセンター)
早川 由美 (柏崎メディカルセンター) 藤田 公子 (県立小出病院)

《退会の方々》

須佐 稔 (六日町保健所) 中村 和代 (新潟臨床検査センター長岡営業所)
高橋 シンダ子 (古藤医院) 伊藤 弘 (中条病院)

《中越支部活動予定》(日時確定した活動)

1；中越支部フォーラム 平成9年6月18日(水) 14:00~17:00
長岡赤十字病院6F会議室 (詳細は別紙にて)

2；健康フォーラム 平成9年7月6日(日) 9:00~15:00
県立療養所悠久荘2F体育館
ミニ講演並びに球技大会 (内容は検討中)

*ふれあい研修会(名称募集中)平成9年10月予定のほか平成9年度実施予定の活動は勉強会(シリーズ)「コンピューターによる統計処理」などを計画検討中。

《東北技師会研究班研修会予定》

臨床化学	5/31, 6/1	秋田市	「精度管理について」
血液	6/7, 8	仙台市	「検査室からの発信を目指して」実習と講義
病理	6/14, 15	秋田市	「インターネットを利用した研修予定、鏡検実習」
一般	7/12, 13	秋田市	「尿沈液鏡検実習、講演(寄生虫・便潜血・異形細胞)について」
情報システム	7/18, 19	山形市	「医療社会情勢の変化に対応できる臨床検査場法管理」
輸血	7/26, 27	秋田市	「これからの輸血管理と検査技師のかかわり(実技と講義)」
公衆衛生	7月or8月	仙台市	(予定)
血清	11/14, 15	松島	全国研修会と一部合同予定
微生物	11月頃		
生理	未定		誘発電位の子定

----- その他の勉強会 ----- (やまあいに掲載したい勉強会募集中)

市民てんかん講座 5/24(14:00-15:30) ハイブ長岡「てんかん医療の最新情報から」
西新潟中央病院 6/28(14-15:30) 上越市高橋荘「てんかん医療の最近の進歩」
センター主催 7/12(14-15:30) 新潟市生涯学習センター「こどもてんかんとおとなてんかん」
9/6(14-15:30) 三条市総合福祉センター「てんかんの原因から包括的治療まで」
10/18(14-15:30) 新潟エコーラボ「治るてんかんと治りにくいてんかん」

やまあい

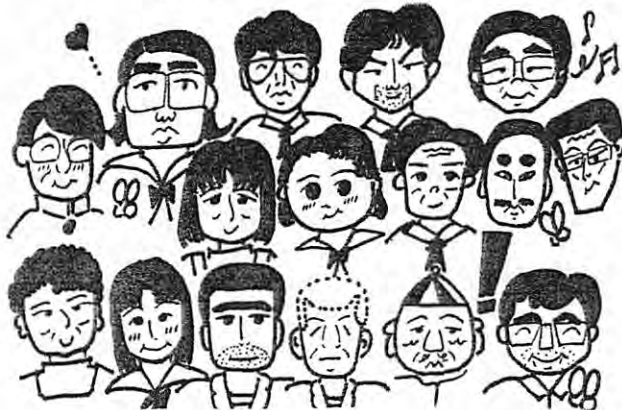
Yamaai No.100記念号 平成9年12月20日
発行： 社団法人新潟県臨床衛生検査技師会中越支部

ようやく先輩諸氏のおかげを持って当100号記念号発行となりました。私たちが役員一同は、毎月一回の理事会で絆を深めています。会員の皆様も楽しく、又、ためになる行事を一生懸命考え実行できるよう努力していますので、今後ともよろしくお願いたします。イベント会場で役員一同お待ちしております。

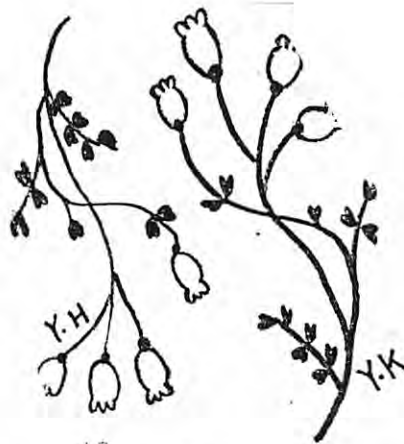
栗原
中越支部元祖！

山崎 (将)
心も広く
顔も広い
岩本
人生の岩場も
登るぞ！
頼れる支部長
長谷川
アツい盛りは
まかせろ
カマラン支部長
吉原
気は優しく
力持ち！！
黒澤
元気ハツラツ！
女技師長
保科
清く正しく美しい
正義の公務員
笠原
色気より食い気
元気イッパイ！

中越支部理事会役員一同



「脱ぐのですか。」と
女性問い、
答に窮する
男子学生



小島
まじめで優しい
お父さん？！
小杉
平安時代の貴公子？！
木村
抄録作りの達人！
黒崎
燃えるお兄さん
田中
フレンド作り
一生懸命
"やまあい"編集長
山口
気配り上手、
乗せ上手な
県副支部長！
山田
角の似合う優しい男？！
山崎 (美)
しっかり会計、
ほのぼの笑顔

県立六日町病院
相川千鶴子

検査今昔物語

社会保険長岡健康管理センター 藤田 栄六

昭和34年、第1回衛生検査技士(当時は師でない)の国家試験が実施された。特例試験合格者での現役も僅かしかないと思う。

棒寒天、肉エキス、ペプシン、食塩に蒸留水を入れ、三角コルベンで溶解後フランネル布で濾過(これは料理教室のメニューではありません)。寒天培地の作製です。ニーランドル、坂口食、高田反応、村田反応等みんな忘却の果てと化してしまった言葉である。試薬も総て自家製、目試から比色計、そして今は試薬はキット、測定器は自動分析器の全盛時代。自家製試薬の時代にもし制度管理等実施されたらどんな結果が出たであろうと思うと背筋が寒くなる思いがする。日進月歩の医学と言うが肌で感じている。

思い浮かぶままに！ 小千谷総合病院 井口 修

私がこの仕事に携って30年近くになろうとしています。この間社会情勢の変化と共に医療も高度化し、医療技術も大きく進歩してきました。その一つに臨床検査が手法から自動分析に、測定法はより精度、精密を求める方法へ、そしてコンピューターを用いたの益々のシステム化等検査をとり巻く環境も変わってきました。元来勉強好きではない自分がそれらに四苦八苦しながら取り組んでこれたのも仲間のおかげと思っています。これからの21世紀に向けて我検査科も高齢化が進んでいますが、皆で明るく楽しく健康で過ごせたらいいなと髪の毛の薄くなった頭をかかえながら願う今日この頃です。

「やまあい」100号記念号めでとうございます。
「継続は力なり」です。毎号、その月の季節を感じ、研修会や活動日程を知り、役員の皆様にも感謝しております。悠久荘は改築工事が10月から始まり、周囲の美しい木々や花壇が撤去され、高い金属塀に置き換えられ殺風景な景観になってしまいましたが、塀の中には、患者さんにやさしい自然豊かな病院ができて、工事が着々と進んでいるようです。工事にもとらわれない数の減少をカバーすべく、職員も頑張っております。
県立療養所 悠久荘 検査 桑原 恵美



やまあいの図鑑から
「山 藍」トウダイグサ科
日本の暖地、台湾、中国に分布する多年生草本。高さ30~40cm。茎は四角で葉は広い、針形さし歯があり暗緑色、長い葉柄を持ち対生する。春夏果實に白い花柄を出して緑白色の小葉生花をつける。
葉にindicanを含み、indigoを製するに用い、わか国における最も古い染料植物で、万葉時代以前から染色用に用いられた。
(タチバナのアイとは、別の植物です)

日々の業務にボランティア精神を！！

十日町病院 秋山俊彦
検査技師の意識改革の必要性が叫ばれて久しいが、実行はいかに難しいかを痛感しているこの頃です。
患者中心の医療の一端を担える検査技師
他の医療スタッフと協働出来る検査技師
医療全体を把握している検査技師
等々力説しても、総論理解出来るが各論???と言うのが大方の様になります。

そこで意識改革の為の提案

1. 趣味と仲間を多くして暖かい技師になろう。
2. 日々の業務を、ボランティア精神を旺盛にして取り組もう。

ボランティア活動は職務を離れて『これがボランティアです』と言う感じを受けますが、ボランティア精神さえ有れば日々の生活や業務の中にも生かせるのではないのでしょうか。

やまあい 100号記念号によせて

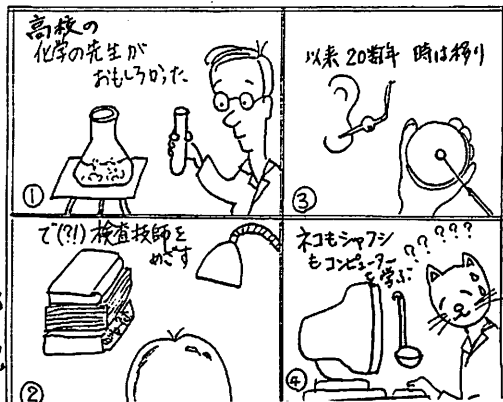
三之町病院 堀 賢
原稿の依頼をいただき、指折り数えてみた。社会人として白衣を着てもらう15年である。月日の過ぎるのは本当に早い。最近、特にそう感じるのは歳のせいだろうか。毎日何気なく着ている白衣であるが、患者さんは白衣を着た私に対して頭を下げてくださる。喋れる状況ではない重症の患者さんから『有り難うございました』などと言われる。そんな患者さんに対して私ができることは、1日も早く病気が完治できるような、1日も早く日常の生活に戻れるような質の高い検査データをより早く臨床に渡し、病状と闘う手助けになる事だ。頭を下げられるに値する検査データを出してあげたい。白衣に恥じない様な仕事をしたい。いまだ、育奥との入り交じった考えが頭の中を駆け巡るが、「忙しさ」と「慣れ」によって理想と現実のギャップが生じてくる。

4年前程 中越支部の役員をやらせていただいた。力不足と勉強不足の私は満足な仕事ができなかったのは言うまでもないが、当時の支部役員の方々から私が得たものは大きかった。検査に取り組む姿勢、検査技師としての倫理感、支部を思う心、犠牲的精神、等々... 山崎前支部長をはじめ役員の方々に本当に良い刺激をいただいた。それは、私の中の理想と現実ギャップを少しずつ狭めてくれた刺激になっていたと思う。

疾病構造の変化や検査をとりまく環境、時代は日々動いている。まだまだ学習と反省の日々である。社会人として白衣をきて「まだ」15年である。

起承転結

小尾郷病院
小林マチ子



16の11 記念号

やまあい

「やまあい100号」記念号発行に御努力された方々に感謝し御礼申し上げます。やまあい100号発行までの間、私自身、19年間技師として病院に勤務し、その間社会の変化、医療の変化、そして患者自身の医療に対する考えが変り、国もまた医療費削減、個人負担のアップ等々、医療を取り巻く環境、進む方向が変わり、それをふまえ病院も療養型へ転換しようとする施設が増えました。検査技師も今までの考えにとらわれず視線を多方向に向け状況に対応していく時代になったと思います。通常業務や技師会活動で大変とは思いますが、今後も支部活動を伝える機関誌「やまあい」の発行に、期待します。

医療法人 至誠会 長岡保養園 野本 栄一

やまあい100号記念

おめでとうございます

かつて、検査技師になりたての頃は

白衣を着て仕事をする事が、新鮮でした。

とかく平凡な毎日になりがちですが、

私らがユニフォームである白衣を着る

ことで、気を引き締めつつ、仕事に

いそまねばと思う今日この頃です。

三条保健所

長谷川 美和子



この度は「やまあい」100号発行おめでとうございます。私が中越支部の理事になったのが平成3年から2年間でした。旧日赤病院の技師室で月1回いろいろなことについて話し合いました。あの当時は、昨年亡くなられた青木さんや、山内さんもお元気で、お二人の死はとても悲しく残念でなりません。「やまあい」が届くとあのころの他の理事の方々や、活動がまっ先に思い出されます。今は一会員として中越支部の行事や研究会にはできる限り参加するように心がけています。

三条総合病院 山田 玲子

厚生連川羽郡総合院 原 正人

会員相互の親睦を深め、日頃のストレスの解消と運動不足の解消を目指す球技大会(現 健康フォーラム)は、もう10年以上続けられています。

毎年、本当に多くの皆さんが参加して楽しんでくれており、最近では、種目がソフトバレーボールとドッチボールですが、その前はバレーボールと卓球でした。

いろいろと活躍させてもらいましたが、今後も大勢が参加出来る楽しい企画をお願いします。

あと来年からも柔軟体操を十分にしましょうネ!

長岡西病院 臨床検査科 山崎 恒

長岡西病院も早5年を経過し、来る2000年に対応すべく第2世代コンピュータ化の計画が進みつつある。

当検査室においても、激動・改選の5年間であった。田宮病院、西病院検査室一本化、昇格に伴う他施設・他部署への人事流出と目まぐるしく落ち着く暇のない時期であった。この様な状況の中、技師の専門性の幅を広げマルチプルな少数精鋭的な対応をしてきた。

技師会活動について一言言わせて頂ければ、各研修のお知らせが早期に来て頂きたい。これは勤務体系から来るもので、特に土曜日に研修会が多く、1日勤務である当院に取っては勤務表を組む関係上少なくとも一カ月前前には届いてほしい。(インターネット等で早く知る方法も今後できると思うが...) また、医学検査のアンケートにもあったように、県の雑誌も一施設数冊でも構わないし、あれ程りっぱな紙質でなくても結構かと思います。(もっと安くできるのでは?) 技師会の役員の方には、頭が下ががる思いますが、今後の技師会活動がより発展するよう祈っております。

支部会員皆様へ献血のご協力お願いします

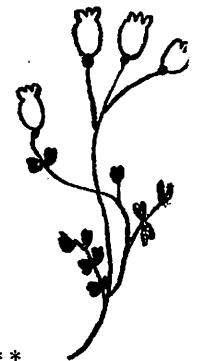
年末年始の血液不足に対応するため下記の場所で献血が行われます。皆様お誘い合わせの上、ぜひご協力お願いします。

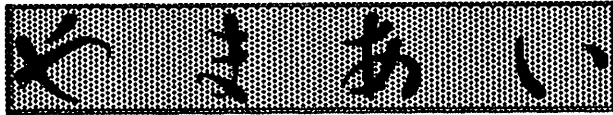
- 12/26 十日町市役所
9:30-10:30, 13:00-15:00
スーパーセガマツシ長岡店
10:00-12:00, 13:00-16:00
本町血液センター長岡出張所
9:00-12:00, 13:00-16:00
長岡保養園(成分献血)
9:30-10:30, 13:00-15:00
- 12/27 燕市 燕運送(株)
10:00-12:00
燕市 燕鋼材運輸(株)
13:30-15:30

平成10年

- 1/3 タニ一長岡店
10:00-12:00, 13:00-16:00
1/4 ホムセンターむさし三条店
10:00-12:30, 13:30-16:00
1/5 西山町公民館
9:30-10:30, 13:00-15:00

新潟県赤十字血液センター供給課





Yamaai No.101 平成9年10月30日
発行： 社団法人新潟県臨床衛生検査技師会中越支部

冷秋の今日この頃、遠くの山々では初雪が降り、木々の色づきも目立ってきました。例年より急に寒さを感じますが、会員の皆様体調はいかがでしょう？ 実りの秋、”天高く～”などの「食」と共に「学」にも熟が入る秋ですが、当支部活動もいよいよ今年度後半に入りました。

さて、創刊より支部機関誌として親しまれてきましたこの『やまあい』も年6回発行を目途にしていますが回を重ねついに100号を迎えることになりました。(一部地域にて発行の手違いで限定版が出ましたことをお詫びいたします)

つきましては記念号を発行する事になり(9/10, 10/14Hの理事会(新潟県立赤病院会議室)にて)、各地区担当役員より会員の方に投稿のお願いをいたしますのでよろしくお願いたします。

”やまあい”の名前のいわれは、少しでも検査に関係があるものと考え、染料植物トウダイグサ科の「山藍」(葉にIndicanを含む)に由来し、中越の「山間」にもちなみ『やまあい』として仲間意識がうまれるようにと思いつけられました。(創刊号より抜粋転載)

【支部コンピューター関係の各講座の状況】

- 第1回 「MCPを使った統計処理」7/12 (A-15)
株マルタ長岡営業所 参加32名
担当 国際試薬(株)三松氏
- 第2回 「コンピューター情報処理の基礎」9/3 (B-10)
立川メディカルセンター立川総合病院 参加44名
プロジェクターを使用した
”コンピューターの機構”と”DOS&ウィンドウズ'95”の初歩
担当 支部役員(木村,田中)
- 第3回 「ふれあい研修会」9/20, 21 (B-20)
北里大学保健衛生専門学院, 大和町サイクリングターミナル 参加40余名
情報処理実習室を使用し、実際に操作を学ぶ
実技 支部役員(木村,他)
講義実技「データベースとエクセル」(株)デイド 船越氏
「インターネットについて」エチゴネット 原田氏
”ふれあい研修会”初日は、デイド(株)の細菌結果報告処理を利用した「データベースの考え方とエクセルの使い方」及び支部役員による初級講座と実技がおこなわれました。

宿泊は大和町サイクリングターミナルを使用し熱心な交換会が続きました。2日目はインターネットについての講演が行われました。

この講座は皆さんのご意見・ご希望等を取り入れながら続けたいと思いますので、何かありましたら役員にお知らせいただきたいと思います。

また、県研究班および他支部におきましても情報処理関係の講座がありますのでご出席下さい。奮っての参加をお願いいたします。

《すこやか・ともしびまつり'97》

中越技師会として去る10月4日(土), 5日(日)に「ハイブ長岡」で長岡市主催の「ともしび運動10周年記念行事」に参加いたしました。「健康づくりと福祉」・「健康でふれあいのあるまちづくり」のテーマで行われ、参加は111団体有り、入場者は4日(土)6000人, 5日(日)は10000人でした。一般の方々に臨床検査技師の業務紹介をし、内容を知って頂く目的で参加致しました。顕微鏡をつかい「癌細胞」や「血液細胞の役割」などの説明に熱心に聞いて下さる方々が印象に残りました。保健所さんのコーナーでは血液型検査がおこなわれましたが、2日目の午前中にほぼ予定人数に達する大盛況でした。

次回参加の折には会員の皆様のご協力をお願いいたします。

***** 【今後の活動日程】 *****

《県生理研究班講演会》(詳細は別紙にて配布)

日時： 平成9年11月29日(土)14:00～
会場： 長岡中央総合病院 健診センター4階講堂
内容： 『カルディアック イベント(心事故)とその病態生理』
講師： 町立津南病院 院長 石川 慎一郎 先生

『糖尿病を知る集い』における血糖測定参加協力お願い

日時： 11月1日(土)13:00～
場所： [長岡ホテルニューオオタニ、NCホール]
内容： 主として血糖を測定します。ご協力をお願いします。
*注： 自己申告により生涯教育C-10の対象となります。

『支部研究会』(詳細は別紙にて配布)

日時： 12月7日(日)9:45～15:00
場所： 長岡赤十字病院 2階大会議室
内容等；10:00～ 研究発表
13:00～ 講演；『造血幹細胞をめぐる最近の話題(仮題)』
講師；長岡赤十字病院血液内科 藤原 正博 先生
14:30～ 施設見学

*参加費 ¥300

又、昼食は12階食堂で定食(¥700)が可能です。

中越支部だより

春の山菜が食卓を賑わす時期になりました。こごめ・ぜんまい・筍・ワサビ菜などいろいろな山菜がありますがここで一つ、ワサビ菜の調理法についてお教えしましょう。まず、ワサビ菜を3cm位の長さに切ります。つぎに、塩でもみ、軽く絞って水けをとりザルにあけます。そこに熱湯をまんべんなくかけ、さっと冷水で冷やし、よく絞って密閉容器(タッパ)に入れ冷蔵庫に2～3時間置きます。そして、食べるときにポン酢を少しかけていただくと“ぴりっ”と辛いワサビ菜のおひたしのできあがりです。ビールや日本酒のおつまみに最高です!! 一度、お試しあれ。

さて、この程中越支部平成7年度通常総会も無事終わり、支部活動方針 1) 生涯教育制度の構築
● 本稼働に向けて～ 2) 県研究班活動と中越支部との連携強化 3) 支部活動(事業)への積極的参加 ～声かけ合う運動～ の三点を基調に、留任役員・新役員一丸となり定着恒例事業の充実・発展に努めたいと頑張っています。会員の方々も技師会活動に積極的に参加し、他病院の仲間と接し“知識”も“心”も大きくなろうではありませんか。

会員の方々の御支援・御協力をよろしく願いいたします。

《支部活動予定》

◎中越支部フォーラム

日時：平成7年6月14日(水) 午後2時～5時
会場：(株)マルタケ長岡営業所 3F会議室
長岡市新産3-5-4 TEL 0258-47-1565
テーマ：「生涯教育制度本施行に際して」

生涯教育委員 目崎芳朗 技師

「魅力ある技師会活動とは？」 学会・研究班・生涯教育
「採血業務一その2」 支部役員

*恒例の会終了後の懇親会は、都合により今回は中止させていただきます。

*会場までは交通の便が悪いので、出来るだけお問い合わせのうえおいで下さい。

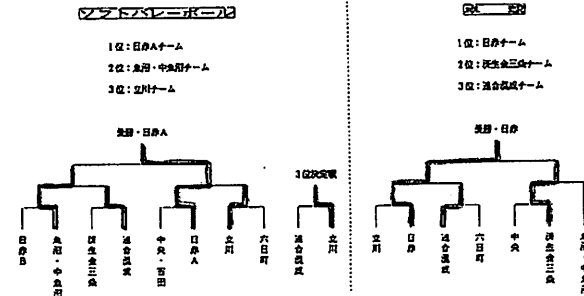
どうしても交通手段のない方は、支部担当役員まで連絡して下さい。

◎健康フォーラム(ミニ講演+球技大会)

日時：平成7年7月9日(日) 午前9時～午後3時
会場：長岡ロングライフセンター体育館
種目：ソフトバレーボール・卓球 及び ミニ講演

中越支部だより

去る7月9日(日)、雨模様の天候の中、長岡ロングライフセンターに於いて、参加技師67名により、健康フォーラムが開催されました。この会は、組織活動の一環として従来の球技大会を生涯教育認定制度を期に、認定が受けれるよう講演会と球技大会をドッキングさせ、名称を変えたものです。最初に長岡赤十字病院の高野淳子技師による講演、「今話題のスパイラルテープ」と題し、体にテーピングする事による肩こり緩和・集中心力・柔軟性などの効果について図解入りで説明をしていただきました。次に津南病院の藤ノ木良一技師より準備体操を兼ねて「正しいストレッチング」と題し、指導していただきました。日頃運動不足の方が多く、あちこちで辛そうなお方を見受けられましたが、藤ノ木技師によるとストレッチ体操は決して無理をせず、出来るところでやめるとというのが基本と仰ることでした。球技大会の方は、仕事への支障?!?!を考慮してソフトバレーボールを行いました。予想外のボールの動きにもかかわらず思ったよりもラリーが続き、大変楽しく盛り上がった試合になりました。午後の卓球は、各チーム男女混合5組で試合を行いました。結果は、長岡赤十字病院チームの2年連続完全制覇という結果になり、来年の3年連続制覇だけは阻止すべく、他病院の皆さまの健闘を期待したいと思います。また、今回は3年前より検討していました“とん汁”作りを実行し、あいにくの雨の中で四苦八苦しながら作り、半煮えの物もありましたが100人分のとん汁もあつとゆう間に無くなり大盛況でした。



《支部活動予定》

ふれあい研修会(一泊二日)

日時：9月30日(土)・10月1日(日) 午後3時～翌正午

場所：湯之谷村・国民年金保養センター「こしじ」

内容：30日/『体外受精の仕組みと技師の役割』

立川綜合病院・不妊センター医長 星野明生先生

1日/『腹部エコーの抽出法と判読』・基礎編(講義・実習)

(株)東芝メディカル

中越支部だより

9月9日(土)に、長岡ニューオオタニNCホールにおいて、一般参加者350名により「糖尿病を知るつどい」が開かれ、中越支部技師会(ボランティア)から4名の技師を派遣し、血糖測定をしていただきました。この会は、医師会主催の「糖尿病のつどい」を改め、「糖尿病を知るつどい」に名称を変えたもので、参加者の中には大変知識の多い方もおられ何度も測定したり、熱心に質問されていたと言うことです。今後も、我々臨床検査技師のアピールを兼ね、出来るかぎりのお手伝いをして行こうと思います。

[血糖測定協力者]

青木千鶴技師(吉田病院)・山口勇司技師(田宮病院)
柳 春美技師(長岡中央病院)・長谷川邦雄技師(立川綜合病院)

支部活動の恒例事業である「ふれあい研修会」が9月30(土)～11月1日(日)の両日、湯ノ谷村・国民年金保養センター「こしじ」において開催されました。

講演では、立川綜合病院・不妊受精センター医長の星野明生先生より「体外受精の仕組みと技師の役割」と題し、不妊症と治療から始まり顕微授精までについて大変わかりやすくまた、体外受精に対する本音も交えながらお話を聞く事が出来ました。また、技師から「我々検査技師は何処まで携われればよいか」との質問に対し、「難しい問題ではあるが、現段階では施設により医師・検査技師の立場・状況が違い、その施設の状況にあった対応・参画をしてゆくべきであろう」と言われました。

「胸部・腹部エコーの抽出法と判読」では、東芝メディカル(株)の浜滝寿伸先生から講義をいただき、翌日は技師を講師に実践的な実習をしていただき、モデルになった方に“**明石**”が見つかるというハプニングもありました。

今回の研修会は、近年にない多くの参加者が集まり、また、若い方の参加が多く、支部外からの参加もあり、今後の活動におけるテーマ選びの重要性を役員一同再認識致しました。参加者および御協力いただいた方々にお礼申し上げます。

[参加状況]

参加者 74名(会員:65 非会員:6 二日目のみ:3)

《支部活動予定》

☆中越支部研究会 12月10日(日)

(詳細は、11月“やまあい”に掲載)

☆支部活動に対するアンケート調査

中越支部だより

新年を迎え平成7年度の支部事業も予定通り終了し、残すところ支部総会を迎えるだけとなりました。平成8年も会員の皆さまの要望をふまえ御協力を頂きながら支部長以下、役員一同頑張りますので宜しく御願いたします。

平成7年12月10日(日)社会保険長岡健康管理センターに於いて中越支部研修会が開かれました。この研修会は、その年に学会・研究会(他学会)などで発表されたものを持ち寄り聞けなかった会員に聞いていただこうと言う主旨の会です。

当日は久しぶりの暗れ間の中、昨年新築された大変きれいでゆとりのある社会保険長岡健康管理センターをお借りし、最初に特別講演「これからの医療と福祉」と題し、県医師会理事・河内 実先生より御講演をしていただき、大変身近な私たちに必ず訪れる老齢の問題について大変わかりやすく説明いただき、自分個人の問題として真剣に考えさせられるお話でした。

午後からは、県内・外で発表された一般演題8題を再度発表していただき、出席者78名という大盛会のなか無事終了しました。

尚、この会を開くにあたり参加会員の意見をお伺いしたく簡単なアンケートを実施させていただきましたので報告いたします。(アンケート回収率65%)

参加年代別

	20代	30代	40代	50代	60以上	不明
男性	1	2	7	0	2	3
女性	7	11	6	1		

施設別

2～3名施設:6 4～10名施設:11 10名以上施設:21 不明2

担当分野(複数回答)

全般3 化学4 一般13 血清6 輸血5 生理13 微生物5 病理1
血液11 公衆衛生1 情報1 その他4

評価

特別講演 大変よかった:9 よかった:21 まあまあ:4 興味ない:0

一般発表 大変よかった:6 よかった:23 まあまあ:6 興味ない:0

尚、支部会員全員に配布した「支部活動に対するアンケート」は、集計後お知らせいたします。

中越支部だより

今年の診療報酬改訂では、ますます院内検査と外注検査のすみわけが進んだような気がします。生化学・血液・腫瘍マーカー・ホルモン検査関係の点数低下と細菌・病理・生体検査関係の点数増加および新設、また、外注尿検査の診療報酬適用外などで今後の改訂の方向性が見えてきたのではないのでしょうか。

私たち検査技師は、今までのデータを出すだけの検査技師ではなく、現状の立場を認識し、何ができるのかを考えながらコスト意識を持ち、臨床支援のできる付加価値のある検査技師として生まれ変わらなければならないと思います。

さて、下記日程に於いて中越支部通常総会並びに研修会を開催いたします。平成7年度の報告と平成8年度の方針案を述べる技師会活動の大事な場ですので、奮って参加して下さい。

記

開催日時 平成8年3月23日(土)午後2時(1時30分開場)～17時

会 場 長岡市高齢者センター「けさじろ」
長岡市今朝白2-8-18 #0258-39-6266

内 容 1) 特別講演(14:30～16:00)
題 名:「あなたも救えます、大切な人の命」
～救命リレーと救急救命活動～
講 師:長岡市消防署 救急第二係長
救急救命士 栗原 彰 先生

2) アンケート調査報告(16:10～16:30)

3) 通常総会(16:30～17:00)
平成7年度事業報告
平成7年度決算報告
平成7年度監査報告
平成8年度事業方針案
平成8年度予算案

◎総会終了後、懇親会を予定致しております。検査技師として同じ悩み・問題を抱えている仲間と唯一じっくりと話のできる機会ですので多数の御参加を御願ひ申し上げます。(同会場にて、会費3,500円 当日受付)

中越支部だより

今年の梅雨は寒い日もあり、比較的しのぎやすかったように思います。夏本番に入り、夏期休暇消化と実習生を迎え大変忙しい毎日を過ごされていることと思います。

中越支部では、6月15日(土)に「支部フォーラム」を開催し、「検査の管理・運営」について各施設の方よりお集まりいただき約3時間討論されました。

この会は、例年平日開催しておりましたが多くの会員から参加して頂こうと言うことで、今回は土曜日に開催しました。しかし、土曜の午後という時間帯の為かはっきり言えませんが予想以下の集まりで少し残念に思いました。

内容としては、数年前に話題になり最近水面下ではかなり没透してきている「外注検査」について、項目の選定・料金の決定・メリット・デメリット・未保険検査の扱い・精度管理の方法などについて各施設の現状や考え方などをお話ししていただき、大変参考になるご意見もお聞きすることが出来ました。会終了後は懇親会を開き、各施設で抱えている問題や今後の技師会活動について話が弾み、わきあいあいの内に終了いたしました。

《今後の予定》

健康フォーラム(ミニ講演+球技大会)

日 時:平成8年7月7日(日) 9:00～15:00

会 場:長岡ロングライフセンター(L.L.C)

内 容:ミニ講演(ストレッチ体操 その2)
ソフトバレーボール・ソフトドッチボール
豪華「豚汁」試食会

やまあい

Yamaai No.58 平成元年10月31日発行
発行 社団法人 新潟県臨床衛生検査技師会 中越支部

◆◆◆ 第53回新臨技研究会のご案内

新臨技(県技師会)研究会が11月10・11日(金・土)の両日に渡り、長岡市(ホテルニューオータニ長岡)にて開催されます。開催地が中越ということもあり、特に支部の会員各位におかれましては、業務多忙の事とは存じますが、多数ご出席下さいますようお願い申し上げます。

また、公開講演には「生と死と法医学」と題し、新大の山内春夫教授にご講演頂きます。日時は11日(土)の昼過ぎ(13時~14時30分)でもあり、対象も会員及び一般市民、入場無料ということでもあります。仕事の同僚や他部署の看護婦さん、ご近所の皆さんもお誘い合わせの上、お気遣いにご参加下さいますようお願い申し上げます。

◆◆◆ 「糖尿病の集い」のご案内

とき 平成元年11月11日(土) 13:00-17:00
ところ 北越銀行本店 2階 大ホール

内容 医師・栄養士の講演、関連映画、患者の体験談発表
医師の医療相談、栄養士・看護の展示指導ほか……

技師会は公益法人として社会への還元、一般市民の健康と衛生思想向上をはかることを目的に、長岡市医師会主催の「糖尿病の集い」に、中越支部として共催しまして、3年目です。我々の主な担当は、近郊の糖尿病患者を中心とする参加者約500名の中から、希望者に対し、血糖測定(デキストロメーター等)の手技などを指導、案内することになっています。あいにく県技師会の公開講演とぶつかってしまいました。しかし、公開講演終了後でも時間・距離的に参加可能です。

◆◆◆ 受賞おめでとうございます

前技師会長
小林元康技師 (六日町保健所)
東北学会にて功労賞を受賞
平成元年10月7日青森市で開催された第30回東北学会において、長年にわたる技師会活動功労者として表彰されました。心からお祝いを申し上げます。

◆◆◆ 中越支部研究会のご案内

とき 平成元年12月10日(日) 10:00~16:00
ところ 今朝白荘 (長岡駅東口より徒歩2分)

プログラム -----

10:00 - 10:10	開会式
10:10 - 12:00	特別講演 「走査電顕による腎臓」 講師 新潟大学第三解剖学教室 岩永ひろみ 先生
12:00 - 13:00	----- 昼食
13:00 - 14:30	分科会 #1 検査室でのパソコン利用 (統計処理・精度管理・ワープロほか) #2 ルーチンと緊急検査 (クロスマッチ・凝固検査ほか) #3 一般検査 (標準化の現状と今後の動向ほか) #4 微生物検査 (細菌検査のシステム化 SD-SOFTほか)
14:30 - 15:00	各分科会の総合発表
15:10 - 16:00	日臨技の法改正運動について
16:00 - 16:10	閉会式
16:15 -	懇親会

以上の要領で、中越支部研究会を行います。学術担当を中心に支部役員一同、知恵を絞り、力を合わせ鋭意準備中であります。当日には多数の参加をお願い申し上げます。

社団法人 新潟県臨床検査技師会
中越支部 発足50周年記念

記念式典
記念祝賀会

日 時 平成18年12月9日(土)
午後5時～7時30分

会 場 パストラル長岡
長岡市今朝白2丁目7-25
TEL.(0258)35-1305

1F『平安の間』 記念式典・祝賀会

社団法人 新潟県臨床検査技師会 中越支部

~~~~~ 記念行事 ~~~~~

《記念講演会》 午後2時10分～午後3時20分

テーマ 「健康食品およびサプリメントの功罪」

講師 岐阜薬科大学

教授 平野 和行

《記念式典》 午後5時00分～午後5時30分

次第

開会式

式辞 新潟県臨床検査技師会中越支部長 坂西 清

祝辞 新潟県臨床検査技師会長 松田 和博

新潟県臨床検査技師会中越支部顧問 栗原 貞次郎

来賓紹介

祝電披露

表彰 中越支部功労賞

閉式

《記念祝賀会》 午後5時35分～午後7時30分

次第

挨拶 新潟県臨床検査技師会中越支部長 坂西 清

乾杯 新潟県臨床検査技師会中越支部顧問 小林 元康

祝宴

閉会 新潟県臨床検査技師会中越支部顧問 山崎 将宏

社団法人 新潟県臨床検査技師会中越支部
発足50周年記念 表彰者御芳名

(敬称略)

中越支部功勞表彰

佐藤賢吉 (役員歴18年)

山崎將宏 (役員歴20年)

富永一郎 (役員歴11年)

岩本久司 (役員歴11年)

長谷川利春 (役員歴14年)

山口勇司 (役員歴16年)



社団法人新潟県臨床検査技師会中越支部発足50周年記念式典



式辞 坂西中越支部長

中越支部功労者表彰



佐藤賢吉 様



山崎将宏 様



富永一郎 様



岩本久司 様



長谷川利春 様



山口勇司 様



祝賀会挨拶 坂西中越支部長



乾杯 小林顧問



在朝滿蒙臨休校宜故師云中越文部先足50周年記念式典 祝賀会







閉会 山崎顧問



中越支部50周年記念式典・祝賀会終了にて記念撮影



受賞記念講演 厚生連魚沼病院 反町彰志技師



記念講演会

社団法人 新潟県臨床検査技師会／中越支部表彰歴

【中越支部長賞（感謝状）】

- ・ S47. 03. 25 栗 原 貞次郎 支部長 16年（役員17年）
- ・ S60. 03. 23 佐 藤 賢 吉 支部長 7年（役員18年）

【中越支部功労賞】

- ・ H03. 12. 08 栗 原 貞次郎 支部長 16年（役員17年）
- ・ H03. 12. 08 小 林 元 康 役 員 21年
- ・ H18. 12. 09 佐 藤 賢 吉 支部長 7年（役員18年）
- ・ H18. 12. 09 山 崎 將 宏 支部長 6年（役員20年）
- ・ H18. 12. 09 富 永 一 郎 役 員 11年
- ・ H18. 12. 09 岩 本 久 司 支部長 2年（役員11年）
- ・ H18. 12. 09 長谷川 利 春 役 員 14年
- ・ H18. 12. 09 山 口 勇 司 役 員 16年

編集後記

「一口で50周年」大変な歴史だと痛感しているところです。

記念誌を作成するにあたって各方面から心に残るご寄稿をいただき感謝するしだいであり、ますとともに紙面を通じ厚く御礼申し上げます。

中越支部35周年で大先輩たちの残された歴史を後世に引き継ぎ残さなければと、当時の山崎支部長をはじめ、栗原顧問、小林顧問を中心にかなり古い資料を基に手分けして、やっと完成させたような記憶があります。そうこうしているうちに40周年記念研究会があり、そしてこのたびの50周年を迎えました、中越支部の役員になった方達の思い出はたくさんあると思います、当時概ね日赤で会議がありましたが、小千谷総合病院でも会議及び資料作成し、夕ご飯は小千谷で有名なお蕎麦屋さんで舌鼓をしたり、今は亡き青木千鶴さんと会議終了後は必ずラーメン屋さん、豚カツ屋さんと一緒に過ごしたような記憶があったり又は、会議に熱中して時間の経過も忘れ「セキュリティーが働き鍵がかかって出れなくなるぞ」と言われ、私のワゴン車の中で遅くまで缶コーヒーを片手に会議を続けていたような思い出もあります、かと思えば「ふれあい研修会」で温泉に入った時ですが、ある大柄な技師二人と一緒に温泉に入ったのですが、入った時は浴槽から温泉が溢れ出てゆったりしてましたが、二人が同時に湯船から出ると湯船が急に浅瀬になるのです！（名誉のために名前は申し上げられませんが）そんな思い出がふつふつと湧いてきて歴史を感じている所です。

検査技師会 色々と厳しい状況ではありますが、県臨技、各支部の連携をより強固なものにしながらお互い発展していければと思っております。

中越支部の歴史は 「素晴らしい先輩と」・・・

「よき同僚と」・・・

「頼もしい後輩に・(少しのお酒)」 恵まれ

今後とも永遠に発展し引き継がれていくものと確信しております。

最後に この50周年を待たずに数多くの功績を残され他界されました 先輩 同僚への報告と御冥福を心よりお祈り申し上げながら 編集後記とさせていただきます 大変ありがとうございました。

精神医療センター

長谷川 利春



50周年記念誌編集委員会



なまあい

平成19年1月発行

編集・発行／社団法人 新潟県臨床検査技師会 中越支部

事務局／〒947-0028 新潟県小千谷市城内4-1-38

厚生連魚沼病院 検査科内

発行責任者／坂西 清

印刷／〒940-0041 新潟県長岡市学校町1-9-21

株式会社 中央印刷